

**2025 大阪・関西万博を契機とした地方公共団体による
地域活性化に資する海外交流支援に係る施策の推進等に関する調査**

調査報告書

委託：内閣官房 国際博覧会推進本部事務局

受託：東武トップツアーズ株式会社 官公庁事業部

目次

1. 調査の背景と目的.....	3
2. 実施内容	4
(1) 事前広報.....	4
(2) 本事業に関する公募及び説明会等による事業の周知	4
(3) 調査対象自治体の選定	5
(4) 調査対象自治体の取組への伴奏業務	5
調査対象自治体の交流実施概要.....	6
実施報告書	8
(5) 全国の自治体に対する国際交流需要調査	141
3. 成果のとりまとめ	164
(1) 調査対象自治体内への波及効果	164
(2) 実施により達成できた成果.....	165
国際交流を開始・再開するにあたっての取組モデルを開発	165
万博国際交流プログラムに参加することへの意識向上	165
地域の未来を担う若者の国際感覚の涵養	166
(3) 相手国への波及効果.....	167
(4) 大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与	168

(5) 他の自治体への普及・展開方策について	170
交流事業実施にあたっての過程の評価	170
事業の達成に向けた実施体制	170
万博閉会後の事業継続性	170
(参考1) 交流テーマ別_調査対象自治体事例	172

1. 調査の背景と目的

2025 年国際博覧会は、20 年ぶりに我が国で開催される国際博覧会である。諸外国の関心も高く、現時点で 142 の国・地域の参加表明が得られている。

国際博覧会は、かつては、各国の産品や最新の科学技術の展示を目的とするものであったが、近年は、人類共通の社会的課題解決を目的とするものになり、各国の団体や人々が相互に意見交換を行う機会の創出等の参加型のイベントも開かれるようになった。自治体や地域住民にとっても、大阪・関西万博に参加し、各国と交流をすることを通じて、地域の未来を担う若者の国際感覚の涵養、地域の魅力の再発見、住民間の結びつきの強化、地域産業の活力増強などが期待できると考えられる。

予定を 1 年延期して 2021 年に開催された 2020 オリンピック・パラリンピック東京大会では、500 を超える自治体がホストタウンとなり、参加国・地域の事前合宿や選手と住民との交流等を計画した。新型コロナウイルスの拡大によって交流が行えなかった自治体が多いものの、住民の国際交流に対する関心は高まった。

ワクチン接種の広がり等から国を超えた移動に対する制約が縮小する中で、オリンピック・パラリンピックを契機とした交流が行えなかった自治体及び自治体の住民の間で国際交流に対する意欲はなお旺盛と聞いており、2025 年の大阪・関西万博は、こうした自治体が国際交流に取り組む格好の契機となる。

他方、大阪・関西万博の機会を活用した国際交流事業の在り方については、国及び自治体における知見の蓄積が十分でないために、意欲ある自治体が参照できる取組モデルの開発を行う必要があることから、本事業においては、自治体における国際交流の取組事例を調査・分析し、地域の活性化に資する海外交流施策の係る先導的事例の横展開に必要な取組モデルの開発・精緻化を図りたい。

2. 実施内容

(1) 事前広報

大阪・関西万博を契機とした国際交流を検討している自治体を対象として、本事業への応募を促すために内閣官房のホームページでの広報や万博首長連合やホストタウンアピール実行委員会等へ広報の協力依頼をした。

(2) 本事業に関する公募及び説明会等による事業の周知

日 時 : 6月29日(木) 14:00~15:00

開催方法 : Zoom ウェビナーによるオンライン開催 (後日アーカイブ配信)

プログラム : 14:00~14:15 概要説明

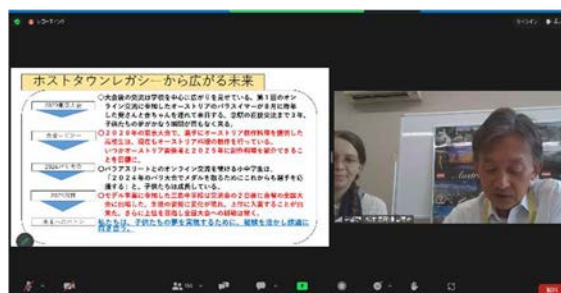
14:15~14:30 栃木県那須塩原市での令和4年度の実践紹介

14:30~14:45 兵庫県三木市での令和4年度の実践紹介

14:45~15:00 質疑応答

参加者 : 当日は、約 98 名の自治体関係者が参加

後日、アーカイブ配信した説明会動画は、約 270 回再生された



（３）調査対象自治体の選定

各自治体から提出のあった申請書をとりまとめ、選定委員会を実施。

内閣官房と選定委員 3 名のコメントをもとに、協議を行い 17 自治体の採択を決定。

日 時 : 8 月 28 日(月) 13:30~

開催方法 : AP 虎ノ門

プログラム : 挨拶

座長選定

議題 調査対象自治体の選定

閉会

選定委員 : 田和 正裕 大阪大学教授

松山 剛士 JICA 企画部イノベーション・SDGs 推進室長

比護 哲史 総務省自治行政局国際室参事官補佐

オブザーバ : 2025 年日本国際博覧会協会

河合 亜紀 機運醸成局地域・観光部地域連携課課長代理

（４）調査対象自治体の取組への伴奏業務

各自治体の計画書をとりまとめ、自治体が実際に取り組む事業の準備、実施、とりまとめにあたり、調査対象自治体に対し、打ち合わせ、アドバイス、関係団体への取り次ぎ、進捗管理や、ヒアリング等を実施。徳島県とカンボジアの交流事業にも同行し、イベントの観察と記録を行った。

各自治体で実施したイベントに参加した地域住民に対し、各自治体につき最低 1 回のアンケート調査を実施し、地域住民に対するイベントの波及効果についても分析を行った。

調査対象自治体の交流実施概要

自治体名	交流相手国	テーマ	
北海道 浦幌町	マリ	教育	マリ関係者が子どもたちの郷土愛を育む町の教育を体験、双方の子どもたちのサッカー交流等
山形県 村山市	ブルガリア	経済	ホストタウン交流を発展、特産品のバラの産業推進に向けブルガリアの調査等を実施
埼玉県 狭山市	韓国	文化	統営市においてコロナ禍で途絶えていた姉妹都市交流の再開に向けた意見交換
富山県	アイルランド	食・ウェル ビーイング	アイルランドにおいてサステナブルな美食文化の発信
石川県	韓国	文化	県内中学生の韓国派遣、全羅北道の芸能団の公演開催により、国際文化交流を推進 2025 年には、自治体参加催事等において、祭りの披露や文化団体の公演等を検討
長野県 駒ヶ根市	ネパール	文化	駒ヶ根市で市民向けのネパール語講習会やネパール料理教室などの文化体験イベントを開催
長野県 宮田村	韓国	教育	宮田中学校とソウル市・サンミョン中学校の学生が相互に訪問して互いの文化を学習
京都府	ベトナム	教育	府内大学生も参加し、フエにおいて、留学先としての認知度向上に向けた留学フェアの開催等 2025 年には、友好提携州省の学生達による「大学サミット」の開催等を検討
大阪府 堺市	チェコ	文化	市内の学校や施設でのチェコ人形劇の上演やチェコ文化の紹介
大阪府吹 田市	スイス	健康	市内研究機関とスイスのスタートアップ企業の交流、シンポジウム開催等 2025 年には、パビリオン関係者等を万博記念公園に招いて交流を検討
大阪府松 原市	韓国	セーフコミュニティ	韓国のセーフコミュニティチームと協力し、松原市において国内外の参加者を迎えてシンポジウム等を開催 2025 年には、若い世代も交えた交流を検討
大阪府 東大 阪市	ベナン、トーゴ、タン ザニア	経済	ビジネスフォーラムや文化イベントを通じ市民の多文化共生への理解を促進

大阪府 泉南市	フィリピン	環境	泉南市とダバオ市の子どもたちが地域資源や海浜の環境保全について学習、双方の企業等も協力
島根県 海士町	ブータン	教育	ブータンの高校生を招いて、地元高校生・町民とともに地域課題・地域創生を学習
徳島県	カンボジア	教育	青少年がリアル交流を行って互いの伝統芸能や食を知る 2025 年には、ナショナルデーイベント参加やテーマパビリオンとの連携を検討
大分県	英国	環境	大分県とウェールズとの水族館の交流、両水族館による大分県内小学生向けの海洋環境授業の実施
鹿児島県	ベトナム	多文化共生	県内で日本人住民と在住ベトナム人を対象に、ベトナム文化等の体験イベントを開催

実施報告書

浦幌町

プロジェクト名：

次世代が活躍するまち“北海道浦幌町”発！子ども真ん中プロジェクト(世代と国境を越えたりべラル
アーツの醸成)

交流相手国：マリ共和国

【事業実施にあたっての課題と背景】

(1) 交流相手国とのこれまでの交流経緯・調整状況

・マリ共和国「地方行政能力強化アドバイザー業務(MALICOT)」の令和5年度国別研修では、日本の地方行政システムと地方自治体と住民の協働による地方自治の在り方を学び、自分たちの自治体と住民との協働をより促進するようなアクションプランを作成するため、令和5年8月全国2地域で視察を実施。その一つの地域が「北海道浦幌町」となっており、計7名のマリ共和国の関係者が浦幌町訪れることになっている。

また、申請する本プロジェクトの事務局を予定している「一般社団法人十勝うらほろ楽舎」では、学び・働き方・コミュニケーションなど「新世代のための生き方」を提言されているマリ共和国出身のウスビ・サコ氏を招いてのまちづくり講演会の実施、及びそこでの浦幌町で官民協働で展開する独自のまちづくり事業「うらほろスタイル」の発信のあり方を検討していた。

そのような背景を受け、マリ共和国の研修で登壇し、まちづくり講演会での発信を検討していた浦幌町長井上亨が本事業へのエントリーを行うことを決め、万博を絡めた浦幌町の価値発信及びマリ共和国の課題解決へのサポートを行う。

(2) 取組に至る経緯と現状の課題

・北海道浦幌町ではこれまで官民協働で「次世代を軸した持続可能な地域づくり(うらほろスタイル)（十勝うらほろ創生キャンプ）」を行ってきた。その結果、出身者のUターン、移住者のIターンが加速し、全体としては人口減にも関わらず、若者の流入超過に至っている。また先の統一地方

選挙の結果、20代女性議員が日本一多い町としても注目が集まっている。しかしながら「若者が集まるまちづくり」「官民協働のまちづくり」が持つ価値をこれまで上手に伝えることができてこなかった。そんな中、昨今は他地域からの視察なども増え始めていて、令和5年8月には、マリ共和国「地方行政能力強化アドバイザー業務（MALICOT）」の研修を受け入れる。この研修は、浦幌町の大きな価値である若者と高齢者などの「世代間協働」や、自治体と住民の「官民協働」の在り方を学び、マリ共和国で暮らす自分たちの自治体と住民との協働をより促進するようなアクションプランを作成することがゴールとなっており、計7名のマリ共和国関係者が訪れることになっている。この機会を契機に、海外にも求められる価値（リベラルアーツの育成）の再確認と浦幌町の発信強化、及び他地域及び他国にできる貢献のあり方を検討していきたい。

※参考 YouTube①：<https://youtu.be/VOZFVO4q87o>

※参考 YouTube②：<https://youtu.be/52T8ZMq8q2E>

（3）課題解決に向けた基本方針

・課題解決に向けた基本方針は、浦幌町とマリ共和国それぞれが抱える課題の解決を同時に図っていくということ。課題先進国「ニッポン」の中の課題先進地である北海道「浦幌町」だからできることがある。

子どもを真ん中においた町独自の施策「うらほろスタイル」事業を展開して16年が経過し、たくさんの成果が見えてきた。「次世代を軸した持続可能な地域づくり」に欠かせない協働できれば、多くの不安要素を社会課題として抱えるマリ共和国の発展に貢献することができる。また本事業の実施を通じ、マリ共和国はじめ他国にも求められ、他国にも貢献できること（リベラルアーツの育成）が浦幌町にあることが伝われば、浦幌町の地域としての価値はさらに高まり、「持続可能な社会づくり」の実現に向けて浦幌町から世界に発信していく礎を本モデル事業で築くことができる。本事業では、万博の参加国であるマリ共和国の課題解決に貢献し、マリとの持続可能な関係構築をめざしながら、浦幌町の価値発信を強めていきたい。

【事業概要】

・マリと浦幌双方にとっての異文化・多様性の理解及び、「次に繋がる学びの場」を創出するシティープロモーションのため、

- ① 京都精華大学前学長ウスビ・サコ先生による講演会
- ② マリ共和国の方と一緒にマリ料理を食べながらの交流会
- ③ フットサル大会
- ④ マリ料理教室／マリ楽器体験
- ⑤ アフリカ・マリ雑貨販売／マリ伝統衣装の試着

などの文化・スポーツ交流「マリフェア in うらほろ」を開催した。

※講演会詳細は裏面をご確認ください。

講演会後の演奏会・交流会では、20人程度のマリ人がマリフェアを盛り上げます！皆さんの応援をお願いします。

TVでも有名なサコ先生が 浦幌町に来町します！

TBSテレビ「マツコの知らない世界」や、ニュース番組に出演！



各界からも注目！多くの書籍を出版しています。





書籍 浦幌町の皆さんと考える
多様性と持続可能な「共創社会」のあり方

2024. 2.23

(金・祝)

マリフェア1日目 開催時刻(当初の予定から16時に変更となりました。)

14:00~19:30 (受付開始 13:30)

開会式・講演会時刻 **14:00~15:40**

参加費 無料 (①開会式・講演会/②演奏会/③交流会 それぞれ申し込み制)

場所 浦幌町中央公民館

対象 地域の皆さま (年齢性別問わず)

マリフェア in うらほろ 開会式

14:00~ **ウスビ・サコ先生 講演会 (15:40終了予定)**
浦幌町の皆さんと考える 多様性と持続可能な「共創社会」のあり方

16:00~ マリの音楽演奏会)

17:15 ~ マリの方との交流会(マリ料理・演奏付き)

申し込み方法
(※2月21日まで)

①電話申し込み
お問い合わせからお申し込みください。

②Googleフォーム



QRコードを読み込んでお申し込みください。

③FAX申し込み

お振込の申込用紙に必要事項を記入し、お問い合わせからお申し込みください。

お問い合わせ

マリフェアinうらほろ実行委員会
(浦幌町役場まちづくり政策課)

電話：015-676-2112
FAX：015-676-2519
Eメール：mario@urahoro.jp

【事業内容】

- ・2024年2月23日（祝）～24日（土）開催
- ・交流会場の概要…浦幌町中央公民館（屋内）、浦幌町総合スポーツセンター（フットサル大会のみ使用）
- ・参加者の特徴…事前申し込み者のみでの集計となるが、町内からの参加者の割合が8割以上、十勝管内からの参加者の割合も1割ほどあった。年齢層は小学生が23%と多数を占め、大人の参加者の中では、30代～50代で参加の約半数以上を占めた。
- ・参加人数…約250人
- ・イベントの周知方法としては、チラシ・ポスター、広報誌の折込チラシでの告知を開催の1か月前より行ったほか、町でのLINE配信を1/29(月)、2/15(木)・HP掲載を2/29(月)、2/15(木)に行った。

また、2/20には地元新聞で「マリフェア in うらほろ」の開催が報じられた。

マリが浦幌にやってくる!

2/23(金・祝) 14:00 開会式・講演会
講師：ウズビ・ヤコ先生
16:00- マリの楽器で演奏会
17:15- マリの方との交流会
2/23-2/24 マリフェア
アフリカ雑貨の通販・マリ衣装の試着
参加申し込みはこちらから!

①電話申し込み ②Googleフォーム

マリフェア in うらほろ

浦幌×マリ共和国フェア開催のきっかけ
令和5年8月、JICAの研修でマリ共和国の研修員が浦幌町でまちづくりを学びました。その後、令和5年度万博国際交流プログラムに浦幌町が採択され、浦幌町とマリ共和国との交流を目的としたマリフェア in うらほろを開催することになりました。

2日間のマリ共和国との文化・スポーツ交流
日時：令和6年2月23日(金・祝) 14:00～
令和6年2月24日(土) 9:00～
会場：浦幌町中央公民館 参加費：無料

【交流会活動の内容】

①開会式およびウスビ・サコ先生講演会

- ・所用時間：1 時間 40 分（うち開会式 30 分、講演会は 1 時間 10 分）
- ・参加人数：177 名（マリ人、スタッフ含む）
- ・講演題目：浦幌町の皆さんと考える 多様性と持続可能な「共創社会」のあり方



ウスビ・サコ先生



講演の様子①



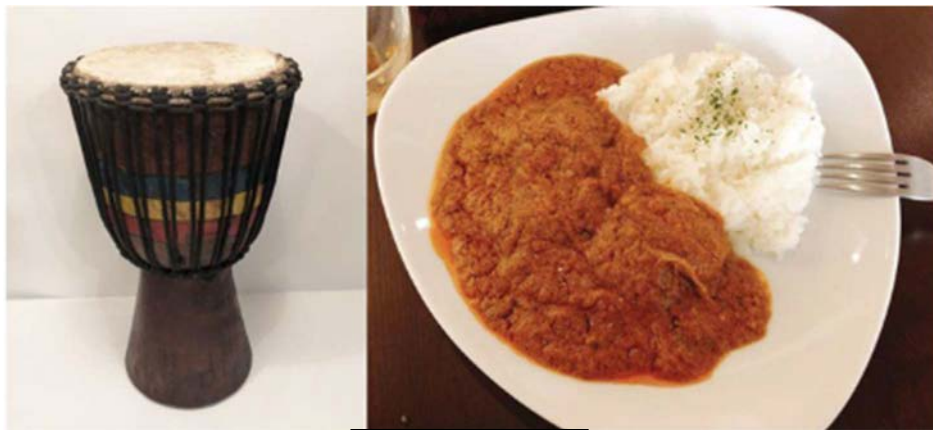
講演の様子①

②マリ音楽演奏会

- ・演奏時間：1 時間程度
- ・参加人数：160 名（アーティスト 4 名、マリ人、スタッフ含む）

③交流会

- ・所用時間：1 時間程度
- ・参加人数：122 名（マリ人、スタッフ含む）マリ共和国大使が料理をコーディネート。公邸料理人ら 5 名がマリ料理を参加者に振る舞う。メニューは 4 品 + デザート 1 品 + 飲み物 2 種。参加者はマリの方々と交流しつつ楽しんだ。



マリ料理

④フットサル大会（万博国際交流記念マリ共和国大使館杯フットサル大会）

- ・所用時間：3 時間
- ・参加人数：63 名（マリ人、スタッフ含む）
- ・マリ 2 チーム、浦幌 2 チーム、元北海道コンサドーレ札幌曾田雄志さん率いる元アスリートチームの 5 チーム総当たり戦とマリ共和国対浦幌の国別対抗戦を実施

⑤文化体験（料理・音楽・芸術）

- ・所用時間：2 時間 30 分
- ・参加人数：81 名（マリ人、スタッフ含む）

⑥靴を届けるプロジェクト

- ・参加人数：50 名程度
- ・集めた靴の数：152 足

【事業効果等】

- ・在日マリ人 20 名が来町、来場者・参加者述べ約 250 人が老若男女問わず多くの町民がイベントに参加
- ・靴を届けるプロジェクトでは、マリフェア期間中に 152 足の靴が集まった。現在、マリ共和国へ届ける準備（2024 年 5 月予定）を行っている。
- ・マリ人との交流を通じて、浦幌からできるマリへの貢献・マリから学ぶ日本社会の課題解決の糸口が見つかった。
- ・スケジュール通りに進行できない場合の参加者への対応、スケジュールの組み方。イベントを設計していく上での異文化理解。等の運営上の課題があらわれた。

【イベント以外の今年度事業について】

浦幌町では本事業以外でもさまざまな国際交流にかかる事業を行っており、その内容についてお知らせいただいた。

①「子どもの想いに寄り添う「うらほろスタイル」を体感！」

＜実施内容＞

- ・2023 年 10 月マリ共和国出身のウスビ・サコ氏を浦幌町へ招聘
- ・浦幌中学校の生徒が「うらほろスタイル」の「地域への愛着を育む事業」やコミュニティ・スクールを通し、総合的な学習の時間で考えた「地域活性化案（＝子どもの想い）」を発表する会への出席
- ・発表後の中学生と交流しミニ講話を実施
- ・マリ共和国と浦幌町間の次世代交流および今後のマリ共和国と浦幌町の交流に関してについて意見交換を実施し、マリ側のコーディネートの内諾を得る。

②「マリのサッカー少年に靴を届けるプロジェクト」

＜実施内容＞

- ・2024 年 2 月マリフェア開会式内でセレモニーを実施：元プロサッカー選手石川氏からマリ共和国大使館職員へ靴を託した。

- ・マリフェアを通じて 152 足の靴が集まり、マリ共和国へ届ける準備中
- ・2024 年 5 月事業コーディネーターがマリ訪問時に直接靴を届ける方向で調整を行っている。

③「子どもサッカー交流」

＜実施内容＞

- ・サコ氏が 2023 年 12 月にマリ共和国に渡航し、翌 2 月のマリフェアの調整を行った。将来的なマリ×浦幌の事業展開について、現地関係者（青年大臣や文化大臣等）と意見交換を実施した。
- ・〔現地関係者の反応〕マリ×浦幌の事業展開を歓迎する。国として位置づけて協力することを検討したい。
- ・2024 年 2 月マリフェアにてフットサル大会を開催。浦幌町内の子ども・大人・在日マリ人など多様な交流を予定していたが、町内中学生は感染症流行のため、当日不参加。町内の大人・在日マリ人の交流となった。
- ・サッカー交流については、来年度モデル実施し、再来年度の本格実施に向け調整を始めている。
- ・2024 年度は筑波大と早稲田大の学生と共にマリ人とコンサドーレのユースも合宿に参加するサッカー合同合宿を検討。

地域：浦幌内、対象：未定（UNDER20）

候補：マリ人 2 名、コンサドーレ札幌・筑波大学・早稲田大学サッカー部

- ・2025 年度はサッカー交流、音楽を通じた文化交流を行うサッカー大会(十勝)開催を検討。

地域：十勝全域、対象：未定（UNDER20）

候補：マリ人 20 名、コンサドーレ札幌・筑波大学・早稲田大学サッカー部

④「子どもの想い実現ワークショップ in マリ」について

- ・来年度は「子どもの想い実現ワークショップ in マリ×うらほろ」

【今後の展望】

浦幌町は、引き続き「次世代を軸した持続可能な地域づくり」を軸に、多くの不安要素を社会課題として抱えるマリ共和国の発展に貢献することを目指す。そのために、次世代人材のリベラルアーツの育成も視野に入れ、万博国際交流プログラムを通じ、その効果が見込める「子どもの思い実現ワークショップ」をマリ共和国及び浦幌町で継続的に実施していく。またこのような価値ある事業展開をすることができれば、浦幌町の地域としての価値はさらに高まり、「持続可能な社会」の実現に向けて浦幌町から世界に発信していくこと可能となり、様々な関係機関と連携しながら、マリ共和国のみならず世界に発信し貢献していくことを目指していく。今年度のみの一時的な国際交流に留まらず今年度事業で得られた関係者からの協力をもとに、次年度以降も浦幌町およびマリ共和国の地域としての価値を高め、次世代人材となる青少年の相互の成長を促進するためにも、継続した交流を行っていく。

万博会場内では、浦幌町にあるフォレストデジタルという企業が提供しているサービス「uralaa（うらら）」を使ったイベントの開催を検討している。「uralaa（うらら）」とは「ひととき旅行」ができる没入自然空間である。その空間にただで、誰もが旅するような没入体験を実現できる。具体的には、①R6 年度に想定しているマリ共和国の子供たちとの交流（サッカーなどのスポーツ交流）の様子、②子どもたちがマリ共和国で撮影（360 度カメラで撮影）した景色や祭り・音楽イベントなどの動画コンテンツ、③マリ共和国の子供たちと交流した浦幌の子供たちが撮影した浦幌の景色や祭り・音楽イベントなどの動画コンテンツをイメージ。各複数の動画コンテンツを上映していく。この子どもたちがふるさとの PR をするために撮影した動画を大人たちが受け取り、国際交流の万博の場で上映することは、マリ及び浦幌の子どもたちへの誇りの醸成につながる。合わせて、浦幌町で十数年続けている「子どもの思いをカタチにする」まちづくりについて、その価値を発信していく。

【参考 URL】

①「マリフェア in うらほろ」開催のお知らせ

<https://www.urahoro.jp/oshirase/2023/2024-0129-1601-128.html>

②十勝毎日新聞

<https://kachimai.jp/article/index.php?no=603642>

<https://kachimai.jp/article/index.php?no=604355>

③東京新聞

<https://www.tokyo-np.co.jp/article/311079>

④ヤフーニュース

<https://news.yahoo.co.jp/articles/2dcd2294adb55de4ff9e870877dab5a61fda4dc9>

村山市

プロジェクト名

山形県村山市×ブルガリア「バラ、ヨーグルト、新体操」のまち市民交流プロジェクト

交流相手国:ブルガリア共和国

【事業実施にあたっての課題と背景】

(1) 交流相手国とのこれまでの交流経緯・調整状況

・ブルガリア共和国の国の花が「バラ」、村山市の市の花も「バラ」が縁で、東京五輪の事前合宿のついで、村山市とブルガリア新体操連盟が2016年10月に基本合意書(2017年3月に東京五輪交流応援協定)を取り交わし、同年12月に東京五輪ホストタウンに正式登録。2017年～2019年、2021年の計4回の事前キャンプ「ROSE CAMP(ローズキャンプ)」を実施した。

2020年はコロナ禍でキャンプを中止したが、オンラインで交流するなど、継続的な応援をつづけた。その結果、目標とするブルガリア新体操初の「オリンピック金メダル」を獲得した。ROSE CAMP期間中においては、市民や児童生徒、企業、他自治体と幅広く連携し交流を行ってきた。2017年には村山市と、(株)明治とが支援協定を締結、同年「ファンクラブ」を結成、2019年には村山市初の新体操クラブチーム「むらやま新体操教室」の設立、2020年には、「日本ブルガリア協会山形県村山支部」が誕生し、市民に根付いた組織設立や活動が行われている。また、文化交流としてブルガリア民族合唱団コンサートやブルガリア写真展の開催など、交流内容についても幅広い市民レベル交流が続いている。産業面でも、新たに「ダマスクローズ」系のバラの苗木づくりに取り組む農家が複数誕生し、日本国内産は珍しい「ローズ・ウォーター」から「ローズ・オイル」の生産にまで発展している。このことと相まって、日本有数の「東沢バラ公園」においても、「香りの強いバラ」の植栽にも力を入れ、毎年実施している、バラまつり期間中のブルガリア・フェアでは、ブルガリアワインなどブルガリア関連物産販売するとともに、村山市企業独自の開発も行っている。

東京五輪の際には、コロナ禍で無観客開催により市民交流が延期となっていたが、本年 2023 年 6 月 26 日～7 月 2 日、東京五輪事後交流(金メダル獲得凱旋)で金メダリストが村山市に訪問し、5 回目の ROSE CAMP が行われ、金メダリストと子供たちとの「夢」の交流を実現し、市民をはじめとした有志により建立した「金メダル獲得記念碑」のお披露目や祝勝の交流が各所で行われ、メインイベントとなる公開演技会では金メダリストの演技により会場を魅了した。

今後の計画として、東京五輪をきっかけとしたブルガリアとの縁をスポーツ以外の分野に応用し、特に村山市の産業発展のため、万博の趣旨に賛同し、参画について各所と交渉調整するとともに、万博に向けた準備と持続的な関係構築をしながら、本年 9 月 24 日～30 日に村山市長を団長とする市民訪問団を結成し、ブルガリア共和国を訪問する計画をしている。そのほか、ブルガリア人によるピアノコンサートや日本語弁論交流を通して、文化交流による国際理解をはかりながら、万博に向けた相互理解と PR を行う。

(2) 取組に至る経緯と現状の課題

・東京五輪ホストタウンとして、村山市は全国の先駆者として内閣官房の各種表彰を受け、最前線で活動を行ってきた。これまでの活動を受け、ホストタウンとしての地域での盛り上がりだけでなく、県内各地のホストタウンとの連携、県外ホストタウンとの横連携、株式会社明治様をはじめとした数多くの企業連携等、つながりが多くノウハウがある自治体でありながら、少子高齢化や人口減少により人口規模が小さく一般財源での継続した予算確保が難しい状況である。東京五輪から万博という大きな目的を切り替え、万博の力を借りて、特に東京五輪のスポーツ振興から万博の産業振興に目的も転換し、村山市の交流人口の拡大や地域振興を図りたい。

(3) 課題解決に向けた基本方針

万博事業の力を借りて、東京五輪ホストタウンでのノウハウときっかけを活用し、大阪万博事業も活用しながら、関係人口を拡大させ、ブルガリアとの相互の交流関係をより強固にし、市民が直接関わる人々を増加させることにより、持続可能な関係、体制の構築をめざす。

【事業概要】

・東京オリンピック・パラリンピックなどを通して、交流のあるブルガリア共和国とのさらなる交流をはかるための事業として、

①ブルガリア共和国交流市民訪問団

②日本語弁論大会村山発表会

③ピアノ・リサイタル(芸術文化交流特別演奏会)

を行った。

・これらの催しは YBC 山形放送局、山形新聞社などのマスコミ各社により報じられた。



東京オリンピック・パラリンピックなどを通して、村山市とブルガリアは様々な交流活動を行っている。

村山市スポーツフェスティバル ROSE CAMP 2023

ブルガリア新体操ナショナルチーム 公開演技会 2023

Bulgaria's National Rhythmic Gymnastics Team presents
ROSE CAMP Public Performance 2023

020 TOKYO

期日 7月1日(土)
1 July 2023

開演 13:30 (開場12:00)
13:30 (Venue entry from 12:00)

会場 山形県村山市民体育館
アリーナ (全席自由)
Moriyama Municipal Gymnasium

実行委員 日本女子体育大学 新体操部
Japan Women's College of Physical Education RG Team
むらやま新体操教室
Murayama RG Club

入場料 ガイドブック付
前売 1,000 円 (当日 1,500 円)
【チケット特徴】
・座席指定
・当日券は1,500円
・当日券は1,500円
・当日券は1,500円
・当日券は1,500円

チケット 全席自由 / 5月15日(月)より販売開始
販売会場 村山市役所 生涯学習課 TEL 0237-55-0111 (FAX 0237-55-0112)

お問い合わせ 村山市役所 生涯学習課 TEL 0237-55-0111 (FAX 0237-55-0112)

主催 村山市 村山市民体育館 ブルガリア新体操ナショナルチーム

【事業内容】

①ブルガリア共和国交流市民訪問団

- ・東京五輪ブルガリア新体操チーム金メダル獲得のお祝い、村山市民の更なる国際理解、万博に向けた現状調査、万博での出展可能性の探求、万博をきっかけとした産業振興の可能性探求など、過去から現在へのつながりと現在から未来へのつながりの両面から交流をはかった。
- ・令和5年9月24日（日）～9月30日（土）開催
- ・参加人数 約20名（費用：1人45万円程度。費用50万円で、5万円を市が補助）
- ・参加者の特徴・特性など…村山市民を中心とする山形県民（60代～80代）。これまでのブルガリアとの交流に積極的に参加し、興味関心が大いにある者が主体と
- ・交流会場の概要など…ブルガリア共和国（在ブルガリア日本国大使館・ブルガリア新体操連盟・ブルガリア中小企業促進庁・ブルガリアローズ社など）
- ・市広報誌、関係団体（日本ブルガリア協会山形県村山支部など）への直接案内などで参加者を募った。

②日本語弁論大会村山発表会

- ・ブルガリア共和国で開催されている日本語弁論大会の優勝者1名を日本へ招待する事業を日本ブルガリア協会がおこなっている。これと連携して、村山発表会を実施し、日本語での発表を聞くとともに意見交換を行い、異文化理解と国際交流をはかった。
- ・令和5年11月21日（火）開催
- ・参加人数 約50人
- ・参加者の特徴・特性など…日本ブルガリア協会山形県村山支部会員、20代～70代の村山市民が主体
- ・交流会場の概要など…LinkMURAYAMA1階リビング前面
- ・市HP、村山市観光物産協会HP、案内文（日本ブルガリア協会山形県村山支部会員、村山青年会議所会員など）で参加者を募った。

③ピアノ・リサイタル

・東京都でのピアノ・リサイタルのため、来日中のラドスラフ・ニコロフ氏を主管団体である日本ブルガリア青少年交流会と連携し、同プログラム内での村山講演を実施。村山市で、市役所表敬訪問、ピアノ・リサイタル、懇談会（意見交換会）を実施することで、国際交流と文化交流の両面から交流をはかった。

・令和 5 年 12 月 10 日（日）開催

・交流会場の概要など…村山市民会館大ホール 定員 900 名（車いす入場可）

・参加者の特徴・特性など…村山市民を中心とする幼児以上山形県民（一部県外者も来場）

・市 HP、村山市観光物産協会 HP、案内文（村山市芸術文化協議会、市内ピアノ学習者など）で開催を告知した。



弁論大会の様子



ピアノコンサートの様子

【交流会活動の内容】

①ブルガリア共和国交流市民訪問団

- ・在ブルガリア日本国大使館…表敬訪問、万博打合せ
- ・ブルガリア新体操連盟…懇談、意見交換、懇親会（2部制）
- ・ブルガリア中小企業促進庁…万博打合せ、ヒアリング
- ・ブルガリアローズ社（カルロヴォ市）…産業交流、意見交換



ブルガリア訪問の様子

②日本語弁論大会村山発表会

- ・優勝者のアミル・アミリ氏による村山市役所表敬訪問後、会場にて、来賓挨拶、アミル・アミリ氏による講演「ブルガリアで将棋をする意義」、将棋交流（対戦：村山市将棋連盟 井澤 仁志氏）、懇談会（日本ブルガリア協会山形県村山支部主催）が行われた。

③ピアノ・リサイタル

- ・ラドスラフ・ニコロフ（ピアニスト）、イリヤナ・コストヴァ（通訳・司会）による村山市役所表敬訪問
- ・ピアノ・リサイタルと懇談会（意見交換会）。

【事業効果等】

①ブルガリア共和国交流市民訪問団

- ・ブルガリアを訪問することで、参加者の国際理解とブルガリアとの更なる親交を深め、コネクションをより強固にすると同時に、万博に向けた新たなコネクションを作ることができた。
- ・直接面会することで、多岐にわたる情報収集ができ、こちらからの情報提供も合わせて充実した渡航となった。
- ・市民は、自費でお金を払っているためゆっくり観光がしたいという想いがあったが、職員は打合せがあるためタイトなスケジュールになった。
- ・大使館やブルガリア新体操連盟など普段市民が行けないところを訪問したことは好評であった。
- ・各所でそのトップと会談することができた。物事を円滑にかつ迅速に実施するためには、直接会っての打合せが最も効果的であることを改めて感じた。

②日本語弁論大会村山発表会

- ・満席で立ち見ができるほど盛会であった。
- ・内容として、日本人とは違った視点での研究・表現方法・考え方があり、テーマが将棋であっても日本人の参加者が初めて知る内容が多く、内容の視点もわかりやすくかつ面白いものであった。
- ・将棋交流では、会場の時間切れにより勝敗はつかなかったが、新鮮な様子で対局し、視聴者も村山市将棋連盟会長の解説を聞きながら交流を楽しんだ。
- ・全体を通して、費用対効果の高いイベントとなった。

③ピアノ・リサイタル

- ・想定数の人が集まり、盛会であった。
- ・文化交流としても有意義であったが、ブルガリア人としての表現力・表現方法に参加者より多くの喜びの聲が寄せられた。
- ・全体を通して、日本ブルガリア青少年交流会との連携や集客数など総合的に文化交流や国際交流をはかるために費用対効果の高いイベントとなった。

【今後の展開・取り組み】

①ブルガリア共和国交流市民訪問団

・今回は、状況調査をメインとしての渡航であったが、話の中で次のステップの話があった。日本では、どちらかというと先読みをした事前準備をして、現場での判断は慎重にするが、ブルガリアでは、切羽詰まってから準備をするがその場での判断が早いという仕事の進め方の違いがあるため、うまく物事を進めるために、その場で判断できる情報をもう少し集められるとより充実した打合せができたと感じている。

②日本語弁論大会

・弁論発表に必要な機材は日本の発表会と同様の仕様で十分であり、日本でのイベントのノウハウを軸に実施できた。事前準備としての要望が、発表直前にあった。お互いに常識を共有していないことを強く意識し、事前準備や本人へのヒアリングをより具体的に行っていればより良い準備となったと感じている。今回の成果や課題をもとに次回事業につなげていきたい。

③ピアノ・リサイタル

・言葉を交わさない媒体で、文化交流、国際交流ができ、準備から実施まで問題なく実施することができた。

・会場が広かったため反響具合、音量など入念に確認する必要性があった。海外の方は事前の現場確認に余裕があるわけではなく、HP等で調査することも難しいため、事前準備として相手の要望を聞くだけでなく、こちらの情報もよりきめ細かに共有して相手のイメージづくりをどれだけできるかが大切だと感じた。

【今後の展望】

村山市は、今後、ホストタウン交流から続いている新体操選手を通じての交流だけではなく、村山市とブルガリアの最大のキーワード「バラ」に焦点をあてた、両国の産業振興に繋がるような交流の実施を目指している。また、交流両国の文化や資源を再確認し新たな文化交流を実施することで、相互の文化交流を促進し、万博を契機に両国間の継続的な

交流の構築をめざす。そのために、本年度の渡航の成果として挙げられる新たなブルガリアとのコネクションを活用したり、両国大使館や日本ブルガリア協会、企業連携など産官学連携を検討したりと、つながりを持った事業を展開し、より強固な連携関係の構築をめざす。

万博会場内では、万博国際交流プログラムに参加するきっかけでもあり、東京オリンピック・パラリンピックから継続している、ブルガリア新体操選手（又は連盟スタッフ）とむらやま新体操教室の交流紹介をブルガリアパビリオンブース内で実施することを目指している。

【参考 URL】

①村山市～万博国際交流プログラム・モデル事業～

<https://www.city.murayama.lg.jp/kurashi/kokusaikouryuu/manabi20231102.html>

狭山市

プロジェクト名：

姉妹友好都市交流事業

交流相手国:大韓民国

【事業実施にあたっての課題と背景】

(1) 交流相手国とのこれまでの交流経緯・調整状況

・大韓民国 慶尚南道 統営市(トンヨン市)【姉妹都市提携日】忠武市(旧統営市)1973年7月4日 統営市 1995年10月1日 ※忠武市が統営郡と合併

埼玉県西部地域の特産品「狭山茶」の産地である狭山市に対し、外務省を通して忠武市からお茶の栽培に関する相談を受けたことをきっかけに交流が始まり、1973年7月に忠武市(現統営市)と姉妹都市を提携し、日本と韓国の姉妹都市交流では、国内で4番目に長い歴史を持っている。1995年10月に忠武市が統営郡と合併し、統営市となった後も、50年以上に渡り、市民、文化、産業、スポーツ、行政など幅広い分野において交流を続けている。

(2) 取組に至る経緯と現状の課題

・隣国同士であるアクセス面でのメリットを活かし、学生同士でのスポーツの交流や市民同士での文化・芸能の交流、行政間での教育に関する情報交換や行政視察など多岐に渡る交流を実施していきたい。

(3) 課題解決に向けた基本方針

・姉妹友好都市を提携する各都市との間における生活文化や伝統芸能・芸術、観光事業、地域産業の活性化に寄与する取組などを通じて対面による交流を再開することが非常に重要であると考えている。このことにより狭山市と各都市における市民、事業者、行政などの関係性を一層深めることに繋がり、強い絆と持続性の高い国際交流関係を構築していきたい方針である。

【事業概要】

・姉妹友好都市交流事業（統営市）として
2023 年 10 月に公式訪問団を狭山市から統営市へ派遣(令和 5 年度 1 回目事業分)し、
2024 年 1 月に行政視察団の狭山市から統営市への派遣事業を実施（令和 5 年度 2 回目事業分)した。



港町・統営市

【事業内容】

①公式訪問団・友好訪問団

- ・令和 5 年 10 月 25 日（水）～10 月 27 日（土）開催
- ・姉妹都市提携 50 周年を機に、コロナ禍で中止していた交流を再開し、両都市の関係をさらに発展させたいというチョン・ヨンギ統営市長からの招待を受け統営市を訪問
- ・参加者の特徴・特性など…小谷野市長、三浦市議会議長、野口狭山市国際交流協会会長（以降、SIFA 会長と表記）。狭山市国際交流協会が募集した統営市友好訪問団 14 名
- ・交流会場の概要など…統営市役所
- ・市 HP、村山市観光物産協会 HP、案内文（日本ブルガリア協会山形県村山支部会員、村山青年会議所会員など）で参加者を募った。

②行政視察団

- ・令和 6 年 1 月 24 日（水）～26 日(金)開催
- ・参加者の特徴・特性など…吉田副市長、滝嶋教育長、自治文化課職員 2 名
- ・交流会場の概要など…統営市側が選定した施設等。

【交流会活動の内容】

①公式訪問団・友好訪問団

・統営市が選定し、重点的に取り組んでいる観光や文化、地域産業、SDGs に関連した施設等を視察

・統営市役所…初日に市長・議長訪問を訪問し、交流をさらに進化させたい旨を伝えるとともに、統営市長を狭山市政 70 周年式典に招待するとともに、大阪万博を機に交流事業を行いたい旨を伝えた。

最終日には窓口・事務室視察、議場視察、通報センター・監視センターを視察した。

・マリーナリゾートホテル…狭山市訪問団歓迎式及び統営国際交流協会創立 30 周年記念式として統営国際交流協会会員によるダンスが披露され、狭山市側も、公式訪問団と友好訪問団の合同による盆踊りを披露し披露し、親睦を深めた。

・ディピラン(夜間観光特化都市である統営市に相応しい景観スポット夜間観光施設)、三道水軍統制営・洗兵館、統営ケーブルカーなどの名所名勝視察、特産品である牡蠣の加工工場、漆芸美術館、統営国際音楽堂などを訪問した。

・親善訪問は 14 名の市民が統営市内の家庭にホームステイをし、各々交流を深めた。



友好訪問団の様子

②行政視察団

- ・今後の統営市との具体的な交流について協議するとともに教育施設（帝釈小学校、RCE、統営国際音楽堂）などを視察

※マスコミに対しては後パブを行うとともに、報告動画を作成した。

【事業効果等】

- ・2回の姉妹都市交流では、両市の今後の交流として、青少年交流や両市民の意見交換の場（オンライン）の創設に向けた具体的な交渉相手（統営国際音楽財団、持続可能発展教育財団）と繋がることができ、建設的な話し合いがなされたものであり、2回の訪問に分けたからこそその成果であった。
- ・対面交流の素晴らしさを実感するとともに、ここからは、コロナ禍を経て、単発ではなく継続できる取組として、オンラインの取組も同時に進めていきたい。
- ・令和5年10月の公式訪問時に、両市における交流の再開と今後の継続的な交流を確認したことにより、令和6年1月の行政視察では、文化や教育における具体的な交流内容を協議することができた。今後は継続した交流を行っていくものである。



公式訪問団の様子

【今後の展望】

本年度、行政視察団として渡韓した際に視察した教育施設や、青少年交流や両市民の意見交換の場の創設に向けた具合的な交渉相手、関係者との関係構築を進め、令和6年度の大韓民国統営市との交流を若年層にまで普及できるように発展させていくことを目指す。

狭山市は、これからの未来を担う子どもたちの国際意識・感覚を醸成するため、今後の具体的な交流事業について協議をし、異文化を全身で感じる素晴らしさや、再会を喜びハグをしたときの相手の体温を感じる大切さ等を体感できるような事業から検討していきたいと考えている。

万博会場内では、交流相手国のパビリオン内のイベント会場などで、狭山市と統営市の紹介やお茶のPR、多様な考え方を知るための意見交換の場として、オンラインイベント（パネルディスカッションなど）の実施を目指している。

【参考 URL】

①狭山市 姉妹都市・統営市

<https://www.city.sayama.saitama.jp/shisei/kokusai/yukokoryutoshi/tongyeong.html>

②狭山市国際交流協会

<https://www.sifa.saitama.jp/>

富山県

プロジェクト名:

アイルランドとのサステナブルな「ウェルビーイング」でつながる食交流(とやまの伝統と革新を融合した
的な美食文化の発信)

交流相手国 :アイルランド

【事業実施にあたっての課題と背景】

(1) 交流相手国とのこれまでの交流経緯・調整状況

・これまで交流実績なし。(隣国のイギリスでは、2022 年 11 月にプロモーションを実施した実績あり。)

在アイルランド日本国大使館(丸山則夫大使は富山県のご出身)サイドから本県に対してアイルランドとの交流の提案があった。

(2) 取組に至る経緯と現状の課題

・富山県では、2022 年 3 月に策定した「第 3 次県観光振興戦略プラン」のもと、インバウンド旅行者をターゲットとして、上質なライフスタイルに触れ多様な魅力を体感できることを売りとして、戦略的なプロモーションを行ってきている。2022 年 11 月には、イギリス・ロンドンにおいて、食や伝統工芸品をフックとした観光誘客プロモーションを実施したところ、現地の人々から好評を得た。JNTO ロンドン事務所によると、アイルランドにおいても日本への関心は年々高まっているが、現地で日本の地方文化に触れる機会はまだまだ少ないとのこと。また、本年 2023 年 6 月には富山県において食育推進全国大会を開催したところであり、県民の「食」に対する意識も高まっているところ。こうしたなか、本年 2023 年をアイルランドとの交流のキックオフの年と位置づけ、11 月にダブリンにおいて、ウェルビーイングでつながる食交流と題し、初のプロモーションを実施することとしたい。

課題としては、これまで交流実績がないこともあり、現地での TOYAMA の認知度はゼロに等しいと思われるため、効果的な宣伝・広報を継続的に行っていく必要がある。

(3) 課題解決に向けた基本方針

・アイルランド及び日本国内双方において、イベント等の際にはテレビ局・新聞社や観光事業者など関係者を幅広く招き、メディアや SNS を通じた情報の発信・拡散につなげる。また、交流の持続性の観点から、子どもたちを対象とした食文化イベントを織り込んでいく。

【事業概要】

・アイルランドの丸山大使（富山県出身）の協力のもと、ダブリンの大使公邸で食文化交流会を開催。富山県を知り、ファンになってもらうため、富山県の自然や歴史、食や宿などの魅力を紹介し、富山湾の新鮮な魚介類を使った寿司のデモンストレーションや試食を行った。地元のメディアや旅行会社の関係者など 25 名が参加し、富山県への関心を高めた。

【事業内容】

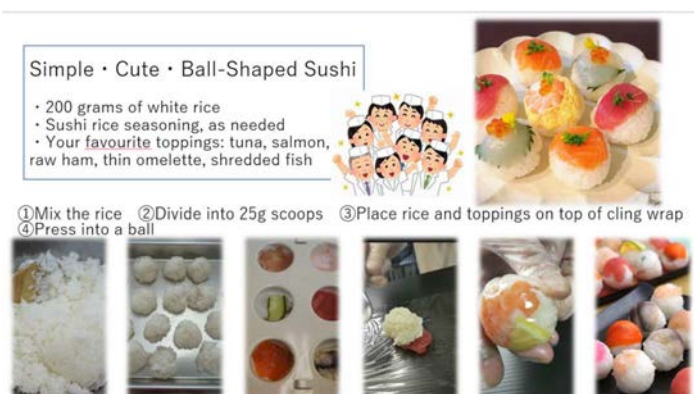
- ・令和 5 年 11 月 4 日(土)開催
- ・交流会場の概要…アイルランドのダブリンにある在アイルランド日本国大使公邸
- ・参加者の特徴・特性など…横田副知事や富山県内で人気の日本食レストランのオーナーシェフなどが参加

【交流会活動の内容】

- ①富山のサステナブルな「食」交流会
 - ・日本食レストランのオーナーシェフによるデモンストレーション・動画を流しながらおフリートークセッション・富山観光プレゼンテーション

②富富富(富山米)を使ったワークショップ

- ・富山県の PR・子どもたちによる体験（とろろ昆布のおにぎり、鰯寿司）・折り紙ワークショップ（富山のすしを PR）



- ・交流にあたっては、伝統工芸品を展示し、富富富（富山米）・地酒など輸出な食材をできる限り使用すると共に、観光 PR 用の資料や観光パンフレットを用意

- ・交流会の様子は北日本新聞等の地元紙や時事通信など多くのメディアに取り上げられた。

地元の小学生、すし握り挑戦 富山の「美食」PR—アイルランド

2023年11月05日20時30分 配信



握り方を教わりながら「手まりずし」を作るアイルランドの小学生（左）＝4日、ダブリン

【ダブリン時事】アイルランドの首都ダブリンで4日、富山県が食文化をPRするイベントを開催した。地元の小学生がすしを握るワークショップも行われ、子供たちが慣れない手つきで挑戦した。

今回のイベントは、豊かな自然や風土を誇る富山県が、こうした環境に育まれた美食文化をアピールして観光につなげようと企画した。特にすしは「漁場が近く、新鮮で魚の種類も多い」（横田美香副知事）と売り込みを図っている。



丸山則夫駐アイルランド大使の公邸で行われたイベントでは、授業で日本語を習っている小学生が、サーモンやマグロなどを使った「手まりずし」作りを体験した。すしをまだ食べたことがないという小学5年生のアディー・オブライエンさんは「丸く作るのが難しい」と言いながら、真剣な表情で手を動かしていた。

一方、酒輸入業を営むコリー・マリーさんは「日本酒はピザやパスタにも合う」と強調。今後の人気の高まりを予想した。



【事業効果等】

・食のパフォーマンスによる富山県の知名度アップ、その魅力と食文化をアピールし、富山県のファンを増やした。

【今後の展望】

富山県がアイルランドとの交流を通じて、相互の観光往来の拡大やそのことによる経済効果の発現など、富山県とアイルランドの双方にメリットのある交流となることを目指すとともに、子どもたちの相互交流を織り込むことにより、持続性可能性の高いものとしていく。また、ウェルビーイングについて相互に理解を深める交流を通して、富山ならではの上質な暮らし、伝統・文化・産業を欧米へプロモーションしていく。

万博会場内では、国内外で注目が高まるウェルビーイングに関して、全国に先駆けて行う富山県の取組みとあわせて、本県の自然・食・文化・産業等を国内外に向けて発信することで、「幸せ人口 1000 万〜ウェルビーイング先進地域、富山〜」を国内外に印象付け、本県への誘客と関係人口の増、様々な分野での新たな交流の創出に繋がるような交流イベントの実施を目指している。本年度の交流を経ても、あまり万博会場内での具体的な交流イメージが浮かんでいない印象を受けるため、継続的な伴奏業務が必要である。

【参考 URL】

①富山県 英国及びアイルランドでの観光セールス及び県産品輸出に向けた PR について
https://www.pref.toyama.jp/140111/press/2023london_toyamaweek.html

石川県

プロジェクト名

未来へつなぐ国際文化交流プロジェクト

・交流相手国:大韓民国

【事業実施にあたっての課題と背景】

(1) 交流相手国とのこれまでの交流経緯・調整状況

1991 年 1 月 石川県立歴史博物館と国立全州博物館が姉妹館協約書を締結

2000 年 6 月 人材交流（県職員の派遣、道職員の受入）を開始

2000 年 8 月 21 世紀石川少年の翼事業（中学生の派遣・受入）を開始

2001 年 9 月 「友好交流に関する合意書」を締結（行政、産業、学術・文化、スポーツなど分野で交流の推進）

2004 年 2 月 日中韓環境協カトライアングル事業（環境分野の意見交換）を開始

今年 8 月に石川県知事が全羅北道を訪問し、万博に向けて両地域のさらなる国際文化交流の推進を道側に依頼し、道からは快諾を得ている。

(2) 取組に至る経緯と現状の課題

・石川県には、藩政期以来培われてきた加賀百万石の伝統文化が今も息づくなど、生活に根差した、多様で質の高い文化が溢れていることに加え、オーケストラ・アンサンブル金沢をはじめとする、新たな文化の創造にも力を注いできた。人口減少、少子高齢化の課題に直面するなかで、地域の活力を高めていくためには、永い歴史に育まれた文化の国内外への発信、文化を通じた交流を一層盛んにする必要がある。

石川県と韓国・全羅北道は友好交流地域として 20 年以上の交流を続けており、また、日本海側の中央に位置する本県は、小松空港から仁川空港への定期便や、金沢港から釜山港への海上貨物輸送の定期便などの交流基盤も有している。

(3) 課題解決に向けた基本方針

・韓国・全羅北道との一層の国際文化交流の推進を図り、地理的にも近い韓国を中心に、万博を契機とした交流人口の拡大を目指す。

また、文化を通じた交流や石川の文化の国内外への発信などの文化振興施策を総合的に推進し、心豊かで潤いのある県民生活及び個性豊かで活力に満ちた地域社会の実現を目指す。

さらに、文化を通じた友好の輪が広がることは、ひいては世界平和につながるものであり、世界情勢が不安定な今こそ、文化を通じた交流の重要性について世界に訴え、「文化安全保障」を推進していく。

(4) 実施予定事業

・韓国・全羅北道との一層の国際文化交流の推進を図り、地理的にも近い韓国を中心に、万博を契機とした交流人口の拡大を目指す。

また、文化を通じた交流や石川の文化の国内外への発信などの文化振興施策を総合的に推進し、心豊かで潤いのある県民生活及び個性豊かで活力に満ちた地域社会の実現を目指す。

さらに、文化を通じた友好の輪が広がることは、ひいては世界平和につながるものであり、世界情勢が不安定な今こそ、文化を通じた交流の重要性について世界に訴え、「文化安全保障」を推進していく。

【事業概要】

・石川県の友好交流地域である韓国全羅北道から、道立国楽院の伝統芸能団を招へいし、一般県民に世界無形文化遺産に登録されているパンソリをはじめ、伝統舞踊や伝統音楽など韓国の伝統芸能を披露した。金沢アートホールにて本公演、県立図書館だんだん広場にてサブ公演を行った。



【事業内容】

- ・交流会場の概要…金沢市アートホール(収容 300 人)

県立図書館だんだん広場(収容 150 人)

- ・令和 5 年 10 月 21 日(月)に本公演、翌 10 月 22 日にサブ公演を開催

- ・参加人数 約 400 人

- ・参加者の特徴・金沢市及び近郊の住民。シニア層が多くを占めた。

- ・石川県広報(Instagram、X、HP、新聞)、石川県国際交流協会広報(HP、広報紙)、韓国観光公社大阪支社(X)、新聞広告、フリーペーパー広告、チラシ配布など多くのチャンネルから集客を行った。

おうち国際交流!

～ホストファミリーになってみませんか?～

USPとは——

「石川ジャパニーズ・スタディーズ・プログラム」の特性

日本語を学ぶ海外の大学生等を対象に、県内でホームステイをしながら、日本語授業と日本文化体験を実施する本県独自のプログラムです。

詳しくはこちら



プログラム——

1. ホストファミリーの受入れ経験談
 - ・ホームステイ後の日本語研修生との関係
 - ・ホームステイが子育てに与えた影響
2. 日本語研修生のホームステイ体験談
 - ・ホストファミリーとの交流で生まれた驚き
 - ・ホームステイで本当の日本を知る
3. ホームステイの疑問質問コーナー
 - ・事前に悩まされていた疑問にお答えします!

登壇者のご紹介——

1. ホストファミリー

上原 喜代子さん 井波 佳奈さん

2. 第27期マンフィールド・フェロー



ランス・ギヤリソンさん



ジェイミー・ライオンハートさん

マンフィールド財団とは——

アメリカ連邦政府職員を日本の海外に派遣し、日本の専門家を育成することを目的とする「マンフィールド・フェローシップ・プログラム」を実施しているアメリカの非営利団体。今回参加する2名は、第27期生として今年に約7週間、金沢市で日本語研修に参加。(日本への派遣期間は、本年7月～来年6月を予定。)

お楽しみ抽選会

終了後に番号札をお配りします!
韓国、アメリカのお土産をゲットしよう!



いしかわ 国際交流フェスタ

10.21

金沢市アートホール

第1部

12:30 開場

13:00～14:30 韓国全羅北道伝統芸能公演
～パルソリ・舞踊・音楽～

サブ公演 10.22 10:00～11:30
(※会場は図書館だんだん広場 ※無料(有料観覧し込み可))

全羅北道立国楽院 02-760-0000 <https://kukakwon.go.kr/>

成劇団：チュ・ヨンジュ(成劇団長)、キム・ヤミ(成劇団副団長)、チュ・セジョン、イ・ジョンソン、ユ・ジョン、パク・ヨンソン、キム・ドヒ、ユン・バク・セジョン、ユ・ヤンゴン、チュ・サムスン、キム・チュンスク、バク・チュウ、イ・セソン、ユ・セジョン、イ・ジョンイン 舞踊集団：ファン・スンジュ、イ・ハンゴン、パク・ダム、キム・キョンイン、イ・ジョン 演劇団：ヘ・スンヒョン (団長)、イ・セジョン、キム・ダヒョン (公演監督)、キム・ジョンヒョン、キム・ジョンダク、イ・宇志

【主催】石川県

【出演】전라북도립국악원

【協力】全羅北道

【後援】石川県国際交流協会

第2部

14:30 開場

15:00～16:15 おうちで国際交流!
～ホストファミリーになってみませんか?～

16:15～16:30 お楽しみ抽選会

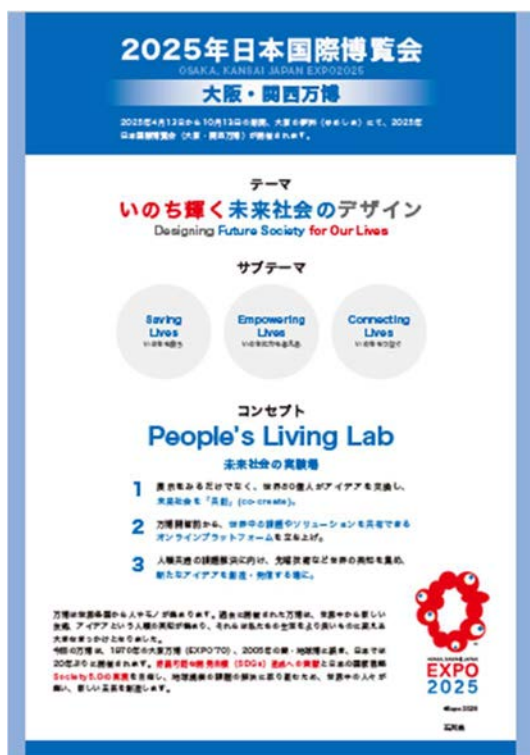
第2部終了後に番号札をお配りします!
韓国、アメリカのお土産をゲットしよう!

【主催】公益財団法人 石川県国際交流協会



【交流会活動の内容】

- ・ステージ上で、韓国全羅北道立国楽院伝統芸能団（20 人）によりパンソリや伝統舞踊、伝統音楽が披露された。
- ・公演パンフレット、韓国紹介冊子（韓国観光公社提供）などの配布物を用意し、より効果的な有意義なイベントとなるよう工夫がなされた。
- ・韓紙はがきを作成する伝統文化体験が行われ、全羅北道紹介冊子が配られた。
- ・その他、全羅北道紹介パネル、大阪・関西万博紹介パネル展示も開催



万博も一緒にアピール



国際交流フェスタ イベントのご案内

韓国全羅北道 伝統芸能公演

ー パンソリ・舞踊・音楽 ー

パンソリ、伝統楽器の演奏、伝統舞踊など、本物の韓国の伝統文化に触れる大チャンス！朝鮮半島の長い歴史の中で生まれた悠長の旋律を一緒に体感してみませんか？

メイン公演

場所：金沢市アートホール（金沢駅前ボルテ金沢6F）
 日時：10月21日（土）13:00～14:30（開場：12:30）
 料金：無料（要事前申し込み）
 ※当日参加も可ですが、入場者多数の場合は、予約の方が優先となります。

関連行事

北海道伝統の韓紙をつかった工芸品づくり
 金沢市アートホール入口付近にて、韓国の伝統工芸である韓紙を使った簡単な工芸品づくりを行います（予約不要）



サブ公演

場所：県立図書館 だんだん広場
 日時：10月22日（日）10:00～11:30
 料金：無料（事前申し込み不要）

【事業効果等】

- ・パンソリや伝統舞踊、伝統音楽など、普段日本では接する機会のない韓国の伝統芸能の鑑賞を通じて、県民の韓国文化の理解促進に効果があった。加えて、全羅北道の伝統文化（韓紙工芸）を体験できる機会や紹介パネルの設置を通じて、全羅北道への理解も深まった。
- ・大阪・関西万博パネルの設置等を通じて、大阪・関西万博の認知度が向上した。（※大阪・関西万博の認知度：「万博開催を知らなかったが、このイベントで知った」が26%に達した。）
- ・世界各国で、多数の公演実績のある韓国の伝統芸能団による大変素晴らしい公演で、「いしかわ百万石文化祭2023」関連事業として実施したことに加え、新聞やフリーペーパーへの広告掲載、SNSによる情報発信など積極的な広報を行い、多数の県民が観覧に訪れた。アンケートでの来場者の満足度も非常に高く、文化を通じた韓国の理解促進に効果があった。

～アンケート結果～

伝統芸能公演満足度「非常に良かった」、「良かった」	計84%
韓国伝統文化体験満足度「非常に良かった」、「良かった」	計66%
期待していたことは得られたか「期待以上だった」「期待通りだった」	計66%

【今後の展望】

石川県は、引き続き、両国の地域に根づいた文化を通しての交流や若い世代の交流などに取り組み、文化安全保障の理念に基づく取り組みを積極的に推進していく。

万博会場内では、EXPO アリーナを使用して、下記3点の内容を含むイベントの実施を目指している。

- ・地域の伝統的な祭りの披露や諸外国を含めた参加者による祭り体験
- ・韓国・全羅北道の文化団体公演を通じて、日本と世界との間の相互理解を促進

・文化安全保障をテーマとして万博会場から世界に向けて平和へのメッセージを強力に発信する

【参考 URL】

①石川県 いしかわ国際交流フェスタ

<https://www.pref.ishikawa.lg.jp/kokusai/events/festa.html>

駒ヶ根市

プロジェクト名:

ネパール文化交流事業 ～ネパールを体験する～

交流相手国:ネパール国

【事業実施にあたっての課題と背景】

(1) 交流相手国とのこれまでの交流経緯・調整状況

2001 年 国際協力友好都市協定締結

2008 年 ネパール交流市民の会がポカラ市に救急車と医療機器を寄贈（母子保健プロジェクト第1弾）

2015 年 JICA 草の根技術協力事業「母子保健改善事業」開始

2016 年 2020 東京オリパラホストタウン登録

2023 年 第2回駒ヶ根フォーラム（在ネパール菊田大使オンライン登壇、在日ネパールスベディ大使登壇）

2023 年 菊田大使と語る会開催

(2) 取組に至る経緯と現状の課題

- ・国際友好都市のポカラ市との継続的な交流
- ・市民レベルでの国際交流の促進

【駒ヶ根市 HP→<https://onl.bz/PWcqdx>】

(3) 課題解決に向けた基本方針

- ・当市は、全国で2つしかない JICA 青年海外協力隊の訓練所や青年海外協力協会 JOCA 本部があるまちとして、長い年月をかけて国際交流の取組を進めているが、今後ネパール国やポカラ市

の文化をより身近に感じることで、さらに国際交流・国際協力のまちづくりを市民に広く浸透させる。

（D E E P ネパール、D E E P ポカラ）

また、駒ヶ根文化をネパールへ発信する。

【事業概要】

・2025 年大阪・関西万博を契機に、国の万博国際交流プログラムを活用して、市の国際協力友好都市であるネパール ポカラ市の文化を、より身近に感じられる以下のような「ネパール文化交流事業 ～ネパールを体験する～」を開催した。

- ①ネパール語初級講座
- ②ネパール料理教室
- ③ネパール疑似観光体験
- ④ネパール文化交流会 in 駒ヶ根

・いずれも、市広報ツール（市報、ホームページ、市公式 LINE、メール）、地元新聞、有線放送、チラシ等で参加者を募った。

・一連の活動は、信濃毎日新聞、長野日報など各種メディアで取り上げられ、国際交流事業の持つ意義深さを感じる事となった。



【事業内容】

①ネパール語初級講座

- ・令和 6 年 1 月～2 月、全 4 回開催
- ・元 JICA 訓練所講師による無料ネパール語講座
- ・交流の場所…赤穂公民館
- ・参加人員 11 人
- ・参加者の特徴・特性など…市内外、小学 3 年生～60 代

②ネパール料理教室

- ・令和 6 年 1 月 27 日(土)開催
- ・ネパール料理教室で「ブラウ・カレーセット、チュカウニ、せんべい、ラッシー」などのメニューを学ぶと同時に、ネパールの紹介が行われた。(参加費 500 円)
- ・交流の場所…駒ヶ根文化センター
- ・参加人員 22 人
- ・参加者の特徴・特性など…市内外、小学 4 年生～50 代

③ネパール疑似観光体験

- ・令和 6 年 1 月 31 日(水)開催
- ・ネパール疑似観光体験：VR 観光体験、訓練所見学、JICA 訓練生との交流が行われた。
(無料)
- ・交流の場所…JICA 駒ヶ根訓練所
- ・参加人員 15 人
- ・参加者の特徴・特性など…市内外、小学生～50 代



④ネパール文化交流会 in 駒ヶ根

- ・令和 6 年 2 月 21 日(日)開催
- ・ステージ・各種ブースにてネパール文化への理解を深めた。
- ・交流の場所…駒ヶ根文化センター
- ・参加人員 200 人
- ・参加者の特徴・特性など…市内外・県内外の幼児～70 代。市長も参加した。そのほか、駐日ネパール大使などネパール関係者 20 名来駒し、イベントを盛り上げた。



【交流会活動の内容】

・ネパール文化交流会 in 駒ヶ根では、駒ヶ根市長・在日ネパール大使の挨拶のほか、ネパール紹介、ネパール語セッション、文化ステージ「ネパール歌手、在京ダンスグループ」、駒ヶ根太鼓披露・体験、ネパール語ゲームを行ったほか、料理販売、雑貨販売、衣装着付け体験、スパイス調合ワークショップ、写真展、映像放映を行う各種ブースを設置した。歌や舞踊の発表、料理の販売、民族衣装の試着などの体験を通じ、ネパールの文化について理解を深めた。

【事業効果など】

- ・国の事業として予算が確保できたことから、大きな規模での事業ができた。
- ・地域の資源や人材を活用して、料理や語学など身近な文化交流ができた。
- ・今後は学校を巻き込んだ事業や、両国の経済活動に寄与するような事業を行うことで、効果が高められると良いと思う。
- ・イベントの様子は多数のメディアで取り上げられた。

長野県 | くらし・話題 | 関係 | 駒ヶ根市

ネパール文化、楽しく交流 歌や舞踊、スパイス...家族連れでにぎわい 駒ヶ根市

2024/02/25 12:05 @ 駒ヶ根市

記事をクリックして開く

写真ビューアーで見る

駒ヶ根市と、国際協力に関わる地元団体などがつくる駒ヶ根国際交流事業実行委員会は24日、ネパール文化に親しむ交流会を市総合文化センターで開いた。駐日ネパール大使が招かれた他、現地の人気歌手2人などが歌や民族舞踊を披露。カレー用スパイスを作るワークショップ（参加型講座）も実施した。

ポカラ市と国際協力友好都市協定を結ぶ駒ヶ根市。2025年の大阪・関西万博を見据えた、日本政府の国際交流プログラム「モデル事業」に選ばれ、交流会を開いた。

会場では駒ヶ根市内のネパール料理店がブースを構えた他、市民らのグループが雑貨の販売もした。舞台では、駒ヶ根太鼓保存会が演奏した後、ネパールの歌手らが保存会の会員に教わりながら太鼓をたたいた。

ワークショップでは、コリアンダーやクミンなど10種類のスパイスを配合。参加した信州大付属長野小学校（長野市）5年の山口真流（まいせり）君（11）は「自分で合わせてスパイスを作るのが楽しかった。夕食のカレーに役立てたい」と話していた。

社会

ネパール文化に触れる 駒ヶ根で国際交流

社会 | 2024年2月25日 6時00分

いいね! | ポスト | 共有

駒ヶ根市と駒ヶ根国際交流事業実行委員会は24日、2025年大阪・関西万博の機運醸成を目的とした国際交流プログラム「ネパール文化交流会 in 駒ヶ根」を同市駒ヶ根文化センターで開いた。参加した住民ら約100人が、両国の歌や舞踊の発表、料理の販売、民族衣装の試着などの体験を通じ、ネパールの文化について理解を深めた。

市と同プログラム企画は、語学講座や料理教室に続いて3回目。今回は趣旨に賛同したドゥルカ・ババドゥール・スベディ駐日ネパール特命全權大使夫妻が出席したほか、大使が直接参加を要請した同国の人気男性歌手ラム・クリシュナ・ダカルさんと女性歌手マリカ・カルキさんが交流会のために来日した。

開会式で伊藤祐三市長は、過去に複数回、駒ヶ根を訪れているスベディ大使に「市と大使の関わりを大変うれしく思う」と歓迎。スベディ大使は「交流会を通じ、両国の関係が深まることを期待したい」とあいさつした。大使館と市の贈り物交換では、大使が伊藤市長に民族衣装の帽子「トビ」をプレゼントした。

ステージでは在日ネパール人の女性グループが民族舞踊を発表したほか、ダカルさんらが歌声を披露。会場ではネパールの唐辛子を調合するワークショップもあり、地元の家族連れでにぎわった。

駒ヶ根市は2001年、ネパール・ポカラ市と国際協力友好都市を締結。市民団体が現地で母子保健事業を実践する。こうした背景からは、ネパールとの万博国際交流事業を国に提案し採択された。



今年1月、富田中学校で記念撮影する同校と祥明中の生徒。本年度も相互に訪ねて交流する予定だ

2025年の大阪・関西万博を盛り上げようと政府が来年度に本格実施を予定する国際交流プログラムのモデル事業に、駒ヶ根市と富田村が選ばれた。同市はネパールの文化体験、同村は富田中学校が韓国ソウル市の私立祥明中学校との相互交流を先行して行い、全国の自治体と参加国の交流の参考にしてもらう。

内閣官房国際博覧会推進本部事務局によると、全国24自治体の応募から17自治体の提案を選出。県内では両市村のみ。参考事例を作るのに、1自治体当たり400万円を上限に国が調査費を交付する。

【今後の展望】

本年度実施した料理や語学などの身近な文化交流を万博に向けて継続していくことはもちろん、両市の学校を巻き込んだ子どもの教育交流や、ポカラ市と駒ヶ根市の経済発展に

もつなげていくことを目指す。また、本年度のネパール疑似観光体験のような交流も継続して行うことで、ネパール両国の観光などの相互交流を実施していく。

万博会場内では、ネパールのパビリオン内のイベント会場を使用して、下記 3 点の内容を含むイベントの実施を目指している。

- ・ネパールの文化的ダンスに挑戦
- ・ネパールの楽器及び駒ヶ根太鼓のセッション
- ・山をキーワードにした相互交流（観光政策のディスカッション等を検討中。
観光資源としてのオープンイノベーション創出を目指す）

【参考 URL】

① 駒ヶ根市 ネパール文化体感イベント開催

https://www.city.komagane.nagano.jp/gyosei/shiseijoho/jutenjigyo_project/okusaikoryu/banpaku/10588.html

宮田村

プロジェクト名:宮田村中学生海外派遣事業

交流相手国:大韓民国

【事業実施にあたっての課題と背景】

(1) 交流相手国とのこれまでの交流経緯・調整状況

・平成29年3月、宮田村はインバウンド誘致でサンヨン中学校を初訪問。日本の文化に大変関心をもった当時のサンヨン中学校校長が同年6月に宮田中学校を訪問し、宮田村の教育大綱「教育」、教育理念「自己をみる」などに共感され、宮田中学校の「校門での一礼」「一心不乱の清掃」「自問の時間」など、日本の礼儀作法を学校教育の中で指導し、それが伝統として受け継がれていることに感銘を受け、生徒にも学ばせたいという思いと開校80周年記念に宮田中学校との国際交流をスタートさせたいという思いから始まりました。

宮田村は中学校の国際感覚を養う上で良い機会と考え、平成30年8月に宮田中学校とサンヨン中学校は国際交流の覚書を交わした。

調整状況として令和4年度から再開し、令和5年度は12月25日から28日までの4日間、大韓民国へ訪韓し、1月17日に来日するサンヨン中学校の受け入れを予定している。

(2) 取組に至る経緯と現状の課題

・平成29年3月、宮田村はインバウンド誘致でサンヨン中学校を初訪問。日本の文化に大変関心をもった当時のサンヨン中学校校長が同年6月に宮田中学校を訪問し、宮田村の教育大綱「教育」、教育理念「自己をみる」などに共感され、宮田中学校の「校門での一礼」「一心不乱の清掃」「自問の時間」など、日本の礼儀作法を学校教育の中で指導し、それが伝統として受け継がれていることに感銘を受け、生徒にも学ばせたいという思いと開校80周年記念に宮田中学校との国際交流をスタートさせたいという思いから始まりました。

【事業概要】

・宮田村はインバウンド誘致でサンミョン中学校を初訪問。同中学校は同年 6 月に宮田中学校を訪問し、宮田村の教育大綱「教育」、教育理念「自己をみる」などに共感するとともに、それらが伝統として学校教育の中で受け継がれていることに感銘を受け国際交流をスタートした。宮田村も国際感覚を養う上で良い機会と考え、平成 30 年 8 月にサンミョン中学校と国際交流の覚書を交わした。

令和 5 年度は 12 月 25 日から 28 日までの 4 日間、大韓民国を訪韓し、1 月 17 日に来日するサンミョン中学校の受け入れを実施した。



2024 年 3 月 5 日

宮田村中学生海外派遣事業報告会を開催しました！

昨年 12 月 25 日から 28 日まで韓国ソウルで外国の歴史や文化生活など直接体験をしてきました！参加生徒 24 名はそこで学んだこと、身に着けたこと、将来に生かしていきたいことなどを 1 人ずつ堂々と発表してくれました。（宮田村 HP より）

【事業内容】

①サンミッション中学校訪問

- ・2023 年 12 月 25 日(月)～28 日(木)開催
- ・交流会場など…大韓民国ソウル市サンミョン中学校
- ・参加者の特徴・特性など…宮田中学校 2 学年生徒：24 名、引率者：宮田中学校 2 名、宮田村事務局 4 名。



サンミッション中学校訪問の様子

②宮田中学校訪問

- ・2024 年 1 月 17 日(水)
- ・交流会場など…宮田中学校
- ・参加者の特徴・特性など…宮田中学校 2 学年生徒：28 名
- ・プログラム運営にあたっての集客活動は以下の通り
派遣団員説明会時における「万博国際交流プログラム」の周知
事前学習時における「万博国際交流プログラム」の概要説明及び学習
渡航先で「JNTO（日本政府観光局）」へ本プログラムの説明及び協力依頼
令和 6 年 3 月 3 日本事業の村民報告会時における「万博国際交流プログラム」の概要説明
- ・一連の活動は、以下ように報道された。
令和 6 年 1 月 18 日長野日報：「印刷大手の TOPPAN が開発した「自動翻訳システム」を活用し、円滑にコミュニケーションを深めた。」

令和 6 年 1 月 18 日信濃毎日新聞：「交流は
25 年大阪・関西万博に向けた政府の国際交流プ
ログラムのモデル事業に選ばれ、万博ガイドツアーで
使われる音声翻訳サービスも活用した。」

令和 6 年 3 月 3 日本事業の村民報告会提出報
告書へ「2025 年日本国際博覧会（大阪・関

西万博）」の自動翻訳システム、多言語ガイドシステムを利用した取り組みを行っております。」を記
載

令和 6 年 3 月 5 日長野日報：「韓国の文化に驚き 宮田中 2 年が活動報告書」

【交流会活動の内容】

・宮田中学校とソウル市・サンヨン中学校の学生が相互に訪問して互いの文化を学習することを目
的とし、両校の生徒はそれぞれの学校で、「RemoteVoice®」を通してコミュニケーションを行い、相
互理解を深めた。

駒ヶ根市と宮田村、国際交流プログラムのモデル事業に 大 阪・関西万博

2023/09/04 18:35 有料会員記事

シェア 本ポスト 記事ブックマーク

記事をクリッピング



2025年の大阪・関西万博を盛り上げようと
政府が来年度に本格実施を予定する国際交流プロ
グラムのモデル事業に、駒ヶ根市と宮田村が選ば
れた。同市はネパールの文化体験、同村は宮田中
学校が韓国ソウル市の私立祥明中学校との相互交
流を先行して行い、全国の自治体と参加国の交

(残り449文字/全文582文字)



「RemoteVoice®」を活用した国際交流の様子

【事業効果など】

- ・今回参加した生徒一人ひとりが韓国の文化や環境を肌で感じ感動や驚きがあり貴重な経験をした。事業後に関するアンケート結果では「この事業を継続してほしい」「参加したい」などの回答が大多数を占め、たいへん理解を得られている。
- ・言葉や文化に違いに当初は戸惑いもあったものの身振り手振りや翻訳機を駆使し、意思疎通が図れた。
- ・村民含め、本事業の成果と万博国際交流プログラムへの展望を感じることができた。
- ・今後の考え方も「文化や言語、スポーツや芸術などの交流を通じて両校の生徒がお互いの文化に対しての理解を深め、両国の友好関係を構築する」という理念を念頭に取組んでいく。

【今後の展望】

本年度実施したサンミョン中学校と宮田村中学生の交流を軸に、文化や言語、スポーツや芸術などの交流を実施し、お互いの文化に対する更なる理解を深めていくことと、継続的な交流のために確固たる友好関係の構築を目指す。

万博会場内では、現状、交流相手国（韓国サンミョン中学校）と宮田村中学生の合唱開催（仮）を目指している。万博会場内での交流実現のために、次年度以降はより一層、万博関係者との関係構築も重要であるとする。

【参考 URL】

①トッパン 自動翻訳システム

https://www.holdings.toppan.com/ja/news/2024/01/newsrelease240126_2.html

②宮田村日記

<https://www.vill.miyada.nagano.jp/blogs/2629>

京都府

プロジェクト名:

大学のまち、学生のまち京都からはじまる「次代を担う若者交流（高校生、大学生）の促進」

交流相手国:ベトナム社会主義共和国

【事業実施にあたっての課題と背景】

(1) 交流相手国とのこれまでの交流経緯・調整状況

・ベトナム社会主義共和国トゥア・ティエン・フエ省（以下、フエ省という。）とは、互いに古都という共通点より交流がはじまり、平成 26 年 3 月に覚書を締結し、観光分野において人材育成プロジェクトを進めてきた。また、2 年毎に開催されるフエ・フェスティバルには、京都府の代表が定期的に参加するとともに、昨年には、新型コロナウイルス感染症対策の規制が緩和された際に、いち早くフエ省からの訪問団が京都府を訪問されるなど、これまでから積極的な交流を図ってきた。

今年 6 月に、「フエ古都遺跡群のユネスコ認定 30 周年およびフエ宮廷雅楽のユネスコ認定 20 周年を記念したイベント」に京都府国際課長が出席し、その機会を捉えて、今後の交流についてフエ省副委員長と協議をしてきたところ、更なる若者、教育分野での人的交流の促進について希望があった。

その他 7 州省についてはそれぞれの地域と「友好提携」を結び、文化・芸術、スポーツ、教育、医学、産業など様々な分野で交流・協力事業を行っている。

(2) 取組に至る経緯と現状の課題

・京都府では、これまで留学生の知識や経験を地域の活性化、国際化に活かすため、府内の大学と京都府、京都市、経済界などが一体となり、留学生誘致に積極的に取り組んできた。しかしながら、令和 4 年度の府内の留学生数は 1 万 4 千人と目標の 5 万人にはほど遠い状況であり、万博を機に今後より一層力を入れて世界各国からの留学生誘致に努めていきたいと考えている。

(3) 課題解決に向けた基本方針

・「古都」「観光都市」だけでなく、「大学のまち、学生のまち」として留学先としての京都の認知度を高め、親しみを深めてもらえるような交流を続けることで、若者人口が多く経済的にも成長を続けているベトナムなどの東南アジアの国々はじめ、世界各地から留学先や留学後の就職先の候補地として京都が選ばれるような取り組みを大学や経済界と協力して進める。

【事業概要】

- ・大学のまち、学生のまち京都からはじまる「次代を担う若者交流（高校生・大学生）の促進」のため、ベトナムのトゥア・ティエン・フエ省を訪問し、「京都文化と教育の日 in フエ」を開催した。
- ・会館内での留学説明会、日本語スピーチコンテスト優秀者によるスピーチ、学生祭典メンバーとフエ学生による踊りを披露したほか、会場周辺で文化や大学紹介のブースを設置し交流をはかった。

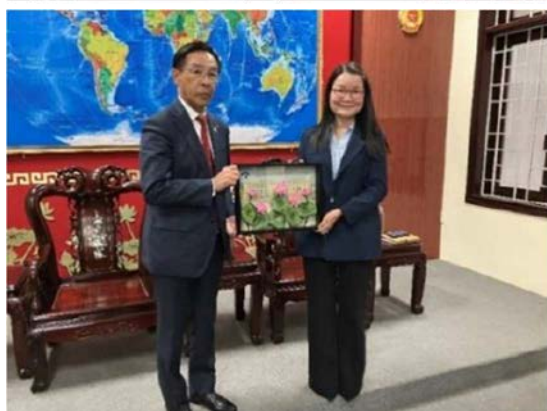


【事業内容】

- ・令和5年11月20日(月)～21日(火)開催
- ・交流会場の概要…フエ省立中心文化館
- ・参加人数 約540人
- ・参加者の特徴・特性など…京都府職員、公益財団法人大学コンソーシアム職員、京都学生祭典メンバー（大学生）。文化紹介者（ハノイ京都倶楽部会員茶道裏千家淡交会ハノイ同好会会員）、大学教職員(立命館大学 ASEAN 事務所職員、京都大学 GAB、京都産業大学 准教授)が参加
- ・フエ省外務局側から直接フエの各学校(高校・大学等)へ声かけにより集客が行われた。

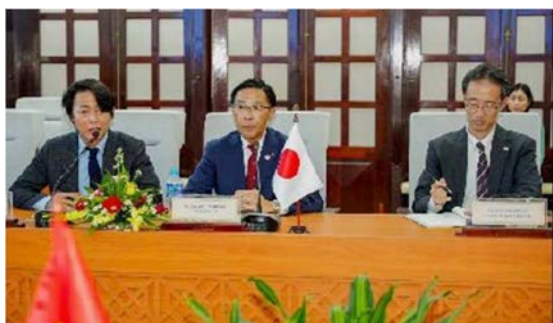
【交流会活動の内容】

- ・高校・大学訪問…クオック・ホック高校・フエ外国語大学を訪問し、両校の学校責任者や日本語教師などの関係者とフエ省外務局、京都府知事、大学職員、在ダナン総領事館職員などで学校説明、意見交換及び日本語授業の見学を行った。



高校・大学訪問の様子

・フエ省人民委員会委員長表敬訪問および覚書更新式…フエ省人民政府庁舎にて、フエ側は人民委員会委員長、外務局長、人民委員会理事所副所長、投資計画局副局長、観光局長、文化・スポーツ局副局長、訓練教育局局長、フエ古都遺跡保存センター所長、フエ省友好団体連合会副会長、京都府側は京都府知事、立命館大学、京都産業大学、在ダナン総領事職員などが出席し、今後の交流について協議、覚書の更新を行った。その際 TRT（Hue television station）から知事に取材が行われた他、ダナン総領事館の HP にも更新式の内容が掲載された。



- ・京都文化と教育の日 in フエ（京都フェスティバル）…京都産業大学、立命館大学、京都大学、京都学生祭典メンバー19名による演舞の披露の他、留学説明会、日本語スピーチコンテスト優秀者2名によるスピーチ及び音楽交流会が行われた。
- ・会場周辺では文化や大学の紹介ブース、京都観光P R & 万博紹介、着付け体験コーナー、呈茶コーナー、サッカー教室、大学紹介コーナー(京都大学、立命館大学、京都産業大学)、フエ紹介等全14ブースが設置された。



スピーチの様子



サッカー & チアリーダーの様子



音楽交流会の様子



観光P R & 万博紹介

着付け（京都ハノイ倶楽部）

呈茶
（茶道義千家茶会ハノイ同好会）



フエ紹介ブース

展示ブースの様子

【事業効果等】

- ・「京都文化と教育の日 in フエ」に参加した京都学生祭典メンバーは、国際交流に関心が高い学生に多く参加していたこともあり、イベント前日に設けた交流会でも積極的にフエ省の学生と交流を行っていた。
- ・ダンス交流では、京都学生祭典のオリジナルダンスである「京炎そでふれ（よさこい踊り）」をフエ省の学生に教え、音楽交流会のフィナーレで京都の学生とフエ省の学生とがともに舞台上で、「京炎そでふれ（よさこい踊り）」を踊って、盛り上がった。
- ・アンケートに回答した学生全員が、2025 年の万博期間中のイベントなどでの交流について「持ちたい」「できれば持ちたい」と回答しており、京都学生祭典のダンスを通して、現地の学生と交流を深めたいという意見が見られ、万博会期中でのイベントに繋がる関係構築ができた。
- ・高校、大学訪問では、有益な意見交換がなされるとともに、大学同士の交換留学協定を締結したい意向が示される等、今後の関係構築につながる機会となった。
- ・フエ省人民委員長への表敬訪問、交流協議・覚書更新では、今後更に、留学生等若い世代を中心にした両地域の人材交流について、両地域で協力を図ることとなり、今後ますます京都府とフエ省の交流が深まることが期待される。

【今後の展望】

次年度以降は、本年度実施した交流の継続と発展のために、下記 4 点の内容を中心に実施することを目指している。

- ・京都学生祭典×フエ・フェスティバルの交流継続
- ・フエ省との友好提携締結
- ・京都府内の大学とフエ省や友好提携先の大学との連携協定校数の拡大
- ・万博を契機として、京都府が友好提携を結んでいる 7 か国（7 地域）にベトナム社会主義共和国（フエ省）と日本(京都府)を加えた 9 地域間で、学生間や文化等での交流を促進し、未来社会・文化交流等への関心・相互理解に繋げる

万博会場内では、各国ナショナルデーのイベント会場内で、交流のある 8 カ国と下記 2 点の内容での実施を目指している。

- ① 京都府と友好提携を結んでいる 7 カ国＋ベトナム・フエ省の学生と、京都府の学生による、万博のテーマ(もしくは SDG's)×京都府と各地域の課題などをテーマにしたディスカッションを実施。
- ② 京都府と友好提携を結んでいる 7 カ国＋ベトナム・フエ省の学生や、京都学生祭典メンバーによる伝統的な音楽やおどりの披露を実施。

本年度の交流イベントに参加した学生全員から、万博会期中のイベントでも、京都学生祭典のダンスを通じて、現地の学生と交流を持ちたいという積極的な声上がり、本年度の事業は万博会期中の交流の実現に向けて、京都府民の機運を高めるきっかけを提供することができたといえる。

【参考 URL】

①地元メディア

・<https://baomoi.com/nhieu-hoat-dong-dac-sac-trong-ngay-van-hoa-va-giao-duc-kyoto-tai-hue-c47592428.epi>

・<https://baothuathienhue.vn/chinh-tri-xa-hoi/theo-dong-thoi-su/tang-cuong-quan-he-huu-nghi-hop-tac-giua-thua-thien-hue-va-kyoto-nhat-ban-135129.html>

②在ダナン日本総領事館

https://www.danang.vn.emb-japan.go.jp/itpr_ja/11_000001_00388.html

④京都府 HP フエ省

https://www.pref.kyoto.jp/kokusai/hue_kenshu.html

堺市

プロジェクト名：

チェコ・堺未来プロジェクト

交流相手国:チェコ共和国

【事業実施にあたっての課題と背景】

(1) 交流相手国とのこれまでの交流経緯・調整状況

・令和元年 9 月、在堺チェコ共和国名誉領事館設置。同年から市内でチェコフェスティバル in 関西(在堺チェコ共和国名誉領事館主催、堺市協力)を毎年開催。

堺市では、チェコ出身の画家アルフォンス・ミュシャの作品を約 500 点所蔵しており、堺 アルフォンス・ミュシャ館（堺市立文化館）にて作品を展示。

チェコ共和国名産品等を PR・販売するマルシェ等を開催。

ナショナルデーへの市幹部職員の出席

(2) 取組に至る経緯と現状の課題

・これまでのチェコ共和国との交流の中では、子どもたちを対象とした取組が実施できていなかった。
・コロナ禍において、十分な交流機会が得られなかった。
・堺市国際化方針（R3.5 策定）においてもチェコをはじめとするヨーロッパ諸国の都市との結びつきを強化し、交流を深めていくこととしている。

(3) 課題解決に向けた基本方針

・両国が有する歴史・文化芸術を活用した交流を行うことで、双方の理解を深め、万博開催後も継続できる交流の実現をめざす。
・特に、次代を担う子どもたちの国際感覚の醸成につながる交流を意識する。

【事業概要】

・堺市内で開催された 5 回目となるチェコフェスティバル（主催 特定非営利活動法人 関西 堺・チェコ国際交流協会、在堺チェコ共和国名誉領事館）において、堺市は、ミュシャ関連映像の上映やチェコマリオンネットのパネル展示を実施した。



【事業内容】

- ・交流の場所…ホテルアゴーラリージェンシー大阪堺 ポルタス広場
- ・参加人員 12,000 人
- ・参加者の特徴・特性など…会社員や公務員、自営業、学生等多岐にわたって来場しており、年齢層は 10 代～80 代までの幅広い年齢であった。

堺市民のみならず、大阪府内他市、さらに大阪府外の参加者もいた。

- ・広報紙である「広報さかい」10 月号にチェコフェスティバルの告知記事を掲載したほか、ホームページにチェコフェスティバルのイベントページを作成し、周知した。

また、堺市役所や堺市内の公共施設へのチラシ配架依頼やポスター掲示依頼を行ったほか、堺市内の駅へポスターを掲示してもらうよう鉄道会社 2 社と調整を行った。

CZECH festival 2023

チェコフェスティバル

ホテル・アゴーラ リージェンシー大阪堺
ポルタス広場

10/20 (金) 16:00~21:00
21 (土) 11:00~20:00
22 (日) 11:00~19:00

堺市堺区成島町4-45-1、南海本線「堺」駅西口直結
Czech Metroなかもず駅から南海バス(131・132系統)
で約20分、終点「曙駅西口」バス停下車徒歩1分

入場無料

Pre-event
チェコマルシェ in 堺まつり
12月15日(日) 11:00~16:00
会場：大阪府立堺中央公園
入場料：無料、12歳以下100円

EXPO 2025

【交流会活動の内容】

・文化課と国際課との間で協力・連携し、それぞれ以下のようなイベントを開催した。

①文化課

・公益財団法人堺市文化振興財団と連携し、堺 アルフォンス・ミュシャ館にて過去に開催した企画展等のミュシャ関連映像を上映した。



アルフォンス・ミュシャ《ヒヤシンス姫》1911年 リトグラフ、紙
堺 アルフォンス・ミュシャ館（堺市）蔵



ミュシャ関連映像上映の様子

②国際課

・チェコ共和国の無形文化遺産であるマリオネットのパネル展を実施。様々なマリオネットの写真を拡大印刷し、パネルにして展示した。来場者にマリオネット並びにチェコ文化をよりわかりやすく伝えるため、マリオネットが文化として根付いた背景や歴史を含めた紹介文を作成、展示した。



マリオネットパネル展の様子

【事業効果等】

①文化課

- ・ミュシャ作品の展示や映像上映等を通じて、チェコ文化の発信に寄与することができた。
- ・アンケートの中ではミュシャのことを知らない方がまだまだいたので、ミュシャ作品の発信を通じてさらなるチェコ文化の発信に努めていきたい。

②国際課

- ・パネル展示を行う中で、実際のマリオネットと一緒に展示できれば、来場者により身近に感じてもらえた。ただ、マリオネットは繊細で壊れやすく、借用や返却、屋外での展示の時も細心の注意を払う必要があるため、より効果的な文化の発信を考える上での検討課題としたい。

③文化課・国際課

- ・チェコフェスティバルという、堺市内で集客が見込める既存のイベントを活用し展示を行ったことは、来場者の獲得を考える上で大変効果的だったと考える。また、チェコ共和国のイベントであることから親和性も高く、展示をご覧になった方からおおむね高評価をいただいた。

【今後の展望】

万博を契機として、チェコ文化に係る交流などを図ることにより、あらゆる年齢層の方にチェコの魅力を感じてもらい、堺市とチェコとの交流がより深まることをめざす。本年度の交流を通じて、特に、堺市の子どもたちに交流相手国と日本のつながり伝え、早期からの国際感覚の醸成をめざす、子供の教育機会の提供を中心に行っていく予定である。

万博会場内では、チェコ共和国のナショナルデーに堺市の子供たちが参加できることを目指し、その他にも、交流相手国のパビリオン内のイベント会場で、本年度実施した文化交流を継続、発展させ、堺市内の小、中、高校生を中心に、下記6点の内容の実現を目指している。

- 1：小学生または中学生向けにチェコ人形劇を上演し、チェコの文化に触れ、学んでもらう。
- 2：チェコ人形劇の人形に触れる形で展示し、来場の小、中学生へチェコの文化を知ってもらう。

3：「チャヨヴナ」と呼ばれる茶芸館（中国や台湾に見られるお茶の専門店）が存在するチェコは、多種多様なお茶文化があると思われるので、万博を機に、チェコのお茶、堺市のお茶事情を紹介し、来場の高校生に体験してもらう。

4：交流相手国と地元高校生のオンライン交流（互いの伝統文化や音楽等の披露、互いの都市の魅力や歴史文化、学校生活などについての相互発表、世界遺産をテーマ（互いの都市にある）にした相互発表等）

5：パビリオン出展者と地元高校生との対面交流（交流相手国の文化やパビリオン展示についての講話、地元高校生による伝統文化の披露）

6：アルフォンス・ミュシャと与謝野晶子をテーマとしたセミナー（相互魅力発信）

【参考 URL】

①堺 チェコフェスティバル 2023 in 関西

https://www.city.sakai.lg.jp/shisei/kokusai/event/Czech_Festival.html

②チェコセンター東京 チェコフェスティバル 2023 in 関西

<https://tokyo.czechcentres.cz/ja/program/ceske-festival-kansai-2023>

吹田市

プロジェクト名

健都を中心とした医療イノベーションの創出と吹田の強みを生かした交流

交流相手国:スイス連邦

【事業実施にあたっての課題と背景】

(1) 交流相手国とのこれまでの交流経緯・調整状況

・交流経緯

スイス連邦と吹田市はこれまでの交流実績はない。吹田市においては、万博のテーマや吹田市のまちづくりとの親和性が高い国を交流相手国として選定することとし、日本に次ぐ第2位の長寿国であり、在大阪スイス領事館のミッションとして「高齢化社会」や「スタートアップ支援」を掲げているスイス連邦を交流相手国とし選定した。

・調整状況

在大阪スイス領事館とこれまで複数回の協議実施。ライフサイエンスやヘルスケア分野におけるスタートアップ企業と北大阪健康医療都市（健都）関係者との交流（地域実証事業の実施等）に関しては在大阪スイス領事館を中心とし実施するが、文化的な交流に関しては吹田市主導で実施することについて合意している。両分野での交流をつうじ、新たなライフサイエンス産業の創出や最先端技術に触れることでの市民の健康への気づきの促進、万博期間後も継続的に交流する仕組みを構築するとともに、市民の国際理解の促進につなげる。

(2) 取組に至る経緯と現状の課題

・2025年万博は、本市の持つ魅力を国内外に発信する好機と本市では捉えている。特に国際級の医療クラスターの形成を目指す「健都」は、その特徴を生かし、健都ならではの健康づくりの取組を進めるとともに、医療イノベーションの創出にむけ、産学官民の連携を進めている。医療イノベーションの創出にあたっては、単に地域内の関係者による連携のみならず、より多くの企業や研究者などが

健都に参画することが重要であるが、健都の PR は進んでいないのが現状であり、今後の PR の強化が課題。

また、本市は大阪大学、関西大学をはじめとする 5 大学及び国立民族学博物館を有しており、「大学のあるまち」も強みの一つ。これまでもこの強みを生かし大学との連携を行ってきたが、更なる連携強化が本市の重点取組としても位置づけられている。

【参考 URL】

「健都」<https://co-creation.ken-to.jp/>

「重点取組 2023」

<https://www.city.suita.osaka.jp/shisei/1018811/1018866/index.html>

(3) 課題解決に向けた基本方針

・イノベーションの創出にむけ、健都の取組に関する発信をしつつ、健都・スイスの企業それぞれの持つ技術に関する交流や学術的な交流を行い、実証事業の実施につなげる。また、継続的に実証事業を行うことができるような仕組みや関係性の構築に務める。

また、文化交流においては、「大学のあるまち」の強みを生かし、既存のイベントや枠組みを活用しつつ、大学の持つノウハウや学生の力を本プログラムに生かすなど、更なる連携強化を目指す。

【事業概要】

・吹田市内の研究機関とスイスのスタートアップ企業の交流、市民にスイス文化と触れ合ってもらうため、以下の事業を行った。

- ①TEAM EXPO FES in 吹田
- ②スイス文化を学ぶ漫才講座
- ③健都×スイス 健康医療シンポジウム
- ④スイスベルン大学病院教授及び国立循環器病研究センターの医師による意見交換会
- ⑤国際理解の促進を目的とした対話型ワークショップ

【事業内容】

①TEAM EXPO FES in 吹田

- ・令和 5 年 11 月 12 日(日)
- ・吹田市の万博を契機とした国際交流の取組や、相手国への認知度向上を目的にスイスブースを 1 張、あすかの庭（屋外）に設置
- ・交流会場の概要など…関西大学 千里山キャンパス
- ・参加者の特徴…大阪府内からを中心に若年層・ファミリー層
- ・参加人数 約 4000 人
- ・FM802 の番組内での C M（約 1 か月間）、HP 作成（市 HP、イベント HP）、チラシ・SNS で告知活動を行った。



ブースの様子

②スイス文化を学ぶ漫才講座

- ・令和6年2月3日(土)開催
- ・「日本人とスイス人の国際夫婦漫才師「フランポネ」による未就学児（4歳）から小学生までを対象としたスイス文化を学ぶ漫才講座を実施
- ・交流会場の概要など…ららぽーと EXPOCITY
- ・参加者の特徴…未就学児（4歳以上）から小学生までと保護者（吹田市民）
- ・参加人数 14人
- ・市報すいた1月号、ホームページ作成、チラシ作成、SNS掲載（市公式X、LINE、Facebook）で広報するとともにプレスリリースを提供した。



Switzerland × Suita
こくさい こうりゅう まんざい さくせい こうざ
国際交流漫才作成講座

★ 笑いで知るスイス
☆ ～国際夫婦漫才師による漫才講座～

日本人とスイス人の夫婦漫才師「フランポネ」と一緒に、
楽しみながらスイス文化を学びましょう！

◇プログラム◇
・スイスの紹介（フランポネによる漫才も！）
・漫才作成講座（参加者同士でコンビを組んで、漫才を作ります）
・漫才披露（作った漫才をみんなの前で発表します！）

漫才講座って何？難しくないの？
漫才作りは、コンビを決めるところからはじめ、コンビ名
が決まったら、基本的なあいさつを練習します。
「どうも～こんにちは」「ムムです」「コンビ名はXXです」
あいさつができたら、次はネタ作り！日常生活にある
面白いことや、聞き間違いを入れば簡単にできちゃ
います！決して難しくありません。YouTubeでは過去の
イベントの様子を公開しています。

フランポネのプロフィール
マリーさん(左)とスイス人のシラちゃん(右)による音楽・美術の国際夫
婦漫才コンビであり、日本で唯一フランス語でネタができるコンビ！

日時：令和6年2月3日(土) ①午前10時30分～正午 ②午後1時30分～3時
対象：市内在住の4歳～小学6年生 各回20名
※未就学児は保護者同伴で参加してください。
場所：ららぽーとEXPOCITY 3階 EXPOCITY Lab
申込：電子申込システムからお申込ください。
1月10日(水)正午受付開始、先着順。

◆当事業は内閣官房の令和5年度万博国際交流プログラム(モデル事業)として認定されています

【問合せ】吹田市シティプロモーション推進室 Tel.06-6318-6371
このちらしは1,000部作成し、一部当たりの単価は17円です。



漫才講座の様子

③健都×スイス 健康医療シンポジウム

- ・令和 6 年 2 月 16 日(金)開催
- ・健康医療シンポジウムを開催
- ・交流会場の概要など…国立循環器病研究センター サイエンスカフェ
- ・参加者の特徴…吹田市民（シニア層）、医療職・医療系企業関係者
- ・参加人数 約 50 人
- ・市報すいた 1 月号、ホームページ作成、チラシ作成、報道提供（市・国立健康栄養研究所）、SNS 掲載（市公式 X、LINE、国立健康栄養研究所公式 X）にて広報を行った。

④スイスベルン大学病院教授及び国立循環器病研究センターの医師による意見交換会

- ・令和 6 年 2 月 16 日(金)開催
- ・スイスベルン大学病院教授及び国立循環器病研究センターの医師による意見交換会および北大阪健康医療都市（健都）の視察を行った。
- ・交流会場の概要など…国立循環器病研究センター、エア・ウォーター株式会社
- ・参加者の特徴…研究者間による意見交換会のため、一般の来場者はなし。

⑤国際理解の促進を目的とした対話型ワークショップ

- ・令和 6 年 3 月 6 日開催
- ・交流会場の概要など…PARK CAFÉ BRANCO
- ・参加者の特徴…シニア層を中心に吹田市民のほか、大阪府内からも参加
- ・参加人数 約 30 人
- ・市報すいた 2 月号、HP（市公式・大阪大学 21 世紀懐徳堂）、チラシ作成、大阪大学公式 X（ワニカフェ Peatix）で広報

【交流会活動の内容】

①TEAM EXPO FES in 吹田

- ・吹田市の万博を契機とした国際交流の取組や、相手国への認知度向上を目的に「クイズで知ろうスイスってどんな国？」と題したワークショップやスイス産のワイン及びチーズの有料試飲会を実施
- （※）2025 年大阪・関西万博「TEAM EXPO2025 プログラム」に参画する企業や大学等によるワークショップやブース、若手アーティストのステージ企画等（TEAM EXPO FES 実行委員会と吹田市の共催事業）

②スイス文化を学ぶ漫才講座

- ・出演者…（株）吉本興業 漫才師 フランポネ（日本人 1 人、スイス人 1 人）
- ・漫才をととしたスイスの紹介を
- ・参加者同士でコンビを組んで、漫才を作成しみんなの前で発表した。

③健都×スイス 健康医療シンポジウム

- ・参加者の健康への関心を高めることと日本とスイスの研究者の交流目的に、両国における健康寿命の延伸や循環器病予防に係る取組等の紹介及び両国の研究者によるパネルディスカッション等を同時通訳も採り入れ開催。また会場内ではスイス企業の技術展示も行った（ラクレットロボット実演）。

④スイスベルン大学病院教授及び国立循環器病研究センターの医師による意見交換会

- ・意見交換：ベルン大学病院教授（スイス人）、国立循環器病研究センターオープンイノベーションセンター長、心臓血管内科医 3 名による意見交換
- ・視察：国立循環器病研究センターにおいて病院内の設備（リハビリ施設・心機能評価施設等）を視察、エア・ウォーター株式会社において市民交流やオープンイノベーションの場として一般公開されている、共創や体験・実証の場の視察

⑤国際理解の促進を目的とした対話型ワークショップ

- ・国際交流プログラム紹介
- ・交流相手国の SDG s
- ・大阪大学における万博への取組
- ・哲学カフェ（テーマ：アフリカから考える S D G s）

【事業効果等】

①TEAM EXPO FES in 吹田

- ・参加者のスイスに関する知識量等をはかることができ、今後実施する文化交流の参考となった。相互理解をより深めるためには相手国との人的交流が必要。
- ・スイス人をゲストに招待できなかったが、参加者のスイスへの関心が高く、また、人的交流等へのニーズも高いことが判明した。
- ・集客の見込めるイベントの中で実施することで、多くの来場があったが、想定よりも近隣住民の参加は少なかった。開催場所の設定も含め、吹田市民を意識した企画が必要である。
- ・イベント終了後、大使館に今後の文化交流包括的な協力をお願いした。その際、具体的な企画があれば協力を検討いただけるとの事でした。しかし、交流内容の検討にも意見交換がないと難しく（こちらが把握していることと、実際が違うなどもあるため）意見交換の機会を持つことが必要だと感じた。
- ・新規の国際交流は超えなければいけないハードルが多くある。

②スイス文化を学ぶ漫才講座

- ・スイス文化を笑いや漫才を通すことで、子供たちも楽しみながら学ぶことができた。
- ・漫才や笑いを活用した国際理解を深める取組は、子供だけではなく、大人対象の催しでも有効な手段の一つと感じた。
- ・子供を対象にしたイベントのため、体調不良にともなう欠席が4組ほどあった。今後、参加者数や実施時期なども考慮する必要がある。
- ・漫才・笑いを通すことで、楽しんでスイス文化や国際交流に理解を深めることができた。

- ・漫才だけでなく、スイスへの関心が高く、事前学習して参加する者もいた。
- ・吹田市とスイスの小学生がオンラインを通じて漫才等で交流する取組を検討したい。

③ 健都×スイス 健康医療シンポジウム

- ・両国の比較から参加者に対し様々な気づきを促すことができた。
- ・質疑時間を十分に確保し、演者・参加者双方向の催しとなるよう、タイムスケジュール管理が必要である。
- ・今後は、参加者がより身近に感じることができる視点からのテーマ設定も必要である。
- ・専門的な内容のシンポジウムであったが、市民・研究者双方にとって有益な内容となったことは大きな成果である。また今後、両国研究者間の相互往来について話が及ぶなど、研究者の良い繋がりができた。
- ・高度な内容になればなるほど、同時通訳が難しいことを痛感した。事前に登壇者から原稿をいただく等の対応ができれば、より参加者にとって分かりやすいものになった。
- ・スイス領事館からの要望により、ロボット実演を急遽行ったが、スイスの高い技術力に触れることができた。

④ スイスベルン大学病院教授及び国立循環器病研究センターの医師による意見交換会

- ・スイス人研究者が興味を示したラジオ体操などで今後の交流の可能性も探ることができ、本事業の展望についても考えることができた。
- ・研究者は英語を使用できる場合も多いが、関係者全員の理解や交流を目指すには専門的な通訳同行の必要性を認識した。
- ・健都内視察においても非常に活発な意見交換がされており、今後の交流の可能性についても探ることができ、非常に有意義な取組であった。

⑤ 国際理解の促進を目的とした対話型ワークショップ

- ・SDGsという共通テーマから、スイスとアフリカの文化等について学び、対話を通して考える機会となり、相手国のみならず、「国際理解」を進める足掛かりになった。

- ・参加申し込みが非常に多く、何が要因になったのかの分析が必要である。
- ・「万博の運営に関わる日本人との交流」の枠組みで、国際交流色を意識して実施したが、参加者にはそれが伝わりにくく、本類型での取組については、相手国の要素を強める等し、より参加者に分かりやすくする必要がある。
- ・常にリラックスした雰囲気の中、学びと対話を進めることができた。シニア層が参加の中心ではあったが、現役世代や学生の参加もあり、多世代が集うイベントとなった。
- ・対話型のイベントは万博のテーマウィークともつながるものであるため、そのような PR ができるチラシ等があればより機運醸成に資することができる。

【今後の展望】

本年度の交流を通じて、吹田市の子どもたちが交流相手国の最先端の技術に触れ、自国だけでなく他国へも目を広げることで国際感覚を養うきっかけ作りを、万博を通じて行うことを目指している。その他にも、吹田市の伝統的でかつ万博にもゆかりのある盆踊りを通じて多世代交流・多文化交流により、参加者みんなで一つの目標に向かって踊りを創り上げたいと考えている。交流相手国と市民との直接の交流を実施するとともに、本市市民が交流相手国の文化等に直接触れることにより国際理解を促進することを目指す。

万博会場内では、大阪府無料招待により、学校行事で訪問した吹田市内小中学校全生徒を中心に、優先的にスイスパビリオンの見学をさせてもらえるように調整を行う予定である。その他にも、大阪パビリオンイベント会場で実施する権六踊り（本市の伝統的な盆踊り。1970 年大阪万博、2010 年上海万博で披露）を交流相手国の方（在住の方、留学生、パビリオン関係者、スイス国内の方）と一緒に踊ることを目指し、スイスのナショナルデーイベント等で参加型イベントがある場合、吹田市民の枠等を設けていただき、権六踊りを披露するなど、一緒にスイスのイベントを盛り上げたい。

松原市

プロジェクト名

セーフコミュニティ・プロジェクト in 松原 The Conference of Safe Community project in Matsubara

交流相手国:大韓民国

【事業実施にあたっての課題と背景】

(1) 交流相手国とのこれまでの交流経緯・調整状況

2012 年 韓国済州島 SC 日韓合同ワークショップ及び済州島 SC 再認証現地審査で交流

2012 年 本市 SC 事前指導にて韓国より審査員招聘、地域交流

2013 年 本市 SC 現地審査及び認証式にて韓国より審査員招聘、地域交流

2014 年 韓国釜山市アジア地域 SC 会議にて発表及び交流

2017 年 本市 SC 再認証事前指導にて韓国より審査員招聘、地域交流

2018 年 厚木市アジア地域 SC 会議にて発表及び韓国 SC 関係者と交流

2018 年 本市 SC 現地審査及び認証式において韓国より審査員招聘、地域交流

(2) 取組に至る経緯と現状の課題

・経緯

2011 年セーフコミュニティ活動を開始。2013 年、2018 年に続き、2023 年 11 月に 3 度目のセーフコミュニティ認証を取得

・課題

13 年間のセーフコミュニティに関する取組を継続・発展させるために、担い手の育成や新たな視点をもとに受け入れ、盛り込んでいくことが本市の課題である。

加えて、本年 8 月のセーフコミュニティ現地審査において国際認証審査員より、「地域と協働で進めている松原市の予防活動や取組は非常に素晴らしいため、世界に発信していけるような機会を是

非検討してほしい」との声をいただいた。この 2 点を解消すべく、また『アジア地域セーフコミュニティネットワーク』のメンバーとして、『セーフコミュニティ安全安心のまちづくり全国協議会』の副会長市として、率先垂範した取組が求められる。

この他に、本市では外国籍住民が 10 年前の約 1.5 倍と年々増加傾向にあることから、外国籍住民の人権侵害を防ぎ、言語や生活文化の違いや多様性を受け入れた『誰もが暮らしやすい松原市』にするためにも、市民の異文化理解の促進や国際感覚の醸成が求められている。

(3) 課題解決に向けた基本方針

・「セーフコミュニティ」を共通テーマに行う異文化交流や地域における様々な国際交流活動、国際化への取組を通じて市民の異文化理解と国際感覚の醸成を図る活動を進める。

次世代を担う子どもたちに対し、グローバル化する社会に適応でき、国際感覚と国際的な意識のある人づくりを進める。

持続可能なセーフコミュニティ活動にするため、本市の取組を全国や世界に向けて発信するとともに、交流により課題解決の刺激にする（SC 参加者の広がり／外国からの視点による解決策）。

【事業概要】

・「SC プロジェクト in 松原」と題し、国際会議の縮小版のようなものとして、セーフコミュニティに取り組む韓国の複数自治体との交流

①国内 SC 推進自治体との交流、SC 担当者との意見交換会

②SC 審査員によるシンポジウム、松原 SC に取り組む市民との交流を実施した。



【事業内容】

①国内 SC 推進自治体との交流、SC 担当者との意見交換会

- ・令和 5 年 11 月 18 日（土）～20 日（月）開催
- ・実施会場の概要…松原市文化会館及び松原市役所
- ・参加者の特性・特徴など…松原 SC 関係者、松原市民
- ・広報まつばら、ポスターで広報した。

②SC 審査員によるシンポジウム、松原 SC に取り組む市民との交流

- ・令和 6 年 1 月 26 日（金）～27 日（土）開催
- ・実施会場の概要…松原市文化会館及び松原市役所
- ・参加者の特性・特徴など…松原 SC に取り組んでいる市民（最高齢は 94 歳）、ISS（学校版 SC）に取り組んでいる小中学生
- ・HP や市の LINE にて広報した。
- ・参加者は約 7 0 0 人



市民との交流の様子

【交流会活動の内容】

①国内 SC 推進自治体との交流、SC 担当者との意見交換会

・国内 SC 推進自治体（3 市）との交流、万博会場視察、大阪府災害対策視察、松原 SC との意見交換会（同日開催：松原市セーフコミュニティ国際認証式典）

②SC 審査員によるシンポジウム、松原 SC に取り組む市民との交流

・タンザニアの SC 審査員による基調講演、市長、韓国の SC 審査員 2 名、豪の SC 審査員 1 名、タンザニアの SC 審査員 1 名、国際博覧会協会 1 名による）

・シンポジウム

・ISS 認証式

・地域の SC 取組団体との交流、市内視察

・これらの様子はパンフレット作成、毎日新聞掲載（令和 6 年 1 月 28 日）、松原市ホームページ掲載などにより広く広報された。



**万博国際交流プログラムモデル事業
"SCプロジェクトin松原を実施しました"**

●問合せ 市民協働課、教育推進課

1月26日に韓国のSC推進自治体の関係者や松原SCの審査員にも携わった審査員を海外からお招きし、基調講演とシンポジウム、ISS認証式の二部構成で開催しました。

シンポジウムで松原SCの魅力として、「地域の人が自分事としてSC活動に参加していること」や「ISCの理念を具現化して、より良いまちにするためにうまく活用していること」「地域のみならずSCの大切さを理解し、取組当初から同じ熱量で継続されていること」といった意見があり、参加された皆さんからは「松原について国際的な視点で良い話を聞くことができた」といった感想がありました。

また、2025大阪・関西万博（以下、万博）の魅力についても紹介があり、SCと万博のテーマとの親和性や関わりについても意見交換がされました。

会場には万博公式キャラクターのミャクミャクも登場し、マッキーと一緒に会場内を盛り上げてくれました。

第2部のISS認証式では松原第四中学校区と松原第七中学校区の児童・生徒や保護者、教員による合奏の署名や取組報告を行うとともに今後に向けての力強い宣言が児童・生徒からありました。

このイベントにより、参加者が松原SCの魅力を再認識し、自身の活動を得るに思ってもらうとともに、子や孫が安心・安全な松原市で生活できるよう、取り組みを継続していくことの大切さを再認識していただきました。また、国際色豊かなパネリストとの交流や韓国SC推進自治体との交流を通して「国際交流」の魅力を現場で感じていただき、加えて日本にないがらにして国際交流を体感できる万博への関心を高めてもらえるイベントになりました。

その他、詳細は市ホームページ（右記QRコード）をご覧ください。

本事業のプログラム

第1部

- 基調講演
テーマ「いのちを守る・育む・繋ぎ合わせる」
ゲスト：マイケル・ウィルソンさん（SC公認認証審査員）
- シンポジウム
テーマ「いのち輝く未来社会のデザイン～松原SCの魅力に迫る～」
パネリスト：ペ ジョンイさん（SC公認認証審査員）、バク ナムスさん（SC公認認証審査員）、マイケル・ウィルソンさん、ミーガン・プラザートンさん（オーストラリアSC財団）、西本敬一さん（日本国際博覧会協会 経営企画室）、白石陽子さん（日本セーフコミュニティ推進機構）
- ISS認証式
松原四中学校区・松原七中学校区
審査員：マイケル・ウィルソンさん、パイルさん（SC公認認証審査員）

▲シンポジウム「いのち輝く未来社会のデザイン～松原SCの魅力に迫る～」

▲SC審査員・韓国SC推進自治体・第四中学校区・第七中学校区記念撮影

※上記のSCは「セーフコミュニティ」、ISSは「インターナショナルセーフスクールの略称です。

【事業効果等】

・令和 6 年度に韓国へ渡航し自治体を視察することにより、SC 以外の分野も含め交流をはじめることになった。

・地域住民の交流についてプログラムをこれから設定することが今後の課題となる。韓国の複数の SC 推進自治体と「地域課題の対策」といった同じテーマで交流をすることにより、課題の共有や取組の手法についての意見交換や、松原 SC に取り組む地域住民が自らの活動をふりかえる機会になったことは、今後の活動の参加意欲の向上につながった。

また、国際交流に取り組む若者グループ（12 歳から 25 歳）や SC サポーター（高校生から大学生）の参加もあり、通訳やイベント運営に取り組むことでより国際感覚の醸成を促すことができた。加えて、韓国以外の国からもゲストを招聘することができ、本市の取組について世界に発信することができた。

・参加者からは万博と SC の親和性を実感してもらうことができ、万博での本市の PR について興味・関心を引き出すことができた。

【今後の展望】

本年度の渡航の結果、SC 事業を継続していくことはもちろん、それ以外の分野も含めた交流を開始していくことが決定。本年度の交流の成果のひとつとして、地域住民レベルでの交流を中心に見据え、「地域課題の対策」というテーマで、地域住民自ら課題や解決策を考える意見交換の場を設けたことで、地域住民が主体的に取り組む。今後の交流への参加意欲の向上に繋がった。そのため次年度以降も、地域住民レベルでの交流を中心に、若年層も積極的に巻き込んだ交流を実施していくことを目指している。

万博会場内では、両国の交流がはじまるきっかけになったセーフコミュニティをテーマにしたブースを出展予定である。

【参考 URL】

①松原市 万博国際交流プログラムモデル事業”S Cプロジェクト in 松原”

<https://www.city.matsubara.lg.jp/docs/1326530.html>

東大阪市

プロジェクト名

大阪アフリカビジネスフォーラム・AFRICA EXPO in Higashiosaka

交流相手国:ベナン共和国、トーゴ共和国、タンザニア連合共和国

【事業実施にあたっての課題と背景】

(1) 交流相手国とのこれまでの交流経緯・調整状況

・ベナン共和国臨時代表大使の東大阪市長表敬訪問、また本市ブランドアンバサダーがベナン共和国臨時代表大使を表敬訪問するなど、より良い関係づくりを行なってきた。令和４年度にはアフリカとの先駆的な文化・ビジネス関係構築の足掛かりとして、一般社団法人在日アフリカ人ネットワーク ADNJ と共催で「大阪アフリカビジネスフォーラム」を本市文化創造館にて開催。また本市教育委員会では「カラフルコミュニケーション」と題した多文化理解・多文化共生に関する理解促進を目標としたプロジェクトにおいて、令和４年度はベナン共和国やタンザニア連合共和国を含むアフリカ出身のゲストティーチャーやミュージシャンを招いて市内子どもたちに文化背景やアフリカにおける課題を紹介する機会を作った。

民間レベルでもタンザニア連合共和国とは市民同士のオンライン交流会の開催、Ｊリーグサッカークラブからサッカーボールを寄付するなど交流を続けている。また市内においてベナン共和国、トーゴ共和国そしてタンザニア連合共和国の出身者が市民を対象に伝統的な料理を紹介するフードイベントが開催されるなど、食を通じた文化交流も行われるようになった。今後、多様性に溢れるアフリカ各国とは産業の相互発展に限らない関係づくりに努め、市民間の交流によって子どもたちや市民の多文化共生・多文化理解に関する更なる学びの機会の創出を図っていきたい。

(2) 取組に至る経緯と現状の課題

・東大阪市はものづくりのまち・中小企業のまちとして知られており、5,564 もの製造業の事業所が日々その技術を磨き、そして活かし、日本のものづくりを支えています。それらの事業所が直面する人材不足や技術の継承をはじめ、多岐にわたる課題についてサポートをするべく、本市ではモノづくり支援室が市内企業の事業展開における支援や製品の市内外への販路開拓等のサポートを行ってきました。さらには将来的な成長市場の可能性を見据えた今後の発展に向けて、産官学また国内外を問わず様々な自治体、企業、あるいは大学などとの連携関係構築を試みております。そのような取組の一つとして、本市が今着目しているのがアフリカ大陸です。今日、「最後のフロンティア」として日本経済界からも注目されているこの大陸においては、産業の持続可能な発展やその他の社会課題の解決に本市に立地する多くの事業所の技術が必要とされていることに加え、今後の大きな市場へと発展することや人的資源が連携されていくことなどの可能性を秘めています。そこで令和 4 年に在日アフリカ人が中心となり構成された一般社団法人在日アフリカ人ネットワーク ADNJ が主催する「第一回 大阪アフリカビジネスフォーラム」に共催として参画し、本市が有する施設（東大阪市文化創造館）にて同フォーラムを開催しました。市内の中小規模事業者を中心とした大阪・関西圏の企業を対象に、まだまだ情報を得ることが難しいと感じられるアフリカの現状やビジネス文化について知る機会を設け、相互理解の促進を図り、事業展開の可能性を提示する機会となりました。しかしながら市内全体に目を向けると、アフリカについて受け入れる側となる一般市民の理解を得ることについても注力すべきであることが明らかとなりました。アフリカ大陸から多くの国々が参加を表明している大阪・関西万博を目前にした今、市民にアフリカの文化について知るきっかけを提供し、アフリカ出身者との交流の場を設けて相互理解を促進する取り組みが本市の持続可能な共生社会の実現に不可欠なものであると考えます。

(3) 課題解決に向けた基本方針

・「大阪アフリカビジネスフォーラム」については、ビジネスマッチングを最大の目的として、引き続き中小企業基盤整備機構近畿本部や大阪商工会議所と共催するとともに、J I C A 関西や J E T O R O 大阪に後援いただきながら、次の 3 つの取り組みを方針として進めていきます。1 点目は、東大阪市のモノづくり技術をアフリカに発信すること 2 点目は、市民にもアフリカについて知ってもらうこと 3 点目は、継続的・定期的なイベント開催によって市民間の交流を図ることです。1 について

は、継続的に駐日アフリカ各国大使館との面談の機会を設け、本市のポテンシャルや直面する課題について情報交換をしています。また本市にて定期的にアフリカビジネスフォーラムを開催し情報交流や共有による産業の相互発展を図ります。 2 については、(独)国際協力機構や国際連合開発計画、また駐日アフリカ外交団も参画するイベント「Africa EXPO」を本市が共催として参画し東大阪市花園中央公園にて開催します。Discover Africa MATSURI をコンセプトとするこのイベントは市民と在日アフリカ出身者がお互いの文化を相互に体験する交流の舞台となります。また同イベントを調査の場としても捉え、アフリカと東大阪市との相互文化理解の度合いについての意識調査を行います。その結果も踏まえて、職員研修としてベナン共和国とトーゴ共和国への渡航・現地調査を実施していくことの検討も行います。 3 については、これまでも本市にて定期的に行われてきた食を通じた文化交流を今後も継続的に行い、在日アフリカ人と市民との直接的な交流の場を創出します。

【事業概要】

・「モノづくりのまち東大阪」が課題とするビジネスマッチングを目的として、万博参加国との文化交流を図るなど、より一層の国際交流を推進するため、以下のイベントを「大阪アフリカビジネスフォーラム・A F R I C A ・ E X P O in Higashiosaka」にて開催した。

- ①大阪アフリカビジネスフォーラム 2023
- ②Africa EXPO – Discover Africa MATURI
- ③アフリカ渡航（ベナン共和国・コートジボワール共和国）
- ④本市主催「H A N A Z O N O E X P O」でのアフリカン音楽 L I V E やブース出展



【事業内容】

- ①大阪アフリカビジネスフォーラム 2023
 - ・令和 5 年 9 月 1 日(金)開催
 - ・「アフリカと繋がろう！」をコンセプトに開催。アフリカの現状やビジネス文化などの紹介を通じて、アフリカへの理解を促進するフォーラムを開催した。
 - ・交流会場の概要など…東大阪市文化創造館
 - ・参加者の特徴…企業・機関数 205。支援機関 13 機関。大使館・領事館 10 カ国
 - ・参加人数 363 人（オンライン 55 人）

②Africa EXPO – Discover Africa MATURI

- ・令和 5 年 9 月 2 日開催
- ・「まだ知らないアフリカがここにある！」をコンセプトに在日アフリカ人と市民との直接的な交流の場を提供することで、アフリカを身近に体感・体験し、相互の文化理解をはかった。
- ・交流会場の概要など…東大阪市文化創造館
- ・参加人数 約 1000 人。



③アフリカ渡航（ベナン共和国・コートジボワール共和国）

- ・令和 5 年 9 月 2 5 日(月)～令和 5 年 1 0 月 1 3 日(金)実施
- ・今後のアフリカとの関係構築と本市が大阪・関西万博の機運醸成を目的として主催するイベント「HANAZONO EXPO」への出展調整等を行った。



- ④東大阪市主催「HANAZONO EXPO」でのアフリカン音楽LIVEやブース出展
- ・令和5年11月3日(祝)・4日(土)開催
 - ・万博の意義や可能性をより多くの人に体感してもらうために「未来社会のアイデアは東大阪から」をコンセプトに、モノづくり・文化・大学・スポーツという本市の魅力を軸としながら、新しい生活様式や価値観、最先端のデジタル技術など、ワクワクする未来を体感できるコンテンツを用意した。
 - ・二回目の開催の今回は、国際色を意識し、8か国がブース出展等で参加。内アフリカは4か国（ベナン・セネガル・マダガスカル・マリ）
 - ・交流会場の概要など…東大阪市花園中央公園
 - ・参加人数 80,000 人。



【交流会活動の内容】

①大阪アフリカビジネスフォーラム 2023

- ・セミナー・パネルディスカッション
- ・分科会
- ・ADNJ Awayd2023
- ・参加者交流会
- ・大使館・各支援機関等のブース設置

②Africa EXPO – Discover Africa MATURI

別紙スケジュール参照

- ・アフリカンファッションショー
- ・アフリカンダンス&ミュージック
- ・セミナー及びアフリカ映画上映会
- ・スペシャルトークセッション
- ・万博プロデューサー中島さち子氏による steAm BAND スペシャル LIVE
- ・アフリカンマルシェ（フード・雑貨販売）
- ・万博の機運醸成として 2025 大阪・関西万博のキャラクターミyakミyakの出演

③アフリカ渡航（ベナン共和国・タンザニア共和国）

- ・カラビ大学（国立大学）にてセミナー開催。

⇒ADNJ 代表理事が登壇し、学生に向けて東大阪市の取組紹介

- ・G D I Z（企業）視察

⇒アフリカ各国に工業地帯を創出し、雇用を創出

- ・ベナン共和国投資輸出促進局（A P I E X）へ訪問

⇒HANAZONO EXPO への出展調整

- ・在ベナン日本大使館表敬訪問

⇒東大阪市の取組紹介及び企業への交流サポートを要請 など

④本市主催「HANAZONO EXPO」でのアフリカン音楽LIVEやブース出展

●ブース出展

- ・ベナン共和国（APIEx Benin -ベナン共和国投資輸出推進局-）

「ベナンへの投資について展示」⇒ベナン共和国の投資やビジネスに関する展示

- ・セネガル共和国（物販）「セネガルファッションでオシャレになろう！」⇒セネガルの雑貨や衣料の販売

- ・マダガスカル共和国（物販）「マダガスカル体感」⇒マダガスカルの観光情報の提供や雑貨の販売

- ・マリ共和国（販売）「ほんまもんアフリカアートマリ」⇒世界遺産ドゴンのポストカードや、マリ画家の絵画の展示販売

- ・ADN「アフリカと繋がろう！」⇒アフリカンと交流し、アフリカビジネスの現状を知る展示・販売

●ステージ

- ・アフリカスペシャルステージ

- ・アフリカンミュージシャンによる音楽LIVE



出展ブースの様子



出展ブースの様子

応急給水体験の様子

【事業効果等】

・各事業を通して、アフリカの文化を市民に周知するとともに、大阪・関西万博の機運醸成を図ることができた。異なる文化にふれ、交わることで、多文化共生として多様性と寛容性の醸成につなげるだけでなく、何より心から楽しむことで、感情も含め新しい創造につなげることができるよう、令和6年度及び万博本番に向けさらなる事業展開を図っていきたい

【今後の展望】

次年度以降も、文化体験イベントの継続的な開催、オンライン交流イベントの継続的な開催、交流相手国への視察訪問、市民または市内の事業者がアフリカに関する情報を得ることができるアライアンスセンターの設置、企業マッチング及び販路開拓、インバウンド観光促進など、多様な分野での交流を目指している。

万博会場内では、大阪府市万博推進局が大阪府下の自治体と進めている（仮称）大阪ウィークにおいて実施予定である『大阪の祭り！～EXPO2025 秋の陣～』（2025年9月）にて、アフリカエキスポで実施したアフリカンミュージック LIVE とファッションショーの実施を目指している。

（大阪ウィーク秋の音楽イベントにアフリカ関連イベントを行うことは万博推進局と調整中）

本市とアフリカ（ADNJ）とのコラボとして、東大阪市のマスコットキャラクター「トライくん」のテーマソングである「トライ！トライ！トライ！」をトライくん（着ぐるみ）とアフリカンダンサーと一緒に踊ったり、ファッションショーもトライくんがアフリカ民族衣装を着てランウェイするなどが考えられる。

また、本市の教育委員会が取り組んでいるカラフルコミュニケーション（多文化共生教育）とのコラボなども想定。本市の子どもたちがアフリカの楽器や民族衣装等に触れ体感するだけでなく、異文化について学んだことをステージ上で発表する場等を検討していく。

※現時点で大阪ウィークへの参加は決まっていますが、日時や詳細は未定です。

【参考 URL】

①東大阪市 ホームページ

<https://www.city.higashiosaka.lg.jp/0000037589.html>

泉南市

プロジェクト名

子どもたちの国際交流 Fly to the world!!

交流相手国:フィリピン共和国

【事業実施にあたっての課題と背景】

(1) 交流相手国とのこれまでの交流経緯・調整状況

・平成 29 年 10 月：ダバオ市使節団が泉南市に訪れる

令和 4 年 11 月：現山本優真市長ダバオ市へ訪問（セバスチャン・Z・ドゥテルテ市長表敬訪問・姉妹都市連携に向けての覚書の署名）

令和 5 年 4 月：ダバオ市と泉南市との姉妹都市協定調印式（経済や貿易、教育、観光分野など包括的な連携）

令和 5 年 5 月：ダバオ市と泉南市の小中学校におけるオンライン交流

令和 5 年 8 月：山本優真市長ダバオ市へ訪問予定。（カダヤワン祭への参加、カカオ農協の視察）

(2) 取組に至る経緯と現状の課題

・市域に関西国際空港を含む泉南市は空の玄関口・国際交流の窓口となっており、日常の中でいろいろな国や地域にルーツを持つ方々に出会ったり、コミュニケーションをとらなければならない機会が増えている。そういった中、子どもたちには、これから益々発展する国際社会に向けて、多文化の理解を進めるための環境が必要となっている。

フィリピン共和国国内において貧困の地域格差は拡大しており、ダバオ市が所在するミンダナオ地方では貧困率が上昇しており、スラム街が所在する等教育格差が拡大している。

また、ダバオ市では豊かな海洋環境を有する一方、経済発展に伴い都市廃棄物が増加し、都市環境の保全対策が進める等環境面に関心を寄せている。

(3) 課題解決に向けた基本方針

・教科書だけでは身に付けることができない、広い視野や異文化への理解・尊重する気持ちを、泉南市とダバオ市で育つ子どもたちに、自然なもの・身近なものとして身に付けてもらい、未来の選択肢を増やしてもらいたい。

【事業概要】

①オンライン国際交流事業子どもたちの国際交流「Fly to the world」。広い視野や異文化への理解・村長する気持ちを泉南市とダバオ市で育つ子供たちに、自然なもの・身近なものとして身に付けてもらい、未来の選択肢を増やしてもらう。

②2024年2月 泉南市市長・職員、現地レセプション参加企業からなる訪問団のフィリピンダバオ市訪問。



【事業内容】

①オンライン国際交流事業子どもたちの国際交流「Fly to the world」

・2023 年度 5 月・11 月・2 月に開催

・交流会場の概要…市内の小学校・中学校とフィリピン ダナン市にフィリピン日系人会国際学校や小学校とをインターネットで結んでのオンライン交流を 3 回開催。

・参加者の特徴・特性など…泉南市内の小中学生、延べおよそ 300 人

②フィリピンダバオ市訪問

・2023 年度 2 月に開催

・市長および成長戦略室職員及び教育部職員・レセプション同行企業国内 7 社によるダバオ市訪問

【交流会活動の内容】

①オンライン国際交流事業子どもたちの国際交流「Fly to the world」

・泉南市内の小中学校とダバオ市内の小学校などをオンラインで結んでの交流を行う。

・市長や教育長によるあいさつのち、文化交流ゲーム、平和学習発表会、ディスカッション、インタビュー、共通点探しゲームなど時には体を動かしながら両市の交流を深めた。



オンライン交流会の様子

②ダバオ市訪問

・初日に、ダバオ市長への表敬訪問を行い、翌日以降、小中学生のオンライン交流会の相手であるフィリピン日系人国際学校や地元小学校を訪問。

・在ダバオ日本総領事を表敬訪問し同領事館で開催されるレセプションで泉南市と関係する企業とブースの出展や同行企業と現地企業とのビジネスフォーラムを実施した。



現地小学校訪問の様子



ビジネスフォーラムの様子

【事業効果等】

①オンライン国際交流事業子どもたちの国際交流「Fly to the world」

- ・イベント後のアンケートをみると異文化交流への意欲が大きく変化

⇒「海外の人と交流したいか」という質問に対して、「そう思う」と答えた生徒が 30%増加

- ・交流相手国への印象の変化

⇒交流前は「危険な所」「わからない」「泉南市の姉妹都市」「バナナが有名」といったネガティブもしくは内容が比較的希薄な回答であったが、「環境の事を考えていた」「日本人との共通点も違いもあった」「人がとても明るい」「楽しそうな街だった」「街がとてもきれいだっただ」などポジティブで具体的な回答がみられた。

- ・交流後に「ダバオ市に行ってみたい」「ダバオ市民を招待したい」という回答が大多数を占めるにいたっている。

- ・自分の言葉で伝えることができた経験をしたことなどきっかけになったのか、相手の国に対してイメージから相手国の一人ひとりに対するイメージに着目する傾向が現れた。

②ダバオ市訪問

- ・ダバオ市長を表敬訪問し、姉妹都市協定後の各分野に係る事業についての意見交換、交流を継続している小学校を訪問するとともに、レセプション参加のため同行した企業担当者と地元企業との間でビジネスフォーラムなどを開催した。

【今後の展望】

本年度実施した交流を足掛かりに、包括的な分野にわたる泉南市ダバオ市姉妹都市連携に基づき、教育面での交流から派生し、両市の観光・貿易・経済面での連携へとつなげることを目指していく。

万博会場内では、相手国パビリオン内のイベント会場で、中学生間のダンス交流の実施を目指している。泉南市では、令和 5 年 4 月にフィリピン共和国ダバオ市と姉妹都市連携を締結したことを記念し、現地の学校とオンラインで文化交流を進めている。例年 8 月に開催されるダバオ市の収穫

祭・カダヤワン祭の時期に合わせ、交流相手国と地元中学校ダンス部のオンラインによる、フィリピン共和国を想起させるダンスや伝統舞踊祭をする。また、年間を通して約 150 万人の方が来場している SENNAN LONG PARK もサテライト会場として使用し、より多くの児童生徒や市民がフィリピン共和国の文化を知るきっかけとしたい。

【参考 URL】

① 泉南市 フィリピンダバオ市との姉妹都市連携について

<https://www.city.sennan.lg.jp/kakuka/gyouseikeiei/seisakusuishin/kikaku/kokusaika/6494.html>

海士町

プロジェクト名

ブータンの高校生との学び合いを通じた地域づくり

(2) 交流相手国:ブータン国

【事業実施にあたっての課題と背景】

(1) 交流相手国とのこれまでの交流経緯・調整状況

・海士町は、ブータン国のチュカ県において JICA 草の根技術協力「地域活性化に向けた教育魅力化プロジェクト ブータン王国における地域課題解決学習（PBL）展開事業」を受託し上記各団体と連携しながら実施している（2022 年 1 月～2024 年 12 月）。ブータン側の共創者は、チュカ県教育委員会、チュカ高校、ゲドウ高校、パクシカ高校（以下、「モデル 3 校」）である。上記各団体は海士町・隠岐島前高校が連携して進めている地域課題解決学習の指導・助言者を派遣し、チュカ県教育委員会や各高校の関係者とともに、モデル 3 校の高校生が地域の課題や望ましい将来をつくるための学びを支援している。2023 年 7 月には、隠岐島前高校の生徒 4 名が草の根技術協力事業の一環でブータン国へ赴き、モデル 3 校の生徒と地域課題解決について学び合う予定である。

以上のような交流経緯から、ブータンから海士町へ派遣する対象者は特定可能であり、ブータン国チュカ県教育委員会、モデル校からの協力も得られる状況にある。

(2) 取組に至る経緯と現状の課題

・約 10 年前、少子高齢化や学生の島外流出により生徒数が減少した結果、隠岐島前地域で唯一の高校、隠岐島前高校は廃校の危機にあった。この状況を打破するために、「教育魅力化プロジェクト」の下、地域課題に学校と地域が協働的に取り組む課題解決型学習を始めとして魅力的な学校をつくる様々な取組を行った。

ブータンでも近年地方から都市部への若年層の流出は著しく、知識やテスト重視の教育となっている現状がある。この状況を改善する必要性から、ブータン側教育関係者が、教育の魅力化、課題解決型学習に着目し、ブータンに馴染む課題解決型学習を共に創り上げることを目指して草の根技術協力事業を実施することになった。

<http://miriyokuka.dozen.ed.jp/about/>

https://www.jica.go.jp/Resource/partner/kusanone/country/ku57pq00001nf5r8-att/bhu_04_c.pdf

(3) 課題解決に向けた基本方針

・海士町においては、地域課題解決、そして、地域が有する魅力を生かした地域づくりを継続するための方策の一つとして、関係人口の拡大に取り組んできた。グローバル化に伴いその関係人口の対象は世界中に拡大していると認識している。本事業を通してブータン人学生との対話から海士町の魅力・将来へ継承する物事を再確認し、今後の行政施策へ反映していくとともに、ブータン関係者との相互理解や共通する価値観の形成を通し、持続的な地域創成を目指す。

【事業概要】

・海士町はブータン国のチュカ県において JICA 草の根技術協力「地域活性化に向けた教育魅力化プロジェクトブータン王国における地域課題解決学習(PBL)展開事業」を受託し、一般財団法人地域・教育魅力化プラットフォーム、島前ふるさと魅力化財団、隠岐島前高校と連携しながら実施している(2022 年 1 月～ 2024 年 12 月)。ブータン側の共創者は、チュカ県教育委員会、チュカ高校、ゲドウ高校、バクシカ高校(以下、「モデル 3 校」)であり、プロジェクト開始後、日本側専門家が四半期に 1 度の頻度でブータンを訪問し、海士町・隠岐島前高校が連携して進めている地域課題解決学習の指導・助言者を派遣し、チュカ県教育委員会や各高校の関係者とともに、モデル 3 校の高校生が地域の課題や望ましい将来をつくるための学びを支援している。

また、2023 年 3 月、及び、7 月には、隠岐島前高校の生徒(各回 4 名、合計 8 名)が草の根技術協力事業の一環でブータン国へ赴き、モデル 3 校の生徒と地域課題解決について学び合いを行った。

この様な経緯のもと、隠岐島前高校における地域課題解決型学習の展開をブータン側関係者と共有することを念頭に置き、ブータン国の教育省、モデル 3 校校長、教員(以上は JICA 草の根事業)、高校生 3 名およびガイド 1 名(万博国際交流事業)を海士町に招聘した。



【事業内容】

- ・令和 6 年 1 月 20～25 日(金)に開催
- ・交流会場の概要など…隠岐島前高等学校など町内各所
- ・参加者の特徴・特性など…高校生 3 名、ガイド兼通訳スタッフ 1 名。他に、JICA 草の根事業により、ブータン教育省 3 名(課長 2 名、担当者 1 名)、チュカ県教育長 1 名、モデル 3 校から学校長 3 名、地域課題解決型学習を進める教員 3 名、を招聘
- ・海士町や隠岐島前高校での地域解決型学習(PBL)や探究学の実践事例から学び、ブータンでの PBL の方針策定や現場で実践したいアクションを見出すプログラムを実施した。

【交流会活動の内容】

・1 / 21 海士町プログラム 1 日目

(1)海洋ごみ拾い、海洋ごみを利用したアクセサリ作り体験



(2)高校生同士で隠岐島前高校周辺を散策し、地域概要を共有



(3)隠岐島前神楽とブータン舞踊交流会



(4)ホームステイ

・海士町内の普通の家庭での生活を感じてもらいたいと考え、3名の高校生はホームステイ先で宿泊した。

➡20名ほどの近隣住民、隠岐島前高校生等が集まったホームステイ先もあり、歓迎を受け、食事会後にゲームや談笑を楽しむ機会となった。

・1/22 海士町プログラム 2 日目

(1)隠岐島前高校生による地域課題解決型学習の現場を視察

・隠岐ジオパーク推進機構(観光開発と地域資源発掘)、崎漁港における未利用魚利用に係る視察、しゃん山(地域特産品売店)における芋の廃材利用に係る視察、さくらの家(社会福祉事業所)におけるふくぎ茶生産に係る視察を行い、隠岐島前高校生が取り組んでいる地域課題への理解を深めた。

・隠岐島前高校生により実施された AMA FES 開催に至る経緯、あまマーレ(食器や衣類のリサイクル施設)視察を行いこれらについても理解を深めた。

(2)海士小学校 4 年生との交流会

(3)隠岐島前高校生とブータン高校生の地域課題解決型学習発表会

(4)送別会

・大江町長をはじめ、海士町役場幹部および隠岐島前高校関係者が集まり、送別会を開催した。

隠岐島前高校内見学&教員対話会



最も盛り上がったのは国庫密(特にチュカ組)



教科に探究の要素を
そもそも何故はじめたのか?
生徒のモチベーションに変化はあった?
この取り組みのゴールは?

探究発表大会

地域共創科3名*
ブータン高校生3名

「海洋ゴミ」
「フードロス」
「観光(電動キックボード)」



「活動を持続可能なものにするためには?」
「活動に対するあなたの"My"は?」

・1/24～

・東京へ移動し、大学訪問・池袋散策などを行い、翌日、帰国。

【事業効果等】

(1)プータンの高校生にとっての学び

- ・隠岐島前高校生が地域課題を理解し、地元の人々と交流を通じてマイプロジェクトを作成し、課題解決に取り組んでいるプロセスを理解
- ・プータンに持ち帰り応用できるアイデアを多く見つけた。例えば、廃棄物からアクセサリーを作る方法など
- ・海士町の自然の豊かさと親切な人々に感銘を受けた。

(2)日本の高校生にとっての学び

- ・色々な世界を感じ、海外に興味を持った。プータンの地域課題を知り、主体的に学ぶプータンの生徒に刺激を受けた。
- ・遠い地のプータンの高校生も同じように喜んでいることを知り、新しい気づきを得た。

(3)海士町民にとっての学び

- ・プータンの祭りや島前神楽の共通点を感じた。
- ・人と人の交流が大切だと思う。

(4)プータン教育省-学校長・教員にとっての学び

- ・隠岐島前高校の地域課題解決型学習が双方にメリットをもたらすことを理解
- ・日本の教育改革で地域課題解決型学習が重要であることを学んだ。
- ・交流の様子は新聞などの各種メディアで報道された。



隠岐島前高校の生徒と海岸清掃に取り組む
プータンの訪問団（島根県海士町）

教育の能力化の参考にし、む課題解決型の探究学習を
よう、プータンの高校生（視察）、運営、島の再利
や教育関係者ら計14人が島用や食材の有効活用を学
根島海士町を訪れ、間町福、理解と交流を深めた。
井の隠岐島前高校が取り組む、プータン西部のチユカ集
3日の日程で教育省職員、の3高校には、国際協力機
学校長、教諭と高校生が視察、隠岐島前高校地域課題
交流部の生徒たちと海士鎮
道こみを基、隠岐島前高
ックをより分けてアクセサ
リー作りを体験した。未利
用魚や干し芋の廃材の活用
に力を入れる生徒たちの説
明も聴いた。夜は地元の高
前神楽とプータン民謡を盛
賞する交流会もあり、和や
かに触れ合った。
訪問団のうち、高校生の
ジー・マヤ・ライさん（16）
は、隠岐島前高校の生徒と
町民が協働して取り組む案
が勉強になったと振り返り、
プータンでもできるう
なアイデアがたくさんあつ
たと話した。（鎌田樹）

『山陰中央新報社』。朝刊、2024年1月25日、20面、地域、出雲（1版）

プータンから海士視察 高校生ら探究学習体験

【今後の展開・取り組み】

(1) ブータンにおける地域課題解決型学習の普及展開

- ・今回のブータン高校生招聘を通して高校生同士の学び合いができたこと、また、ブータンにおいても地域課題解決型学習は所期の成果を上げていることが確認できたことが成果の一つであった。
- ・教育省関係者も、カリキュラム化を含めて地域課題解決型学習を全国に展開していきたいとの意向を有していることを確認できたため、JICA 草の根事業、ブータン人留学生受入(現在調整中)、ブータン人国際交流員(CIR)配置(現在調整中)等を活用しながら相互協力を進めていきたい。

(2) 万博におけるブータン国関係者との交流

- ・大阪万博という国際イベントが日本で開催される機会を利用し、将来を担う世代である隠岐島前高校の生徒が世界を体感し、目を向けるきっかけにしたい。
- ・例えば、万博会場において隠岐島前高校生からブータンを紹介する機会、あるいは、フ、ータンの展示ブース運営をブータン関係者とともに共創する取り組みを実現できれば良いと考えている。実現のためには予算確保、ブータン側との調整を要するが、これらについて調整に取り組むこととしたい。

万博会場内では、具体的に、下記 2 点の内容での交流を目指している。

1. ブータン国の展示スペースにおけるイベント運営に対するお手伝い

ブータン国は日本国内に大使館を有しておらず、展示スペースの運営についても担い手確保が難しいのではないかと考え、隠岐島前高校の生徒がブースの運営や展示の説明等で貢献することを検討。

同校では、ブータン国を題材にした探求学習を進めていたり、地域・国際交流部も国際交流活動に取り組んでおり、ブータン国について親近感を抱いている生徒が少なからずいる。彼らが主体的にブータンの展示やイベント運営に関わることにより、ブータン国への理解、万博という国際イベントに貢献する達成感等、得られるものが多いと考える。

2.ブータン探求学習発表

高校生の視点で、ブータンから学んだことを発信する機会を提供。高校生のみならず、JICA ボランティアの OV 等のネットワークとも協力しながら、日本からブータンの良いところを広く知ってもらえるよう、クイズなどのアトラクションを含めて検討。

【参考 URL】

①交流×挑戦】海士町とブータンで新たな教育モデルを共創

<http://www.town.ama.shimane.jp/koho-ama/2022/02/post-77.html>

徳島県

プロジェクト名:

カンボジアの文化を徳島の人に伝えよう！ カンボジアの人たちに徳島の文化を伝えよう！ 2025
年は、共に輝く万博を創ろう！

交流相手国:カンボジア王国

【事業実施にあたっての課題と背景】

(1) 交流相手国とのこれまでの交流経緯・調整状況

・徳島県は徳島商業高校とカンボジア日本友好学園の教育交流をきっかけとして、2017 年 12 月に東京オリンピック におけるカンボジアのホストタウンに登録された。以降、徳島県、徳島商業高校、TOKUSHIMA 雪花菜工房等が中心となり、カンボジアの水泳選手団の強化キャンプの受け入れや東京オリンピック に向けた同選手団へのサポートなど、ホストタウン交流を積極的に行ってきた。2020 年以降は、新型コロナウイルスの影響により、様々な交流が低調になっていたものの、2022 年には、本県の事業であるとくしま魅力発信チャレンジ事業の活用により、プノンペン日本人学校の児童と高志小学校の児童が万博シグネチャーパビリオンのプロデューサーである中島さち子氏とメタバースで交流するなど市民レベルでの文化交流が再開した。2023 年 2 月末には TOKUSHIMA 雪花菜工房代表者がカンボジアの訪問を再開し、在カンボジア日本大使館をはじめとする関係機関との連携再開・強化をはじめ、四国大学とプノンペン大学の協定締結の準備等、今後の交流のさらなる拡大・深化に向けて準備が進められているところである。

(2) 取組に至る経緯と現状の課題

・万博に向けた県の方針：

https://marugotopavilion.pref.tokushima.lg.jp/assets/pdf/marugoto_pavilion_keikaku.pdf

本県では、「徳島商業高校－カンボジア日本友好学園（2013 年協定）」、「高志小学校－プノンペン日本人学校（2022 年交流開始）」、「四国大学－プノンペン大学（2023 年 7 月協定予定）」をはじめ、教育機関をきっかけとした文化・教育が中心のカンボジアとの国際交流が続けてきた。2020 年までに、カンボジアの特産品と徳島の製菓技術を組み合わせた両国における商品開発や徳島の食材とカンボジアのレシピでメニューを作り県民に紹介するなどの食文化を通じた学校間交流、カンボジア最大級の日本文化行事「日本－カンボジア絆フェスティバル」（在カンボジア日本大使館・カンボジア日本人材開発センター・国際交流基金アジアセンター共催）への阿波おどり団体派遣等の伝統文化を通じた交流などを実施してきた。東京オリンピック・パラリンピックにおいてカンボジアのホストタウンとなったものの、その後、新型コロナウイルスの影響を受けてカンボジアとの交流はオンラインのみとなり、以前のように活発な交流ができない状況となっていた。

日本では探究の学びが学習指導要領に示され、取り組みが開始されたがまだまだ十分な定着に至っていない。一方カンボジアにおいては、教科書を学ぶ学習が中心で社会課題を「思考する・探究する」学習は十分ではない。キャリア教育の進め方を模索するため、これまでもカンボジア教育青少年スポーツ省の方々が徳島県を視察するなど、徳島・カンボジア双方の子どもたちに質の高い教育を行うことが求められている。

【事業概要】

事前のオンライン交流を含め、徳島とカンボジアの食・踊り・音楽に関する以下の交流を実施した。

①絆フェスティバル出展（ブース出展及び阿波おどりワークショップ）

②カンボジア日本友好学園、王立芸術大学、セカンダリースクールオブファインアーツ、プノンペン大学の訪問・交流



【事業内容】

・カンボジア日本友好学園、王立芸術大学、セカンダリースクールオブファインアーツ、プノンペン大学の訪問・交流

・令和 6 年 2 月 21 日～27 日開催

・カンボジア日本友好学園、王立芸術大学、セカンダリースクールオブファインアーツ、プノンペン大学の訪問・交流し、相互の理解をはかった。

・交流会場の概要など…カンボジア各所（カンボジア日本人材開発センター（CJCC）内出展ブース及び Room6（絆フェスティバル）、カンボジア日本友好学園（プレイベン州）、王立芸術大学、セカンダリースクールオブファインアーツ、プノンペン大学）

・参加者の特徴…徳島県庁職員、四国大学・四国学院大学職員・生徒、東武トップツアー・星野綾香女史など。日本からの参加者 13 名など

・絆フェスティバルにおける阿波おどりワークショップは公式 Facebook での事前告知及び参加者募集を行った。

【交流会活動の内容】

- ・阿波おどりなどで伝統の踊りや音楽による交流を実施、ペットボトルワークショップ実施
 - ・カンボジア商業省および在カンボジア日本大使館において、2025 大阪・関西万博に向けた徳島県とカンボジアの取組について現状を確認。万博会場における交流（ナショナルデーや各パビリオンでの相互展示など）実施に向けて連携を進めていくこととなった。
 - ・カンボジア日本友好学園と長原小学校の交流により開発した「パームシュガーカステラ」とそのカステラを原材料にした「ラスク」を販売
 - ・四国大学・プノンペン大学連携協定調印式
- などの交流を行った。



阿波おどり交流の様



アプサラダンス及び阿波おどりの様



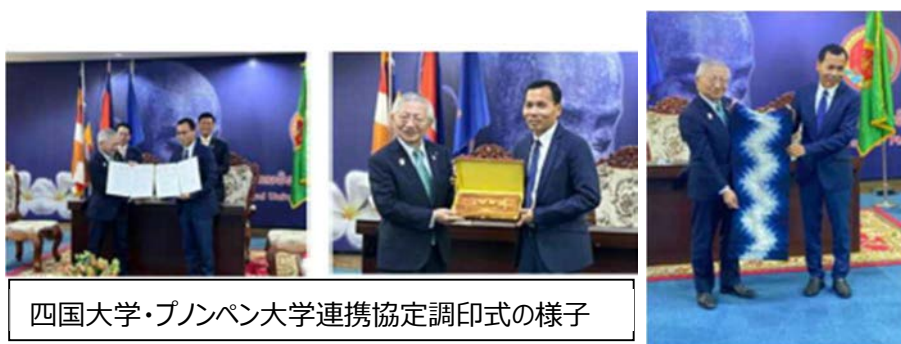
【事業効果等】

・カンボジアにおける万博担当省庁である商業省及び在カンボジア日本大使館を訪問し、徳島県とカンボジアの万博に向けた現状を共有するとともに、万博会場（ナショナルデー、徳島パビリオン、カンボジアパビリオン）における交流実施に向けて連携していくこととなった。

また、絆フェスティバル出展や各学校での踊りや音楽を通じた交流を実施することで、万博に向けた機運醸成が図られるとともに、万博会場における交流の基礎をつくることができた。

・ 今回のカンボジア渡航においては、コーディネーター的役割を担う人材が徳島県側とカンボジア側双方に存在したこと、カンボジア渡航経験が豊富な人材の存在、現地通訳の方の尽力等により多くの内容を実施することができた。現地での機材不足や時間変更など、小さな変更点が複数発生したが、これらの人員に臨機応変に対応いただけたことにより解決することができた。

特に、2025 年大阪・関西万博会場における交流実施へ向けた連携に関して合意が得られたことは大きな成果であり、今回の交流内容を基礎として会場での交流に確実につなげて参りたい。



四国大学・プノンベン大学連携協定調印式の様子

【今後の展望】

本年度実施した学生間交流を軸に、渡航により強固となった関係者との関係を活かしながら、下記 3 点の内容を中心に、交流の発展を目指す。

① 本事業に参画する児童生徒、学生等が主体となり、zoom などを用いながら、両国の食や文化を融合させた商品開発を行う。また、完成した商品をカンボジアや県内で開催されるイベントで販売する。

② これまではカンボジアの高校生と徳島県の高校生がメインで交流を行っていたが、今後は徳島県

全体へ交流の幅を広げる。

- ③ 万博を契機として徳島県とカンボジアの関係性の強化を図り、文化交流だけではなく経済交流へと波及させる。

万博会場内では、カンボジアパビリオン及び関西パビリオンにおける徳島県使用スペースや、中島さち子氏の「クラゲ館」、徳島県催事会場などを使用して、下記 3 点の内容で交流を実施することを目指している。

- ・カンボジアナショナルデーにおける各々のパビリオンでの相互紹介
- ・本県プログラムでも連携している中島さち子プロデューサーの「クラゲ館」における「阿波おどり」と「アプサラダンス」とのコラボの実施
- ・徳島県催事会場等における交流成果の発表

万博会場内で、お互いの文化芸能の交流等を通じた、学生達の自主的な「学び」と「創造」の循環を実現する。

【参考 URL】

①四国大学

<https://www.shikoku-u.ac.jp/news/event/20231022.html>

<https://www.shikoku-u.ac.jp/news/topics/20240305.html>

②JICA

https://www.jica.go.jp/activities/schemes/tech_pro/japancenter/article/2023/1532684_36482.html

大分県

プロジェクト名

水族館を核とした環境教育の実践 ～海でつながる大分とウェールズ～

交流相手国：英国 ウェールズ

【事業実施にあたっての課題と背景】

(1) 交流相手国とのこれまでの交流経緯・調整状況

・ラグビーワールドカップ（RWC）をきっかけに大分県とウェールズ政府と交流が活発化。友好関係の更なる発展に向け、令和 4 年 3 月に「友好と相互協力に関する覚書」（MOU）を締結。
R4 年度は、ウェールズ国立博物館と大分県立美術館（OPAM）との MOU 締結、OPAM でのウェールズパネル展の開催（オープニングセレモニーには英国大使夫妻が出席）、ウェールズの少年男声合唱団と緑ヶ丘高校合唱部とのオンライン交流、大分大学によるウェールズ アベリストウィス大学への夏季語学研修派遣などを実施。

今回の事業に参画するウェールズのアングルシー水族館とも R4.11 月に県担当者が渡英した際に面会。水族館同士の交流や両国の子供たちへの環境教育実施に向けた意見交換を実施。
県・ウェールズ政府双方が仲介し、水族館同士でもオンラインでの意見交換を行った。

(2) 取組に至る経緯と現状の課題

・日本と英国はともに島国であり、海は両国にとって切り離せない存在である一方、双方の海洋生物保護、環境保護に向けた取り組みなどを知る機会は少ない。

大分県は英国ウェールズと国際交流推進に関する MOU を締結し、様々な分野での交流を進めているが、若年層をはじめ一般県民の認知はまだ低く、より一層の取組が求められる。

(3) 課題解決に向けた基本方針

・大分県の水族館「うみたまご」とウェールズの水族館「アングルシー・シー・ズー」による連携を進め、それぞれの地元の海をよく知る専門家同士による環境教育・フィールドワークを県内の子供たちを対象に実施。 英国・ウェールズと日本の海や生物の共通点・相違点、それぞれの海が抱える課題についての学習を通じ、海・生物・環境への理解を深めるきっかけを作る。

【事業概要】

・大分県内の小学生を対象に、大分とウェールズの海の違いや、共通する海洋問題などについて考えるワークショップを実施。開催に先立って、企画主体となるうみたまご職員が令和 5 年 10～11 月にウェールズのアングルシー水族館を訪問。アングルシー水族館の取組、英国の生態系などについてフィールドワークを実施した。



【事業内容】

①ウェールズ訪問調査団

・交流の場所…ウェールズ アングルシー水族館

・参加人員 8人

・北ウェールズ アングルシー島の南東部に位置するアングルシー

水族館は、近郊の海に生息する生物を展示しているほか、近海に漂着したウミガメなどの野生動物の保護活動や、海洋環境の保護活動も行っている。訪問時は、バックヤードも含めた水族館全体と近郊の海岸などでレクチャーを受けた。



②海洋問題などについて考えるワークショップ

・2024年1月27日（土）・2024年2月17日（土）開催

・交流会場の概要…大分マリンパレス水族館「うみたまご」

・参加者の特徴・特性など…県内小学生 31名(第1回 17名、第2回 14名)、参加者保護者 約20名、マスコミ関係者 約10名(第1回 TV2社/新聞2社) (第2回 TV1社/新聞1社)、県内大学生 約20名(運営協力各回10名程度)

その他、大分マリンパレス水族館「うみたまご」職員、大分県国際政策課職員が運営スタッフとして参加。ウェールズからはアングルシー水族館スタッフがビデオメッセージで出演



ワークショップの様子

【交流会活動の内容】

①ウェールズ訪問調査団

- ・アングルシー水族館の施設、展示の概要についてのレクチャー
- ・同水族館が行っている活動（近海生物の繁殖、ウミガメの保護）のレクチャー
- ・同水族館の教育活動（海岸の清掃活動）についての体験

→訪問後のワークショップ開催にあたっては、水族館から大分県内の子供たちに向けてビデオメッセージを寄せてもらったほか、訪問時やワークショップ開催時は水族館や現地観光協会会長の SNS で紹介された。

②海洋問題などについて考えるワークショップ

●第1回「体験しよう！ウェールズ流ビーチクリーン活動！」

自分専用のゴミ拾い道具作り（マジックハンドの装飾）、田ノ浦ビーチから「うみたまご」までの海岸清掃、海洋ごみの問題について理解を深めるゲーム

●第2回「体感しよう！ウミガメが見た大分とウェールズの海！」

・ウミガメへのエサやり体験・実物の甲羅標本を使った体験活動、ウミガメの餌となるクラゲや小型生物の観察、ウミガメの生態についてのキーワードを振り返るゲーム



ワークショップの様子

【事業効果等】

①ウェールズ訪問調査団

・それぞれの海洋生物の専門家同士の交流の中で、海洋問題など共通する課題についての理解や意識の共有を図ることができ、ワークショップのコンテンツ作りだけでなく、今後のさらなる交流の土台作りができた。

今回の取組を単発の交流で終わらせないようにするため、次年度も継続的な交流と環境授業の実施を行う。その際は、相手側の子供たちとも交流できるような取り組みも検討したい。

②海洋問題などについて考えるワークショップ

・日頃から子供たちへの環境教育を行っている大分とウェールズ双方の水族館スタッフの知見を活かすことで、より子供たちの興味を引き出すワークショップを開催することができた。

身近な海だけの問題だけでなく、日本から遠く離れた地域についての海洋問題についての気づきを得る貴重な機会となったと感じている。

・さらに内容を充実させるために、ビデオメッセージだけではなく、さらにウェールズ側との双方向のコミュニケーションを図ることができるワークショップを次年度に向けて検討していきたい。

・ワークショップの様子は各種メディアにて紹介された。

ウミガメを通して小学生が海の環境を学ぶ 大分

2/17(土) 17:00 配信

BS大分放送

絶滅が危惧されているウミガメの生態を通して海の環境を考える、小学生対象の体験イベントが大分市のうみたまごで開催されました。

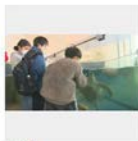
イベントには小学生14人が参加。

イギリス、ウェールズの水族館と交流がある、うみたまごのスタッフが海水温の上昇などでウェールズの海にもウミガメが現れるようになったと説明しました。

またうみたまごで飼育されているアオウミガメとタイマイに魚やイカの切り身などのえきを実際に与え、食べる様子を間近で観察しました。

小学生「カメのことを楽しく学べて、体験しに来てよかった」「死んでしまったりするウミガメがいなくなったらいいと思います」

また75センチある甲羅の根本を背負う体験も行い、楽しみながら海の環境を学びました。



2024/02/17

「体感しよう！ウミガメが見た大分とウェールズの海」を行いました

BS大分放送



英国ウェールズの「アングラシー水族館」の協力のもと、大分とウェールズの海を学ぶ2つのイベントの第二弾「ウミガメが見た大分とウェールズの海」を2/17(土)に開催いたしました。

今回は、ウミガメの飼育と海の環境変化や野生動物の保護について学びながら学ぶイベントで、大分県立小中学校の小学生・中学生・高校生に呼びかけ、興味のある分野の体験、ウミガメの生態の映像鑑賞による学習、授業科目についてのゲームなどに挑戦してもらいました。

このイベントは、2023年の大分・福岡県とウェールズ・地方自治体と連携協定・地域間、継続的に国際交流をしていくための「国際協定交流アフリカ」のモデル事業として実施するものです。



【今後の展開・取り組み】

・今回の交流は、アングルシー水族館の関係者はもとより、ウェールズ政府、北ウェールズ観光局（地元観光協会）など多くの関係者の協力によって実現した。

それらの皆さんは 2022 年 3 月に大分県とウェールズ政府が国際交流に関する MOU を締結し、様々な分野で継続的な交流を行う中で知り合った方々である。継続的な交流は人的な広がりにつながり、それが新たな交流につながっていくという好事例となったと感じている。

このような交流を属人的な一時的なもので終わらず、長期間継続していけるような双方のネットワーク作りを進めていきたい。

万博会場内の交流は、ウェールズ（英国側）の準備状況がまだ未公表のため、具体的な取り組みについては未定ではあるが、アイデア段階として、今年度実施したウェールズとの万博国際交流プログラムに関する紹介を含めた、大分県とウェールズとの交流について解説する展示の実施を目指している。

そのほか、合唱交流・文化芸術交流・小・中学校同士の交流など今後考えられる交流の中で 2025 年までに発表できる段階まで交流が進んでいる案件があれば、ウェールズ政府と調整の上で実施を検討したい。

【参考 URL】

①うみたまご（水族館）

<https://www.umitamago.jp/2024/02/17/welsh02/>

鹿児島県

プロジェクト名

鹿児島×ベトナム・テトフェスタ～鹿児島県とベトナム・ハイズオン省との交流～

交流相手国:ベトナム

【事業実施にあたっての課題と背景】

(1)交流相手国とのこれまでの交流経緯・調整状況

・ 令和元年 1 0 月にベトナム・ハイズオン省へ知事トップセールスを行い、鹿児島県内の経済界・医師会等、官民一体で 1 2 3 名の関係者が同省を訪問し、同省と人材や農業技術の交流等に関する連携協定を締結した。訪問では、技能実習生の送り出し機関などの関係機関を視察し、製造業・農業・建設業・介護分野等の優れた人材の送り出しを要請した。

同省からは、人材を鹿児島県へ派遣してもらい、県内企業での受入等を通じて、人的交流を行っている。

また、鹿児島県においては、毎年、ベトナムの旧正月の時期に「ベトナム・テトフェスタ」を開催しており、県民にベトナム・ハイズオン省との交流について広く周知するとともにベトナム文化芸術や食文化等に親しみを感じてもらい、県内在住のベトナム人との交流を行っている。

(2) 取組に至る経緯と現状の課題

・当県においては、人口減少や少子高齢化等による人材・担い手不足

▼関連URL（鹿児島県広報誌「県政かわら版」令和元年 1 2 月号）

https://www.google.com/url?client=internal-element-cse&cx=010935469551604429717:fammeppf88m&q=https://www.pref.kagoshima.jp/kawara/documents/75438_20191202092618-1.pdf&sa=U&ved=2ahUKEwjIyeDIra6AAxV8qlYBHWJbBLkQFnoECAIQAg&usg=AOvVaw29_g3_85c0NN-OLpcxyyRK

(3) 課題解決に向けた基本方針

- ・当県とベトナム・ハイズオン省との相互連携により、人的交流を通して双方の地域課題の解決をめざすことにより、関係人口を拡大する。

関連イベント等を通じて、鹿児島県在住のベトナム人と県民との交流を深めていくとともに、県内全域に交流の効果を波及させ、在住ベトナム人（技能実習生や留学生等）が安心して暮らせる持続可能な地域共生社会をめざす。

【事業概要】

・5,000 人を超えるベトナム人の他、様々な国籍の方が暮らしており、年々その数は増加傾向にある。ベトナム人をはじめとする外国人が住みやすく魅力的な鹿児島の実現と鹿児島県の国際交流の推進を図るため、「鹿児島×ベトナム・テトフェスタ」の開催を通じて、県民のベトナムへの関心や理解を深め、在住ベトナム人との多文化共生社会の実現を目指す。併せて、当該イベントを通して2025 年に開催される大阪・関西万博のPR を通して機運の醸成を図る。



【事業内容】

- ・令和 6 年 2 月 11 日) 開催
- ・交流会場など…よかど鹿児島
- ・4 ブース (ベトナム特産品, 料理, 万博紹介コーナー, ノンラー絵付け体験コーナー) 及び在留外国人相談コーナー (パテーション仕切りのブース) を設置するなどのイベントを開催
- ・参加人数 約 6000 人
- ・参加者の特徴・特性など…ベトナム人技能実習生, 技能実習生等を雇用する県内企業, 監理団体, 県民が参加した。年齢層は 10 代～80 代と幅広かったが、在住ベトナム人は 20 代が多数を占めた。

【交流会活動の内容】

- ・オープニングセレモニー
- ・万博トークショー
- ・ベトナム舞踊
- ・書道パフォーマンス
- ・アオザイファッションショー
- ・ベトナム新年運だめし

など、およそ 60 名の主に在住ベトナム人, 鹿児島県民により催された。

・VETJO (ベトナムニュース総合情報サイト)、温泉ばらだいす鹿児島 (鹿児島県ホテル・宿予約サイト)、ASEAN PORTAL、Kagoshima Vietnam Association など多数のメディアにて広報された。

～当日の様子①～



会場入り口サイン



ベトナム民族舞踊



オープニングセレモニー（知事挨拶）



ステージイベント（ベトナム舞踊と歌）



オープニングセレモニー（県内高等学校による書道パフォーマンス）



ブース出展



新年運だめし



在留外国人相談コーナー

～当日の様子②～



（山形）2025年日本国際博覧会組合ブースとマスコットキャラクター



（山形）2025年日本国際博覧会組合ブースとマスコットキャラクター



（山形）2025年日本国際博覧会組合ブースとマスコットキャラクター



（山形）2025年日本国際博覧会組合ブースとマスコットキャラクター

【事業効果等】

・日越双方の文化の紹介があり、日本人来場者からは「ベトナムの文化を知ることができ関心をもつことができた。」、また、ベトナム人来場者からは「ベトナム文化が日本人にも知られていることを誇りに思った」等、反響があった。

・（公社）2025 年日本国際博覧会協会による万博トークショーは、ベトナム語の逐次通訳を交えて行ったことで、来場したベトナム人にも万博開催への期待や理解を深めていただくことができた。また、来場者から万博のボランティアについてブースに問い合わせがある等、万博の開催機運の醸成が図られた。

・現金不可の会場だったため、事前に Edy カードの手配や買い物客への説明が生じた。

また、ベトナムの新年を祝う参加型の運だめしやランタンの会場装飾など、在住ベトナム人が故郷を懐かしく感じられるような演出を行い、来場したベトナム人に好評得た。

（公社）2025 年日本国際博覧会協会から、イベント開催までオンライン打合せや各種調整の協力を受けた。午前/午後の 2 回開催した万博トークショーでは、万博のイメージ VTR を大型スクリーンで上映しながら、万博へのベトナム参加やナショナルデーにも触れ、今回のテトフェスタとの関連性を持たせることができた。

初来県となる万博公式キャラクター「ミyakミyak」も来場者から人気を集め、イベントの相乗効果が高まったと感じた。

【今後の展望】

次年度以降も、人的交流やベトナム文化等を発信するイベントを継続して実施することにより、関係構築が深化し交流事業が成熟することを目指す。それと同時に、万博を契機とした、新たな事業の創出も目指していく。

万博会場内では、現時点では不明瞭な部分が多く未定ではあるが、本年度実施したベトナム・テトフェスタのような文化交流を実施できるように関係者との関係構築を実施していきたい。

【参考 URL】

①鹿児島県 HP

<https://www.pref.kagoshima.jp/af21/vietnamu-fair2023.html>

◆◆イベント参加者へのアンケート調査(※1)◆◆

◆イベントを知ったきっかけ

イベント区分	自治体から		インターネットから		知人/家族から		学校/職場から		ポスター・チラシ		合計
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数
全体	183	24%	121	16%	148	19%	83	11%	231	30%	766
国外クローズ	23	37%	0	0%	17	27%	19	30%	4	6%	63
国内オープン	160	24%	119	18%	113	17%	63	10%	201	31%	656
国内クローズ	0	0	2	4%	18	38%	1	2%	26	55%	47

・イベント告知メディアについて

イベントを知ったきっかけとして、ホームページ・SNS といったインターネットからと答えた人は比較적으로少なく 121 人である。ポスター・チラシといった媒体を通してイベントを知ったと答えた人数はインターネットで知ったとする人数のおよそ 2 倍となる。

・イベント告知チャンネルについて

自治体からと答えた人数は 183 人であり、家族/知人から、学校/職場からが併せて 231 人となっているが、自治体の魅力ある告知を目にした参加者の所属する小集団やコミュニティーが各々の参加者にイベント開催を伝播していったものと考えられ、自治体的による情報の発信はとても重要である。

◆年齢

イベント区分	10代		20代		30代		40代		合計
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	
全体	62	8%	117	15%	83	11%	114	15%	
国外クローズ	2	5%	1	3%	5	13%	5	13%	
国内オープン	48	7%	111	16%	74	11%	99	14%	
国内クローズ	12	22%	5	9%	4	7%	10	19%	
	50代		60代		70代		80代		合計
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	
	151	19%	127	16%	99	13%	27	3%	780
	6	15%	12	31%	6	15%	2	5%	39
	134	20%	103	15%	93	14%	25	4%	687
	11	20%	12	22%	0	0%	0	0%	54

・参加者の半数以上が 50 代以上であり、若年層・子育て世代の心を打つことに主眼を置いたイベント内容を模索する必要があると考える。

◆イベントへの満足度

イベント区分	満足		やや満足		中立		やや不満		不満		合計
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数
全体	428	53%	271	34%	50	6%	35	4%	24	3%	808
国外クローズ	57	79%	11	15%	1	1%	1	1%	2	3%	72
国内オープン	347	51%	230	34%	44	6%	34	5%	22	3%	677
国内クローズ	24	41%	30	51%	5	8%	0	0%	0	0%	59

・参加した人のおよそ 9 割がイベントに満足する結果となっており、国際交流に参加するきっかけとして、内容はもちろん重要だが、まずはイベントに足を運んでもらう工夫が重要となる。

◆2025 大阪関西万博を知っていたか？

イベント区分	知っていた		知らなかった		合計
	人数	割合	人数	割合	人数
全体	500	77%	151	23%	651
国外クローズ	57	84%	11	16%	68
国内オープン	347	60%	230	40%	577
国内クローズ	24	44%	30	56%	54

・イベント来場時の万博の認知度は 80%程であり、大阪府・大阪市万博推進局が全国 6000 人（うち府内は 4000 人）を対象にインターネットで実施した調査（※2）での万博の認知度が全体で 88.6%となっていることと比較しても、決して高くはない。

万博への興味の有無が、自治体の催す国際交流イベントへ参加・不参加に影響を与える可能性は小さいと考える。

◆イベントの相手国の方と万博やその他で交流やかかわりを今後も持ちたいか？

イベント区分	持ちたい		やや持ちたい		どちらともいえない		やや持ちたくない		持ちたくない		合計
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数
全体	327	46%	224	31%	72	10%	79	11%	11	2%	713
国外クローズ	30	56%	17	31%	2	4%	5	9%	0	0%	54
国内オープン	294	45%	207	32%	69	11%	73	11%	11	2%	654
国内クローズ	3	60%	0	0%	1	20%	1	20%	0	0%	5

・イベント参加者の 77%がイベントで体感した相手国の人々のすばらしさ、文化のすばらしさにより、さらなる交流に前向きな姿勢となっている。

質問が異なるため、一概には言えないが大阪府・大阪市万博推進局の調査で示された万博への

興味関心がある」とした人が 34.1%であることを考えると極めて高いと言える。

◆ イベント参加者からの今後の国際交流に対する意見

・アンケートでは「大阪・関西万博を契機としたどのような国際交流イベントに参加したいか」の質問も行った。

参加したそれぞれのイベントに類するイベントを挙げる参加者が多かったが、音楽・食・芸術といった分野を希望する回答が多かった。これらを挙げる回答の端々に言語に対する不安が書き込まれていた。

また、直接相手国の人々と触れ合う形式の国際交流を行った参加者からは、努力による言語習得の効果、身振りや手振りによるコミュニケーション、翻訳機・通訳者を介したコミュニケーションなど様々な成功体験を積むことによってか、今後も直接的な触れ合いを求める意見も多かった。

※ 1 アンケートのそれぞれの有効回答数の総数を 100%としその割合を算出。全体の人数とともに、イベントが国外か国内か、広く参加者を募集するイベントか比較的狭く募集するイベントかでオープンなイベント・クローズなイベントとして類型化を試み作表した。

国外クローズイベント（村上市・ブルガリア訪問、狭山市・韓国訪問、富山県・アイルランド訪問、宮田村・韓国訪問、京都府・ベトナム訪問）、国内クローズイベント（駒ヶ根市・ネパール語講座など、海士町・ブータン学生訪問団受入）、国内オープンイベント（前記以外のイベント）

※ 2 参考資料として「令和 5 年度大阪・関西万博機運醸成事業 KPI 把握のための調査・分析」
2024 年（令和 6 年）1 月 大阪府・大阪市万博推進局
(<https://www.pref.osaka.lg.jp/attach/43352/00000000/qa2023-2.cleaned.pdf>)のデータを参照した。

◆◆実施報告書内アンケート◆◆

◆提出の際、事務局より作成した報告書を使用して、今回のイベント・今後のイベントの開催にあたっての懸案事項を尋ねて、得た回答が以下になる。

①今回のイベントを開催するにあたり、懸案となった事項は何ですか？					
	人員	予算	庁舎内各部署との 連絡・調整	住民からの理解・協力	その他
浦幌町	○	○	○	○	
村山市	○	○	○		
狭山市			○		相手方との連絡調整
富山県					
石川県			○		相手方との連絡調整
駒ヶ根市	○	○			
宮田村	○	○			
京都府	○	○			相手方との共通認識の醸成に向けた繰り返しの協議
堺市	○	○	○		
吹田市					交流類型と相手国との関連づけ
松原市	○	○			
徳島県		○			
大分県				○	
鹿児島県	○	○			駐日ベトナム大使館への連絡
②今後、国際交流事業を行うにあたり、懸案事項はありますか？					
	人員	予算	庁舎内各部署との 連絡・調整	住民からの理解・協力	その他
浦幌町	○	○	○	○	
村山市	○	○	○		
狭山市		○			
富山県					
石川県		○			相手方との連絡調整
駒ヶ根市	○	○	○		
宮田村	○	○			
京都府	○	○			
堺市	○	○	○		
吹田市			○		
松原市		○			
徳島県		○			
大分県		○			
鹿児島県		○			

・人員や予算の他に、自治体内各部署や相手国との連絡調整や地域住民からの理解・協力を懸案事項としてあげる自治体もある。

◆事業を行った自治体から、他の自治体へのアドバイスなど

(浦幌町)

・イベント開催のきっかけや交流相手国の選定理由などを伝えることで、住民からの理解も増えると感じた。

・今回のイベントでは、事前準備の段階からマリ共和国と日本の文化や価値観の違いを感じる場面があった。当日イベント参加者に異文化理解の場の提供だけでなく、運営を行う上でも相互理解が重要であると感じた。

(村山市)

・事業を実施するにあたり、単独事業をするよりも連携事業をとったほうが予算としても内容の充実化としても効果の高い事業となることを学ぶことができた。他自治体につきましては、関連団体や関連大使館とも密に連携を取りながらより効果的な事業展開をご期待申し上げます。

・内閣官房様につきましては、そういったつながりがない自治体に対して、関連団体や関連大使館との中継役をしていただけますと活発化につながると存じます。

・予算としましては、国際交流という分野は、目に見える効果（数値化など）の成果報告が難しく、地域性によって賛否両論ある分野ですので、当市では、比較的積極的な実施実績があっても単独予算化は難しい状況です。本事業のような国際交流に係る補助事業がありますと市としても対外的な説明や予算化がしやすくなりますので、長期的でかつ掛け率の高い補助事業をご期待申し上げます。

(狭山市)

・補助金交付の確定時期が4月または5月でないと、相手先へのオファーが難しい。

(駒ヶ根市)

・今回の事業を行う上で、大使館と連携ができたことで、より規模の大きな事業ができた。

・基礎自治体では十分な予算の確保ができず、事業規模は限定的になってしまう。財源は特別交付税ではなくて、補助金や交付金が活用できるとありがたい。

(宮田村)

・宮田村は人口9,000人ほどの小さな村であります。

しかし、このような村でもあっても海外と交流をすることは可能であります。

今回「万博国際交流プログラム」を活用した取り組み成果を発表しました。

参考になるかわかりませんが少しでもお役に立てる情報や興味があれば連絡ください。

(堺市)

- ・交流相手国の関係者と良好な関係を築くことが大切であると考える。

経費の支出に関する帳票や用語など自治体では前例がないものがあったことや、当初予算で疑義が整っていない事業であるため、新規事業の取り扱い、事業内容の変更、庁内他課との調整を余儀なくされたことから、事業実施にあたり国際交流協会との共催にするなどイベント総括を担う庁外機関との連携をお勧めします。

(徳島県)

- ・現地訪問時に、在カンボジア日本大使館やカンボジア商業省との面会を行い、当プログラムで連携する中島さち子テーマ事業プロデューサーのパビリオンや取り組みについて情報共有をし、カンボジア商業省での 2025 関西・大阪万博についての準備状況も伺った。

引き続き、大使館を含めた関係各所と連携し、カンボジア商業省など万博関連部署と情報共有しつつ、ミーティングの機会等を定期的に持ちたいと考えており、国についても引き続き支援体制の整備をお願いしたい。

交流にあたっては相手国側の協力者の有無が、交流の達成度に大きく影響する。

(大分県)

- ・様々な分野において、連携を図れる協力者を増やしていくことが重要であることを痛感した。

徳島県×カンボジア_現場同行時_調査報告書

【事業概要】

徳島とカンボジアが実施した食・踊り・音楽に関する以下の交流と、相手国関係者との関係構築の場に同行し、観察や記録を行った。

- ・絆フェスティバル出展（ブース出展及び阿波おどりワークショップ）
- ・カンボジア日本友好学園、王立芸術大学、セカンダリースクールオブファインアーツ、プノンペン大学の訪問・交流
- ・カンボジアにおける万博担当省庁である商業省、及び在カンボジア日本大使館を訪問

【実施内容】

- ・商業省訪問

メンバー：四国大学 鈴鹿先生含む SteAm 4 名 徳島県庁阪口さん

内容：現地の万博担当者の方と繋がる

- ・絆フェスティバル

主催：在カンボジア日本大使館

会場：CJCC(カンボジア日本人材開発センター)

現地メインメンバー：カンボジア友好学園学生 4 名 + 徳島県大学生 3 名

内容：商品開発を行った長原小学校とカンボジア友好学園学生のオンライン交流

「パームシュガーカステラ」とそのカステラを原材料にした「ラスク」を販売。



・音楽×阿波踊り交流

該当：王立芸術大学、セカンダリースクール、絆フェスティバルでの阿波踊り WS

メンバー：ゑびす連所属 徳島県の大学生 2 名、四国大学職員、徳島県庁職員、

中島さち子プロデューサーを含む SteAm 所属アーティスト 3 名

内容：カンボジアの伝統芸能を鑑賞後、徳島県の阿波踊りを披露、最後に阿波踊りを一緒に踊り、文化交流を実施。



・メタバース遊具 WS 音楽交流 @ブノンベン大学

会場：ブノンベン大学 日本語学科

メンバー：中島さち子プロデューサーを含む SteAm 所属アーティスト 3 名

徳島県の大学生 3 名、四国大学職員、徳島県庁職員

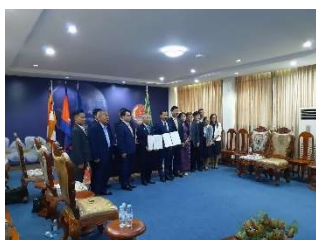
<https://future-earth-school.com/idea/>



・四国大学・プノンペン大学連携協定調印式。

会場：プノンペン大学

メンバー：四国大学学長、副学長、職員、徳島県の大学生 3 名、徳島県庁職員



【総評】

・絆フェスティバル

徳島県の長原小学校の生徒たちが開発したカステラ、ラスクをカンボジア友好学園の学生 4 名と徳島県の大学生 3 名がサポートする形で販売。販売前に長原小学校の学生とオンラインで交流も行い、長原小の小学生の商品に対する思いを事前に話し合ったり、お互いの学校生活に対する質問をしあった。販売当日も販売の様子を長原小学校の生徒にオンラインで見せていた。ブースでの万博のちらしの配布や、ポスターの展示、カンボジアの学生が中島プロデューサーのクラゲ館の法被を着ての販売など、参加者に広く万博を周知する場所になった。

・音楽×阿波踊り交流

該当：王立芸術大学、セカンダリースクール（芸術系の大学）、絆フェスティバル

2 つの訪問先の芸術系大学では、お互いの伝統芸術を披露。今回の文化交流では、互いの文化の融合まではなかったものも、阿波踊りを披露後に、カンボジアの学生と一緒に阿波踊りを楽しんでいた。交流の後も写真を撮りたいカンボジア学生の列ができるなど、大人気で文化交流でお互いの距離がぐっと縮まる様子を体感できた。

・プノンペン大学 メタバース遊具 WS

中島さち子プロデューサーが行っているバーチャルクラゲ館に関する WS をプノンペン大学の学生に実

施。WS の前に徳島パビリオンの話や、クラゲ館の紹介を行い、学生に広く万博を周知した。

・各訪問先での関係者との交流

カンボジアにおける万博担当省庁である商業省、及び在カンボジア日本大使館、今回訪問した 3 つの学校、いずれにおいても、徳島「まるごとパビリオン」の話から、中島さち子プロデューサーのクラゲ館の話まで、広く大阪・関西万博を周知していた。大阪・関西万博に関するお話は、各関係機関の担当者レベルだけではなく、各イベントに参加した現地の学生にまでして、カンボジアの学生にまで大阪・関西万博を認知させることができたといえる。

商業省の訪問では、現地の万博担当者と繋がり、今回訪問した 3 つの学校の学長レベルと万博当日に徳島県の阿波踊り×カンボジアの伝統文化のようなイメージで、学生間の文化交流ができないかという具体的な話までして、万博当日の交流の実現可能性が非常に高まった印象を受けた。徳島県担当者、カンボジアの担当者双方、カンボジアの伝統文化、芸術を学ぶ学生たちが万博当日に来日し、万博会場あるいは徳島県で文化交流ができることが理想であると認識して、万博会期中の交流に双方が前向きな様子が見えた。

・コーディネーター的役割を担う人材の重要性

今回のカンボジア渡航において、万博当日、ひいてはそれ以降の交流の発展に繋がる成果が得られた背景には、コーディネーター的役割を担う人材が徳島県側とカンボジア側双方に存在したこと、カンボジア渡航経験が豊富な人材の存在が大きかったといえる。

四国大学職員の鈴鹿氏は、およそ 20 年ほど前から JICA の事業の一環で、カンボジア日本友好学園にて商品開発に関する講義を実施してきた。今回の渡航は、その頃から長い時間をかけて関係を構築してきた在カンボジア日本大使館のサポートや、当時生徒として教えていた方が通訳案内士として、カンボジア関係者との調整を行ったことで、限られた渡航期間、費用の中で、最大限の成果を上げることができたと思う。

・若年層における万博国際交流プログラムの重要性

今回の渡航では、学生同士の文化交流がメインに実施された。文化交流が行われる前後で、簡

単に大阪・関西万博に関する周知活動を行うことで、本年度実施したような交流をより大規模にできる可能性が大阪・関西万博にあるということを、若年層に印象づけることができたと考える。本プログラムに阿波踊りの踊り手として参加した徳島県の大学生は、本プログラムに参加する前、大阪・関西万博については知っていたが、具体的にどのように自分たちが万博に参加できるのかについては不透明で、どこか他人事のように感じていた。しかし、今回の渡航を通じて、各訪問先で阿波踊りを通じた文化交流を体験したことで、同様の交流が万博で可能であるならば、ぜひ万博に参加してみたいと万博参加に対して前向きに捉えるように変化した。徳島県の学生だけでなく、カンボジアの学生も、交流を通じて、万博当日も参加したい、ひいては徳島県を訪れてみたいと来日交流の機運を高めることができた。

以上の点から、万博国際交流プログラムは、若年層の万博参加への機運を高める重要な機会となりうることを実感した。

（５）全国の自治体に対する国際交流需要調査

全国の自治体に対して、国際交流の需要についてのアンケートを実施。

①実施概要

調査の目的：全国の自治体に対して、令和６年度以降、万博を契機とした国際交流（以下「万博国際交流」）の需要などについての調査を実施した。

調査年月：令和５年７月

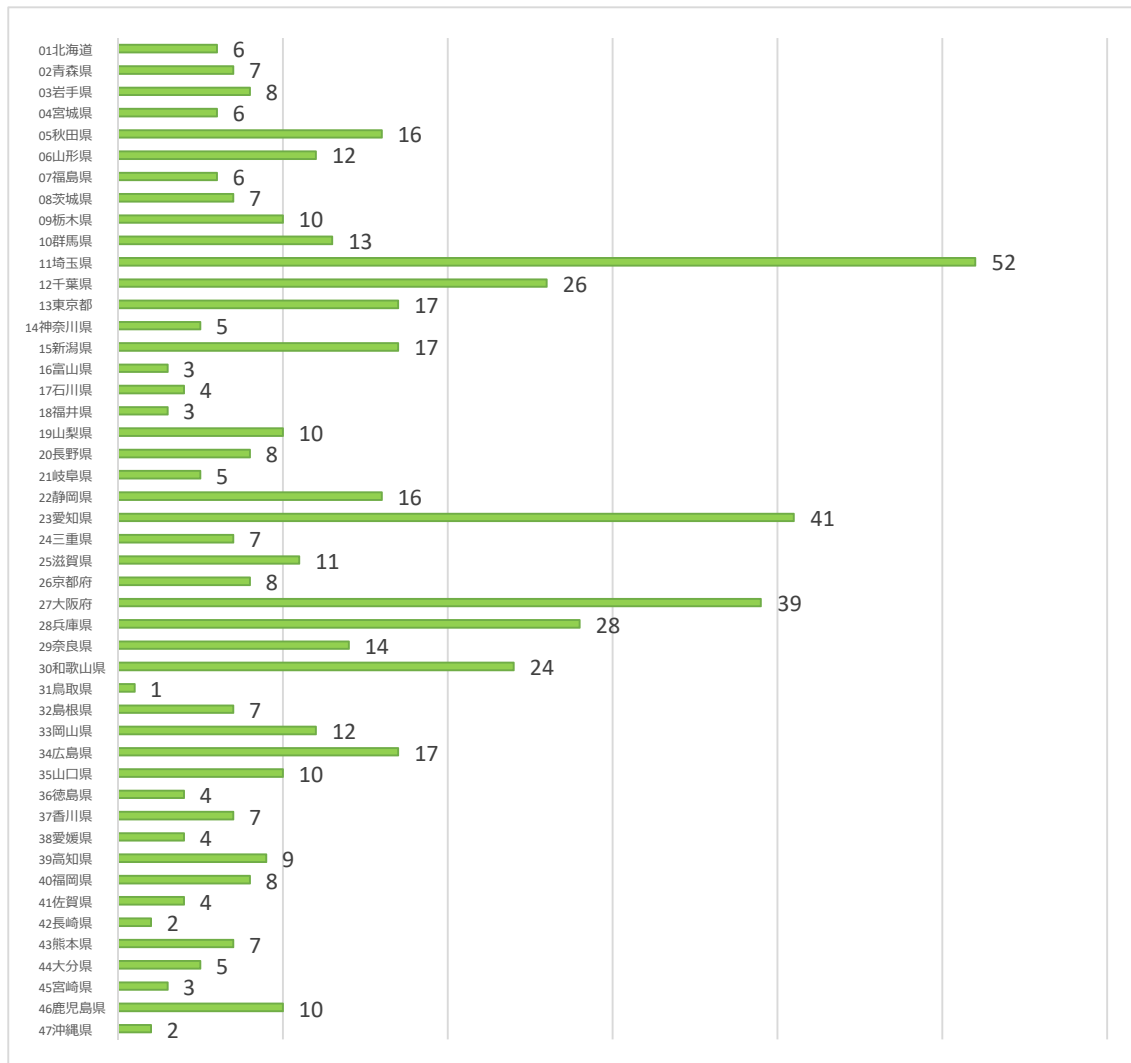
調査方法：インターネット調査（ネットリサーチ）

調査対象：全国の地方公共団体（都道府県、市町村）

回答数：541件

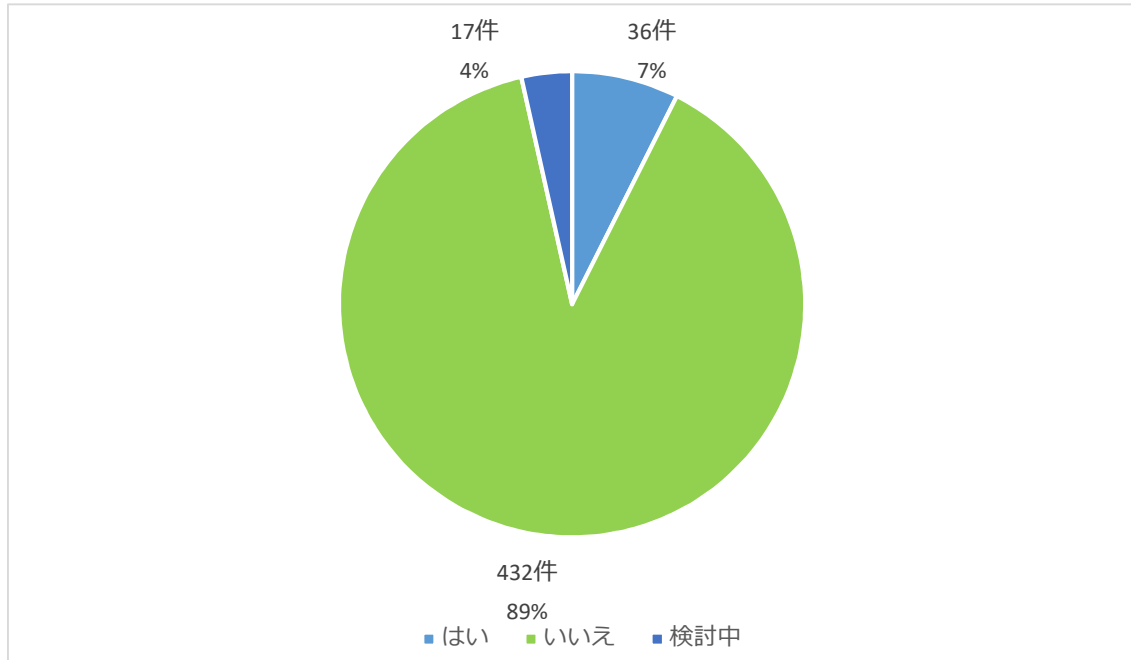
●都道府県別回答数

・埼玉県の各自治体からの回答が最も多く、大阪府など関西圏の市町村からの回答数も多い。



②アンケートの結果

Q1.令和6年度以降、万博を契機とした国際交流（「万博国際交流」）への参加希望がありますか。



* 万博国際交流に参加希望しない自治体の主な理由

【実施体制の問題】

- ・人員の確保が難しい
- ・予算の確保が難しい。
- ・国際交流に関するノウハウが不足している。

【現状の国際交流を継続】

- ・すでに姉妹都市、友好都市との交流を行っているため、現状それ以外の交流を検討していない。
- ・オリパラの際のホストタウン交流を契機に行っている交流を継続しているため、万博を契機とした新たな国際交流を検討していない。

【その他】

- ・万博を契機とした国際交流の具体的なイメージが浮かばない、あるいは必要性を感じない。
- ・機運がない。

・体制が整っていない・他業務との兼ね合いによるなどの回答も多い。

◆希望しない理由として寄せられた延べ 423 の回答を、人員の確保の問題、予算確保の問題、ノウハウの問題、機運がないあるいは必要性を感じない、現在の国際交流を優先、その他に類型化しまとめたところ、下記の表のような結果となった。

人員の確保の問題	予算確保の問題	ノウハウの問題	機運がない 必要性を感じない	現在の国際交流 を優先	その他
91	72	36	111	137	36

・人員や予算の確保、ノウハウの不足といった具体的な問題もあるが、機運がない・必要性を感じないとする回答が目立つ。人員・予算・ノウハウは求められれば、何らかの形で提供できる可能性がある。しかし、機運がない・必要性を感じないといった回答に対しては、イベントの開催・広報活動などにより地域住民からの盛り上がりを自治体担当者に感じられるほどに高めていく必要がある。

Q. 2「万博国際交流」の交流相手先として特定の国・地域（万博参加表明国・地域であるか否かに関わらず）を念頭に置かれている場合、その国・地域名をご記載ください。①

都道府県	自治体	交流希望国
岩手県	釜石市	オーストラリア
宮城県	亘理郡	イスラエル
秋田県	横手市	台湾
秋田県	大館市	タイ、フランス（アルザス地方）
山形県	鶴岡市	ユネスコ創造都市ネットワーク加盟国（主に食文化創造都市）
福島県	喜多方市	米国、中国
福島県	東白川郡	ベトナム、インドネシア
茨城県	猿島郡	アルゼンチン共和国、フランス共和国、エストニア共和国
栃木県	那須塩原市	オーストリア共和国
埼玉県	入間市	英語圏の国地域
埼玉県	富士見市	セルビア共和国シャバツ市
埼玉県	入間郡	オランダ
千葉県	-	オランダ王国
千葉県	山武郡	ベリーズ
富山県	-	アイルランド
石川県	-	大韓民国全羅北道
石川県	羽咋郡	アゼルバイジャン共和国
長野県	長野市	アメリカ、中国
岐阜県	大垣市	台湾
静岡県	静岡市	中国（浙江省）、韓国（忠清南道）、モンゴル（ドルノゴビ県））、フランス、台湾、アメリカ、ベトナム
静岡県	熱海市	ポルトガルカスカイス市、イタリアサンレモ市、中国珠海市、ブルネイダルサラーム国、台湾
静岡県	三島市	アメリカ合衆国
静岡県	富士市	ラトビア共和国
静岡県	牧之原市	アメリカ合衆国
愛知県	豊橋市	ドイツヴォルフスブルグ市、リトアニアパネヴェジス市、中国南通市
愛知県	稲沢市	ギリシャ共和国オリンピア市
愛知県	知多市	カタール国
愛知県	尾張旭市	トンガ王国
愛知県	知多郡	シンガポール
三重県	名張市	フィリピン
三重県	多気郡	スペイン、ドイツ

Q. 2「万博国際交流」の交流相手先として特定の国・地域（万博参加表明国・地域であるか否かに関わらず）を念頭に置かれている場合、その国・地域名をご記載ください。②

都道府県	自治体	交流希望国
滋賀県	-	米国、中国、ブラジル、オーストリア
滋賀県	近江八幡市	グランドラピッズ市（アメリカミシガン州）、密陽市（韓国慶尚南道）、マントヴァ市（イタリアロンバルディア州）、レブンワース市（アメリカカンザス州）
京都府	-	ベトナム社会主義共和国トゥアティエンフエ省、中華人民共和国陝西省、インドネシア共和国ジョグジャカルタ特別区、アメリカ合衆国オクラホマ州、ロシア連邦レニングラード州、英国エディンバラ市、フランス共和国オクシタニ州、カナダケベック州
京都府	亀岡市	アメリカ合衆国、ブラジル連邦共和国、中華人民共和国、オーストリア共和国
大阪府	岸和田市	フランス共和国シャラントマリティーム県ラロシェル市
大阪府	豊中市	アメリカサンマテオ市
大阪府	吹田市	スイス
大阪府	泉大津市	オーストラリアグレートジーロン市
大阪府	枚方市	中華人民共和国上海市長寧区、オーストラリア連邦ローガン市、大韓民国全羅南道靈岩郡
大阪府	八尾市	アメリカ合衆国ワシントン州ベルビュー市、中華人民共和国上海市嘉定区
大阪府	泉佐野市	中国、モンゴル、ブラジル、ウガンダ、ベトナム、韓国
大阪府	松原市	オーストラリア（ムーニーバレー）、韓国
大阪府	箕面市	メキシコ合衆国モレロス州クエルナバカ市
大阪府	羽曳野市	オーストリア共和国ウィーン市 13 区ヒーツィング
大阪府	高石市	アメリカ合衆国、ロミタ市
大阪府	東大阪市	アフリカ地域を中心としたグローバルサウスと呼ばれる国々との交流を念頭に、「万博国際交流」の趣旨を踏まえた具体的な対応について本市独自の取組みを含め現在検討中。
大阪府	泉南市	フィリピン共和国ダバオ市
大阪府	交野市	カナダ国オンタリオ州コリングウッド
大阪府	阪南市	アイスランド
大阪府	泉北郡	ノーザンビーチーズ市（オーストラリア）
兵庫県	神戸市	ラトビア共和国リガ市
兵庫県	豊岡市	韓国、フランス
兵庫県	三木市	フランス
兵庫県	南あわじ市	アメリカセライナ市、ノルウェーボーダ市、イタリアトロペア市、スペインサンセバスチャン市
兵庫県	神崎郡	アメリカ合衆国ワシントン州ポートタウンゼント市
奈良県	天理市	韓国（瑞山市）、エジプト、台湾
奈良県	宇陀市	エストニアサーレマー市
和歌山県	東牟婁郡	スペイン、アメリカモンレーパーク市、ベトナム

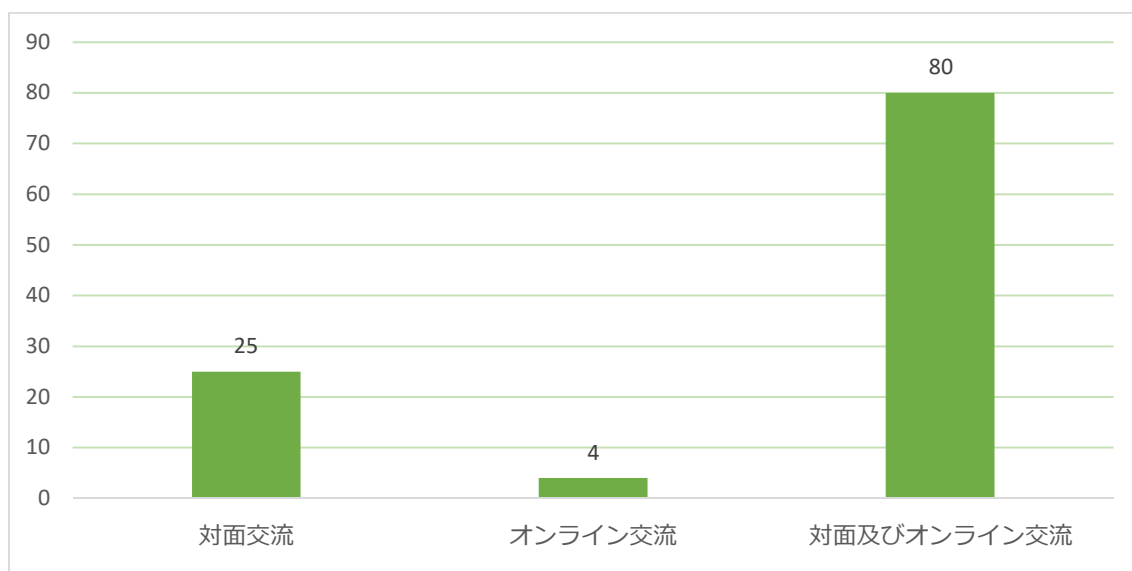
Q. 2「万博国際交流」の交流相手先として特定の国・地域（万博参加表明国・地域であるか否かに関わらず）を念頭に置かれている場合、その国・地域名をご記載ください。③

都道府県	自治体	交流希望国
岡山県	-	アメリカ特にハワイ州
岡山県	津山市	オランダ王国
広島県	三原市	ニュージーランド
山口県	宇部市	ニューカッスル市（オーストラリア）、威海市（中国）、カステジョデラプラーナ市（スペイン）
山口県	山口市	スペイン
香川県	丸亀市	中国：張家港市、スペイン：サンセバスチャン市、ドイツ：ヴァイッヒ市
香川県	東かがわ市	オーストラリア
香川県	小豆郡	北欧ヨーロッパ（フィンランド、ノルウェー、スウェーデン等）
愛媛県	新居浜市	ドイツ連邦共和国
高知県	-	ミクロネシア、トンガ含む他太平洋島嶼国、韓国全羅南道、オランダウエストランド市
高知県	須崎市	チェコ共和国
熊本県	阿蘇市	台湾、中国など
大分県	-	イギリス（ウェールズ）
大分県	大分市	スイス連邦
大分県	別府市	イギリス（バース市、ウェールズ）、ニュージーランド（ロトルア市）
宮崎県	延岡市	ドイツ、台湾

令和6年度以降、万博国際交流への参加に「興味がある」「検討中」と回答があった自治体のうち、およそ7割の自治体が交流相手先として特定の国・地域を回答。

中には、姉妹都市や友好都市、オリパラの際のホストタウンなど、以前から交流のある国・地域との継続的な交流を希望している自治体も見られる。

Q.3「万博国際交流」で検討している事業の実施方法をご回答ください。



※交流の実施方法としては、対面とオンラインを組み併せて行いたいとする自治体約 8 割を占める。

その内容については次ページ以降にまとめる。

Q.4「万博国際交流」で検討している事業の具体的な内容を下記項目ごとにご記載ください。①

都道府県	自治体名	(1) 万博参加国・地域のナショナルデーのイベント参加、パビリオンの準備・運営等に関わる者との交流	(2) 万博参加国・地域の関係者との交流	(3) 万博の企画・運営等に関わる日本人等との交流
秋田県	横手市	検討中	台湾大同大学の学生及び関係者と市内の高校生等との交流を行う。	検討中
秋田県	大館市	パラスポーツをフックにした障がい者スポーツの振興に資するイベントの共創及び子ども達の当該イベント参加	東京パラリンピックホストタウンによるタイ王国との繋がりを深化させる事業	検討中
栃木県	那須塩原市	オーストリアパビリオンのナショナルデーで、本市の学生とオーストリアの学生がオンラインでつながり合唱を披露する。またオーストリア関係自治体や大使館等の関係者にも参加いただき全員で音楽交流を楽しむ。	オーストリア大使館・万博関係者との参加、または音楽学校関係を参加した交流	万博の演奏に参加する音楽家等アーティストの参加
埼玉県	入間市	検討中	万博参加国・地域への小中高校生の短期語学（英語）留学	検討中
千葉県	横芝光町	大阪・関西万博 2025 体験会、パビリオン関係者の町訪問	ベリーズへの訪問、ベリーズ留学生による授業、アートマイル国際協働学習プロジェクト、ベリーズ交流演奏会	空港関連企業からの講話授業

Q.4「万博国際交流」で検討している事業の具体的な内容を下記項目ごとにご記載ください。②

都道府県	自治体名	(1) 万博参加国・地域のナショナルデーのイベント参加、パビリオンの準備・運営等に関わる者との交流	(2) 万博参加国・地域の関係者との交流	(3) 万博の企画・運営等に関わる日本人等との交流
富山県	-	富山県の魅力体感ツアーの実施（駐日アイルランド大使館職員及び首都圏在住アイルランド人ファミリーを招待）	ダブリン観光誘客プロモーション（寿司職人・和菓子職人による富山のサステイナブルな「食」のデモンストラーション、富山県の観光の魅力を紹介）、富山県とアイルランドのオンライン交流	ナショナルデーの際のイベントに参加してもらう
石川県	-	＜R 7＞万博会場においては、自治体参加催事において、石川県の祭りや全羅北道の文化団体の公演を披露するとともに、文化を通じた国際交流の重要性について議論する場を設ける。万博会場外においては、本県での地域文化行事の体験や交流の場を設ける。	＜R 6＞全羅北道に本県の伝統芸能団を派遣し、公演を通じて本県の文化への理解促進を図る。 ＜R 7＞自治体参加催事において、石川県の祭りや全羅北道の文化団体の公演を披露するとともに、文化を通じた国際交流の重要性について議論する場を設ける。また、万博会場外においては、本県での地域文化行事の体験や交流の場を設ける。	＜R 7＞自治体参加催事において、石川県の祭りや全羅北道の文化団体の公演を披露するとともに、文化を通じた国際交流の重要性について議論する場を設ける。また、万博会場外においては本県での地域文化行事の体験や交流の場を設ける。
愛知県	美浜町	2005年の愛知万博での活動を紹介し、万博に初めて来た人には、美浜町とシンガポールの関係を伝え、愛知万	東京オリンピック・パラリンピック開催当時は対面で行えなかった、東京オリンピック・パラリンピックの選手たちとの交流を行う。	検討中

Q.4「万博国際交流」で検討している事業の具体的な内容を下記項目ごとにご記載ください。

③

都道府県	自治体名	(1) 万博参加国・地域のナショナルデーのイベント参加、パビリオンの準備・運営等に関わる者との交流	(2) 万博参加国・地域の関係者との交流	(3) 万博の企画・運営等に関わる日本人等との交流
静岡県	静岡市	ナショナルデーに合わせた交流イベントの実施等	相互訪問を通じた住民との交流、学生交流等	博覧会推進本部事務局関係者の交流イベントへの参加等
静岡県	熱海市	交流国のナショナルデーでのイベント共同実施	観光交流に関する情報共有	検討中
静岡県	富士市	イベント参加等のため参加した方々との交流	VRを活用した交流	ラトビア共和国大使館関係者との交流
静岡県	牧之原市	アメリカ合衆国ナショナルデーにおけるイベント参加及びパビリオンの準備・運営等に関わる者との交流	2020 東京五輪 U S A サーフインチームとの交流及びハワイの青少年慈善財団との交流	アメリカ関係者による地域の子どもたち
愛知県	豊橋市	検討中	万博前後に相手国の歴史や文化を理解するとともに、万博開催中に来日した相手国の万博関係者を本市に招いて、講演会や住民との交流イベント等を開催する。	検討中
愛知県	尾張旭市	検討中	愛・地球博のパートナー国であったトンガ王国の万博関係者を尾張旭市に招く	検討中
三重県	名張市	フィリピン政府関係者、提携大学の関係市長及び現地日本企業のコミュニティ等との交流を予定	提携大学と、当該大学の学生との交流	関西圏の国内大学、高校等であって、本市とフィリピンの提携大学との相互交流事業の趣旨に賛同いただける大学

Q.4「万博国際交流」で検討している事業の具体的な内容を下記項目ごとにご記載ください。④

い。④

都道府県	自治体名	(1) 万博参加国・地域のナショナルデーのイベント参加、パビリオンの準備・運営等に関係者との交流	(2) 万博参加国・地域の関係者との交流	(3) 万博の企画・運営等に関わる日本人等との交流
滋賀県	-	検討中	姉妹友好州省等と交流	検討中
京都府	-	各国領事館協力の下、・京都友好提携州省大学サミット(大学生討論会、京都宣言、万博で紹介)・京都府友好提携7州省ダンスパフォーマンス(万博会場)	・討論会を通じて大学生間の交流 ・ダンスパフォーマンスを通じて学生間及びそれぞれの地域住民との交流	・討論会を通じて京都の大学と友好提携州省の大学での交流。 ・ダンスパフォーマンスを通じて立命館大学と京都府友好提携7州省の他学生による交流
京都府	亀岡市	招へい国のナショナルデーのイベント参加	関係者を本市に招へいし、市民との交流など	検討中
大阪府	大阪市	現在、交流内容について検討中であり、下記の交流例を想定。	現在、交流内容について検討中であり、下記の交流例を想定。	現在、交流内容について検討中であり、下記の交流例を想定。
大阪府	岸和田市	相手国・地域の訪問団と、パビリオン関係者との日本文化の交流を実施。	相手国・地域へ青少年2名を派遣し音楽を通じた文化交流の実施。派遣前に、相手とオンラインで結ぶコンサートを開催し、日仏の合唱のほか、本市の地域文化の紹介を行う。	左記コンサートの際、協賛企業の方々も参加し、相手国・地域の方との交流を行うとともに、コンサートに参加している本市青少年との交流を実施。他、芸術ワークショップへの協力依頼を検討中。
大阪府	豊中市	姉妹都市・アメリカのサンマテオ市の少年野球チームを万博会場に招待	検討中	検討中
大阪府	枚方市	本市の海外友好都市との交流	本市独自の取り組み「英語村」の拡充	上記同様、既存のメタバース空間を拡充し、その中で交流を図る。

Q.4「万博国際交流」で検討している事業の具体的な内容を下記項目ごとにご記載ください。

⑤

都道府県	自治体名	(1) 万博参加国・地域のナショナルデーのイベント参加、パビリオンの準備・運営等に関わる者との交流	(2) 万博参加国・地域の関係者との交流	(3) 万博の企画・運営等に関わる日本人等との交流
大阪府	八尾市	検討中	地域の関係者、青少年を万博パビリオンへ招待	検討中
大阪府	松原市	相手国とのプレイベントの共同開催 など	相手国内の学校との連携（交換訪問留学等） など	TEAM EXPO 2025 プログラムにおける共創パートナー・共創チャレンジに登録されている企業や、協賛企業との取組
大阪府	箕面市	東京のメキシコ大使館との交流	メキシコ クエルナバカ市にあるモレロス州自治大学で日本語を学んでいる学生との交流	検討中
大阪府	羽曳野市	パビリオンやナショナルデーの詳細に応じて、関係者との対面交流等を検討する	現地の学生等とオンライン交流等を検討する（詳細は未定）	検討中
大阪府	泉南市	フィリピン共和国ナショナルデーへの参加	小中学校のオンライン交流会の開催、経済・貿易面での交流会の実施	共創チャレンジに共同で取り組む企業を含む複数企業との連携
大阪府	交野市	コリングウッド市から訪問団を招き、当該訪問団を万博会場に連れて行く	検討中	検討中
兵庫県	神戸市	リガ市訪問団が神戸市を訪問した際、リガ市およびラトビア大使館とともに、ラトビアおよび万博に関連したプレイベントを開催するとともに、神戸市関係者との交流を行う。	神戸市から市内企業を含む訪問団をリガ市へ派遣する。現地でビジネス交流、リガ市関係者への表敬などを行う。	上記（1）にて、関係の日本人との交流を行う（ただし、ラトビアのパビリオンにおいて、運営等に携わる日本人がいるかは不明）

Q.4「万博国際交流」で検討している事業の具体的な内容を下記項目ごとにご記載ください。⑥

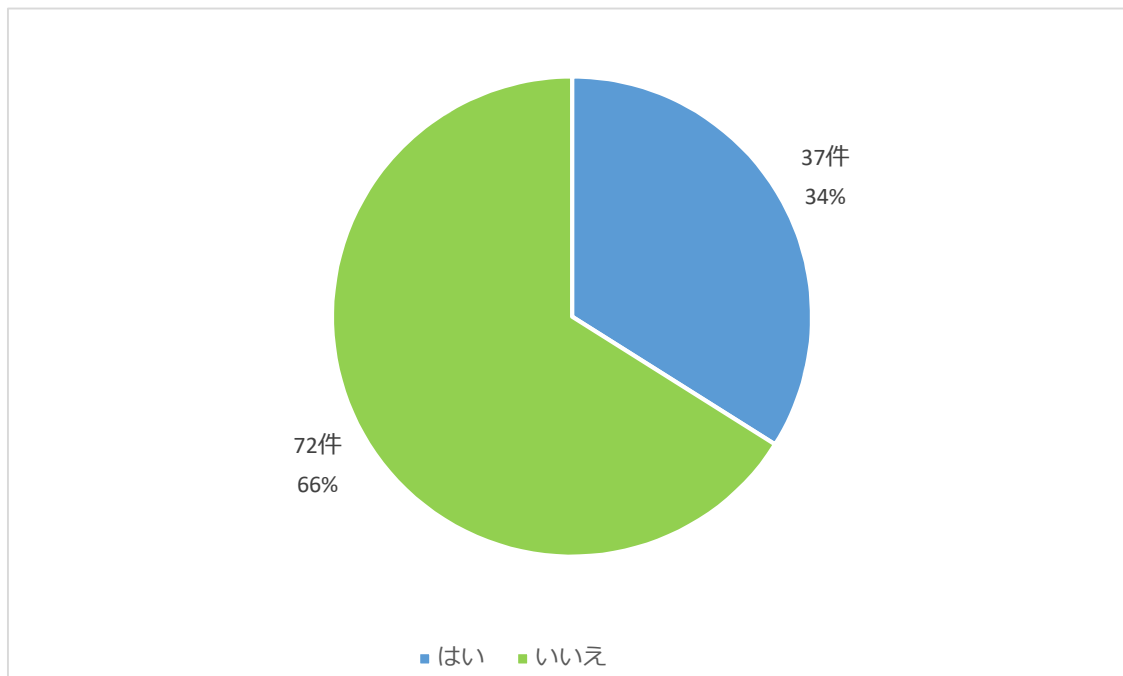
い。⑥

都道府県	自治体名	(1) 万博参加国・地域のナショナルデーのイベント参加、パビリオンの準備・運営等に関わる者との交流	(2) 万博参加国・地域の関係者との交流	(3) 万博の企画・運営等に関わる日本人等との交流
兵庫県	豊岡市	豊岡演劇祭における連携事業	豊岡演劇祭における連携事業	豊岡演劇祭における連携事業
兵庫県	南あわじ市	①参加国・地域のナショナルデー等に合わせて、派遣団を迎え交流イベントを開催する。【アメリカ・セライナ市】	①万博期間中に姉妹都市から派遣団を迎え、記念行事を開催する。【アメリカ・セライナ市】	①②③④相手国との相互理解を深めるため、関係者へのヒアリングや交流イベントを開催する。【各国・地域】
岡山県	-	検討中	青少年訪問団の相互派遣	検討中
岡山県	津山市	検討中	オランダ王国フローニンゲン大学の学生	検討中
広島県	三原市	検討中	外国文化からの学び（中・高校生を対象としたニュージーランド文化（マオリ文化）の紹介イベント）	検討中
山口県	山口市	市内の着物リメイク事業者が協力し、服飾専攻学生等による和柄のデザインを使用したフラメンコ衣装を作成。万博でのナショナルデーや市内交流イベントでのスペイン側の舞踏家と山口市のフラメンコ愛好家、学生が共同出演	市内のイベントでスペイン側の舞踏家と山口市のフラメンコ愛好家・学生が作	検討中

Q.4「万博国際交流」で検討している事業の具体的な内容を下記項目ごとにご記載ください。⑥

都道府県	自治体名	(1) 万博参加国・地域の ナショナルデーのイベント参 加、パビリオンの準備・運営 等に関わる者との交流	(2) 万博参加国・地域の 関係者との交流	(3) 万博の企画・運営等 に関わる日本人等との交流
高知県	-	各国領事館協力の下、以下 について実施。	・討論会を通じて大学生間の 交流	・討論会を通じて立命館大学 をはじめ京都の大学と友好提 携州省の大学での交流。
大分県	-	各国領事館協力の下、以下 について実施。	・討論会を通じて大学生間の 交流	・討論会を通じて立命館大学 をはじめ京都の大学と友好提 携州省の大学での交流。

Q.5「万博国際交流」に参加するにあたり、交流相手先との交渉・調整等のため、自治体職員が海外渡航することを想定していますか。



※「万博国際交流」に参加するにあたり、交流相手先との交渉・調整等のため、海外渡航しての交渉・調整を行う予定がある自治体は約 3 分の 1 であった。

その内容については次ページ以降にまとめる。

Q6.「万博国際交流」で検討している事業の具体的な内容を下記項目ごとにご記載ください。①

(※金額の単位は千円)

都道府 県名	自治体 名	(1) 報償費 (例：講師、交 流コーディネ ータ、通訳者への謝 礼等)	(2) 旅費 (例：職員、自 治体関係者の渡 航、万博・相手国 関係)	(3) 需用費 (例：交流事業 に係る郵便料、 電信料、運搬 料、保険料、手 数料)	(4) 役務費 (例：交流事業 に係る郵便料、 電信料、運搬 料、保険料、手 数料)	(5) 委託料 (例：交流事業 に係る委託料)	(6) 使用料及 び賃借料(例： 会場使用料、マ イク使用料、器 械類等の動産の 借上料)
岩手県	釜石市	検討中	検討中	消耗品費 90	通信運搬費 10 振込手数料 2 火災保険料 54	委託料 10,223	コピー使用料 50
宮城県	亘理町	報償費、委託 料、手数料、需 用費、旅費等	未定	未定	未定	未定	未定
秋田県	横手市		・現地関係者打 合せ旅費(職 員) 600・交流 事業台湾関係者 (学生、引率 者)の招聘に係 る旅費 2,000	・各種消耗品 200		・交流事業開催 委託 2,200	
茨城県	境町	通訳費 4,200	渡航費 38,400	消耗品費 100	保険料 960	委託料 9,000	車両借上料 240
栃木県	那須塩 原市	通訳謝金 300 交流報償費 500	旅費 5,000(渡 航費、宿泊費、 移動費)	備品 500	保険・手数料 300	委託料 2,000(交流委 託業務)	会場使用料 500 音響使用料 200
埼玉県	入間市					短期語学留学全 般にかかる委託料 10,000	
千葉県	横芝光 町	通訳謝金 10、講 師謝礼 60、演奏 会出演料 430	職員日当 126、 講師交通費 30	消耗品費 145、 パビリオン関係者 用食糧費 3、文 化交流用賄材料 費 26、印刷製本 費 350	旅行保険料 60、 通信運搬費(送 料、システム料) 126	大阪・関西万博 体験会 1100、ペ リーズ訪問 2600、バス手配 料 330	会場使用料 550

Q6.「万博国際交流」で検討している事業の具体的な内容を下記項目ごとにご記載ください。

い。②

(※金額の単位は千円)

都道府 県名	自治体 名	(1) 報償費 (例：講師、交 流コーディネ ータ、通訳者への謝 礼等)	(2) 旅費 (例：職員、自 治体関係者の渡 航、万博・相手国 関係)	(3) 需用費 (例：交流事業)	(4) 役務費 (例：交流事業 に係る郵便料、 電信料、運搬 料、保険料、手 数料)	(5) 委託料 (例：交流事業 に係る委託料)	(6) 使用料及 び賃借料(例： 会場使用料、マ イク使用料、器 械類等の動産の 借上料)
富山県	-	寿司職人、和菓 子職人謝金(1 人5万円) 100 現地通訳 雇用 1人×2 日間 80	寿司職人、和菓 子職人、とやま観 光推進機構、県 職員計4名分の アイルランド渡航 費用 1400	食材、容器・カト ラー 100 メニュ ー、寿司・和菓子 説明パンフレット 製作費 100	送料など一式 90		会場借り上げ 100 アイルランド での移動費 30
石川県	-	謝金 1000	自治体関係者の 渡航費 10000 相手国関係者の 招聘にかかる旅費 6000	0にのみ使用する 消耗品費)		交流事業にかかる 委託料 10000	会場、音響設備 等借上料 3000
石川県	志賀町	200(コーディネ ータ 100、通訳 100)	1,800(渡航費 300×2人×2 回、関係者招聘 300場×2人)	200	500(運搬料)	800(委託料)	500(借上料)
愛知県	美浜町	ホストタウン推進 事業講師謝礼 50				ホストタウン推進 事業委託料 300	
長野県	長野市		1,454				
静岡県	静岡市	訪問時の土産代 及び歓迎時の土 産代 155/1か 国×3か国= 465	航空賃、国内移 動費、現地移動 費等 10,875(相 手国学生 20人 分+引率3人、 3泊4日を想 定)/1か国×3 か国=32,625	食糧費(実務団 や知事団との意 見交換会、歓迎 レセプション) 862/1か国×3 か国=2586	通訳料、看板制 作費等 560/1 か国×3か国= 1680	交流イベント実施 委託料 900/1 か国×3か国= 2700	会場借上げ料、 バス借上げ料 1,145/1か国× 3か国=3,435

Q6.「万博国際交流」で検討している事業の具体的な内容を下記項目ごとにご記載ください。③

(※金額の単位は千円)

都道府 県名	自治体 名	(1) 報償費 (例：講師、交 流コーディネ ータ、通訳者への謝 礼等)	(2) 旅費 (例：職員、自 治体関係者の渡 航、万博・相手国 関係)	(3) 需用費 (例：交流事業 に使用する消耗品 費)	(4) 役務費 (例：交流事業 に係る郵便料、 電信料、運搬 料、保険料、手 数料)	(5) 委託料 (例：交流事業 に係る委託料)	(6) 使用料及 び賃借料 (例： 会場使用料、マ イク使用料、器 械類等の動産の 借上料)
静岡県	熱海市	検討中	職員旅費 500	交流事業にのみ 使用する消耗品 費 50	検討中	交流事業に係る 委託料 5,000	検討中
静岡県	富士市	通訳者への謝礼 100	相手国関係者の 招聘に係る経費 1000	消耗品費 100	通信費 100	交流事業に係る 委託料 3,000	交流機械類使用 料 100
静岡県	牧之原 市	通訳謝礼 500 (250×2名)	市職員の渡航 700 (350×2 名) // 宿泊費 100 (25×2泊 ×2名) // 日当 他 100 (50×2 名)	交流事業にのみ 使用する消耗品 費 100 (歓迎横 断幕、手旗等)	交流事業に係る 運搬料 180 (サ ーフボード)、保 険料 20 (体験 イベント時)	交流事業に係る 委託料 2,000 (民間業者)	イベント会場借上 料 1,000 (静 波サーフスタジア ム)、体験会寺 院借上料 300 (石雲院)
愛媛県	稲沢市	通訳者の謝礼： 200	招聘に係る旅 費：2,500 職 員、自治体関係 者の旅費：500	交流事業にのみ 使用する消耗品 費：200	郵便料：100 電 信電話料：200 保険料：100 手 数料：500	交流事業に係る 委託料：500	会場使用料： 100 マイク等設 備使用料：100
三重県	名張市	通約報償費 700	旅費 6,720 日 本－フィリピン航 空券等	需用費 311 冊 子、講演会消耗 品、交流消耗品 として	役務費 580 保 険、旅程管理経 費等	委託料 1,447 旅券、ホテル予約 その他大学との交 流事業の一部委 託費用	使用料及び賃借 料 605,000 円フ ィリピン、日本国 内における車両等 使用料等講演会 場使用料等
三重県	多気町	500	500	500	200	1000	500

Q6.「万博国際交流」で検討している事業の具体的な内容を下記項目ごとにご記載ください。④

(※金額の単位は千円)

都道府 県名	自治体 名	(1) 報償費 (例：講師、交 流コーディネ ータ、通訳者への謝 礼等)	(2) 旅費 (例：職員、自 治体関係者の渡 航、万博・相手国 関係)	(3) 需用費 (例：交流事業 に係る郵便料、 電信料、運搬 料、保険料、手 数料)	(4) 役務費 (例：交流事業 に係る郵便料、 電信料、運搬 料、保険料、手 数料)	(5) 委託料 (例：交流事業 に係る委託料)	(6) 使用料及 び賃借料(例： 会場使用料、マ イク使用料、器 械類等の動産の 借上料)
京都府	-	通訳謝金 1,600 会議の通 訳 50×6 カ国× 3 人・案内通訳 50×7 人×2 日	旅費 28,000	備品 100	保険料、手数料 100 運搬料 2,100	委託料 3,000	会場使用料 1000 同通ブース 1,000 バス代 2,100
京都府	亀岡市	通訳謝金 1,920 (15/h×4h×8 日×4 カ国) 記 念品 200 (50 ×4 カ国)	相手国関係者の 旅費 2,800 (20×7 泊×5 人×4 カ国)	200 (50×4 カ 国)	郵送料 30 翻訳 200 (50 ×4 カ 国)	レセプション等委 託料 1,200 (300 ×4 カ 国)	会場使用料 200 (50×4 カ 国) 入場料 400 (100×4 カ 国) 有料道路使 用料 160 (40×4 カ国)
大阪府	大阪市	20000+α (検 討で増額予定)	検討中	検討中	検討中	検討中	検討中
大阪府	岸和田 市	オンライン交流時にお ける通訳者への謝 礼：100 コンサート 制作に伴う指揮者ピ アニスト等への講師 謝礼：300	職員日当：37	記念品等消耗品 費：50 コンサート・ 芸術ワークショップ関 係消耗品費：50 常設看板製作費： 100	コンサート舞台裏方 人件費 (リハ・本 番)・立て看板作成 手数料：200	派遣に伴う航空券・ 宿泊・通訳等委託 料：3,500 コンサ ート開催に伴うオンラ イン通信関係業務 等委託料：2,000	関空施設使用料： 7
大阪府	豊中市		4,000				
大阪府	吹田市					4,000 (通訳者 への謝礼、翻訳 料等を含みます)	
大阪府	枚方市	通訳謝金 400	渡航費 900	備品 500	運搬費 200	委託料 1,500	会場使用料 500
大阪府	松原市	1000	1000	500	100	1200	200

Q6.「万博国際交流」で検討している事業の具体的な内容を下記項目ごとにご記載ください。

い。⑤

(※金額の単位は千円)

都道府 県名	自治体 名	(1) 報償費 (例：講師、交 流コーディネー タ、通訳者への謝 礼等)	(2) 旅費 (例：職員、自 治体関係者の渡 航、万博・相手国 関係)	(3) 需用費 (例：交流事業 に係る消耗品費)	(4) 役務費 (例：交流事業 に係る郵便料、 電信料、運搬 料、保険料、手 数料)	(5) 委託料 (例：交流事業 に係る委託料)	(6) 使用料及び 賃借料 (例：会場 使用料、マイク使用 料、器械類等の動 産の借上料)
大阪府	羽曳野 市	講師謝礼 250 通訳者謝礼 250	自治体関係者の 渡航費 500 相 手国関係者の招 聘に係る旅費 2500	交流事業に係る 消耗品費 1,000	通信運搬費 1000	交流事業に係る 委託料 3,000	会場使用料 1000 物品等の賃借料 1000
京都府	泉南市	通訳者への謝礼 200	渡航費 800		保険料 500	交流事業に係る 委託料 6,500	
大阪府	泉南市	通訳者への謝礼 200	渡航費 800		手数料 500	交流事業に係る 委託料 6500	
大阪府	交野市					姉妹都市交流事 業実施業務委託 料 400	
兵庫県	神戸市		リガ訪問旅費関 連 3000	イベント物品購入 費 8000		海外視察関連委 託費 4000	会場使用料 1500
兵庫県	豊岡市	通訳謝金 200	職員及び自治体 関係者等の渡航 1,000、万博・相 手国関係者の招 聘に係る旅費 1000	交流事業にのみ 使用する消耗品 費 100	交流事業に係る 郵便料、電信 料、運搬料、保 険料、手数料 300	交流事業に係る 委託料 2,000	会場使用料 500
兵庫県	三木市	フランスでのコー ディネーター500	職員 2 人の渡航 費 400 宿泊費 250 現地移動 費 30	交流に係る地域 特産品 100	保険料 未定	交流事業に係る 委託料 500	フランスでのイベ ント 会場使用料 未定
兵庫県	南あわ じ市	通訳謝金 500 コーディネーター謝 金 500	自治体関係旅費 1000 相手国関 係者旅費 250	消耗品費 70	保険料 50 車借 上料 500 通信 料 50	委託料 1000	会場等使用料 500

Q6.「万博国際交流」で検討している事業の具体的な内容を下記項目ごとにご記載ください。

い。⑥

(※金額の単位は千円)

都道府 県名	自治体 名	(1) 報償費 (例：講師、交 流コーディネー タ、通訳者への謝 礼等)	(2) 旅費 (例：職員、自 治体関係者の渡 航、万博・相手国 関係)	(3) 需用費 (例：交流事業)	(4) 役務費 (例：交流事業 に係る郵便料、 電信料、運搬 料、保険料、手 数料)	(5) 委託料 (例：交流事業 に係る委託料)	(6) 使用料及 び賃借料 (例： 会場使用料、マ イク使用料、器 械類等の動産の 借上料)
奈良県	天理市						
和歌山 県	那智勝 浦町	講師謝礼 200 交流コーディネー ター150 通訳謝金 150					会場使用料 100 機械器具借上料 100
岡山県	-	通訳謝礼 500	渡航費 3000	備品 300	運搬費 300	委託料 1500	会場使用料 400
山口県	宇部市	講師謝礼 60 記 念品料 100		業務用消耗品費 54 食糧費 520	筆耕翻訳料 440		会場借上料 340 自動車借 上料 630 駐車 場使用料 2 通 行料 44
山口県	山口市	講師謝礼 R6100、R7 100 交流コーディネー ターR6 300、 R7300 通訳者へ の謝礼 R6 200、 R7200 招聘者へ の謝礼 R6 100、 R7100	職員、事業者の 渡航 R6 1,200、R7 1,200 万博・相 手国関係者の招 聘に係る旅費 R6 1,200、R7 3,600	消耗品費 R610、R7 300 印刷費 R6 200、R7 200	郵便料 R6 50、 R7 200 保険料 R6 20、R7 50 手数料 R6 20、 R7 50	交流事業に係る 委託料 R6 1,700、R7 3,000 運営・設 営に係る委託料 R61,000、 R71000	会場使用料 R6400、R7 600 機器類等の 借上料 R6 100、R7200
香川県	小豆島 町	講師、招聘シェ フ、通訳者への謝 礼等 (500)	職員、関係者の 渡航、相手国関 係者旅費 (2,000)	交流事業にのみ 使用する消耗品 費、食糧費等 (500)	交流事業に係る 通信運搬費、手 数料等 (200)	交流事業に係る 委託料 (500)	会場、機材等の 借上料 (300)
愛媛県	新居浜 市	通訳謝金 250	旅費 (特別旅 費、費用弁償) 1500	0	通信運搬費 500 、手数料 250	業務委託料 1000	会場使用料 500

Q6.「万博国際交流」で検討している事業の具体的な内容を下記項目ごとにご記載ください。⑦

(※金額の単位は千円)

都道府 県名	自治体 名	(1) 報償費 (例：講師、交 流コーディネー タ、通訳者への謝 礼等)	(2) 旅費 (例：職員、自 治体関係者の渡 航、万博・相手国 関係)	(3) 需用費 (例：交流事業)	(4) 役務費 (例：交流事業 に係る郵便料、 電信料、運搬 料、保険料、手 数料)	(5) 委託料 (例：交流事業 に係る委託料)	(6) 使用料及 び賃借料(例： 会場使用料、マ イク使用料、器 械類等の動産の 借上料)
高知県	-	300	4,000	0	0	4,000	300(車借り上 げ)
高知県	須崎市	通訳謝金 200	渡航費 1000	備品 100	運搬費 100	委託費 500	会場使用料 200
高知県	須崎市	通訳謝金 200	渡航費 200	備品 100	運搬費 100	委託費 500	会場使用料 200
大分県	-	0	職員の渡航費用 500	0	0	交流事業に係る 委託料： 3,000	報告会会場費 用・備品使用料 等：500
大分県	別府市	100	3000	0	100	0	0

令和6年度以降、万博国際交流への参加に「興味がある」「検討中」と回答があった自治体120のうち約70自治体、およそ6割の自治体が、具体的な交流内容は未定と回答があった。

3. 成果のとりまとめ

(1) 調査対象自治体内への波及効果

各調査対象自治体が実施した各イベントにて、イベントのチラシ等広報ツールに万博やミyakumaのロゴをいれる、会場内での万博のポスター掲示、配布等の周知活動を実施し、イベントに参加する地域住民に対して、大阪・関西万博の認知度向上に努めた。

地域住民が積極的に参加できるイベントを実施することで、大阪・関西万博に対する認知度の向上だけでなく、万博国際交流プログラムに対する地域住民の理解も得られ、次年度以降も継続して実施して欲しいという声が上がった自治体も多数あった。

交流開始前、調査対象自治体内の地域住民は、大阪・関西万博について知ってはいるが、万博に参加する意欲がある人はほとんどいなかった。しかし、各自治体の交流イベントに参加した多くの地域住民は、その後のアンケートにて、万博会期中に相手国と交流や関わりを持てる場があれば参加することに前向きであると回答している。このことから、地域住民の国際交流に関する関心の高さがうかがえるため、万博会場内で具体的にどのようなことが行われるのか想像を喚起することができれば、住民の関心の高い国際交流という観点から紐解くことで、地域住民の前向きな万博参加を促すことができる。

(2) 実施により達成できた成果

国際交流を開始・再開するにあたっての取組モデルを開発

国際交流を開始・再開するにあたって自治体が抱える課題や、各自治体の状況に応じた国際交流の始め方、再開の方法を横展開できる先導的事例になる取組モデルができた。

事前に実施した万博国際交流需要調査アンケートの結果から見えてきた、自治体が万博国際交流に参加しない主な理由に対する解決策を提示できるような交流事例が見られた。

万博国際交流に参加しない主な理由	解決策を提示できる自治体例
国際交流に関するノウハウを有した人材が不足しているため。	北海道浦幌町 (事業者との連携をうまく導入)
姉妹都市交流やホストタウン交流など、現状の国際交流で満足しているため。	山形県村山市 (ホストタウン交流からの発展)
言語の問題があるため。	長野県宮田村 (自動翻訳機の導入)

万博国際交流プログラムに参加することへの意識向上

事前に実施した万博国際交流需要調査アンケートの結果から見えてきたその他の課題として、万博国際交流プログラムに対する具体的なイメージが浮かばないという声が多数あった。

一方で、本年度の調査対象自治体は、既存の交流を発展させて実施した自治体が多く、そのことを他の自治体にも広く知らせることで、「万博国際交流プログラムに興味はあるが、具体的なイメージが浮かばない」自治体の参加を促進することができる。

具体例：

- ・山形県村山市×ブルガリア
- ・長野県駒ヶ根市×ネパール

(万博国際交流プログラムに参加したことで、交流に係る予算の問題も解決し、
例年よりも大規模な交流が実施可能になった。)

- ・大阪府泉南市×フィリピンダバオ市
- ・島根県海士町×ブータン

地域の未来を担う若者の国際感覚の涵養

本年度の調査対象自治体の中には、若者の交流を中心に実施した自治体が多数あった。若者間交流を実施した調査対象自治体の多くは、本年度の大きな成果として、「地域の未来を担う若者に対して相手国の文化を体験・理解する場を提供し、国際交流に興味を持たせるきっかけを与えることができた」ことを挙げている。

このことは、需要調査のアンケートにて、万博国際交流プログラムの必要性を感じていないと回答した自治体に対して、プログラムへの参加を検討させることができる重要な成果であると考えられる。

何故なら、地域社会の発展のために、若者の国際感覚の涵養を課題と考える自治体は多数存在する。万博国際交流プログラムでは、文化交流という身近な交流から始まった若者間の交流を、他の分野での国際交流、ひいては地域の若者の国際社会への参画まで発展できる可能性がある。

（３）相手国への波及効果

各調査対象自治体は、相手国を訪問した際に万博のポスター掲示、配布等の周知活動を実施し、交流相手国に対しても、大阪・関西万博の認知度向上に努めた。

相手国訪問時に、当日の万博会場でも本年度の交流を発展させて、何か一緒にイベントを実施したいと伝えると、前向きな回答を得られる場合が多く、本年度の万博国際交流プログラムは、相手国の万博参加への意欲の向上にも繋がった。

次年度以降は、相手国側からも交流自治体へ訪問してみたいという声上がり、相手国の交流自治体への訪問意欲醸成がみられた。万博当日も、万博会場での交流だけではなく、交流自治体をフィールドとした交流の可能性を感じることができた。

（４）大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与

内閣官房の万博国際交流プログラムは、大阪・関西万博を契機としたレガシーの創造において極めて重要な役割を果たしている。このプログラムは、万博期間中に国際的な交流を促進し、異文化間の理解と連携を深めることができ、地域の未来を担う若者の国際感覚の涵養、地域の魅力の再発見、住民間の結びつきの強化、地域産業の活力増強などを目的としている。そのレガシー創造への寄与は多岐にわたり、以下に詳細に説明する。

1. **国際的な交流の促進：**内閣官房の万博国際交流プログラムでは、世界各国からの参加者が集結し、万博期間中にさまざまな文化や技術の交流が行われる場を提供する。これにより、国際社会がさらに結束し、共通の課題に対する解決策を模索する機会が増える。また、異なる国々や地域の人々が相互に理解を深めることで、国際的な平和と安定に寄与する。
2. **地域経済へのプラスの影響：**大阪・関西万博を契機とする国際交流プログラムは、地域に海外からの訪問者の流入をもたらす。これにより、地域のホテル、レストラン、交通機関などの観光関連産業が活況を呈し、地域経済にプラスの影響を与える。さらに、万博期間中に結ばれる新たなビジネス取引や産業連携は、地域経済の発展に寄与する。
3. **青少年の国際交流と教育の機会の拡大：**内閣官房の万博国際交流プログラムは、青少年向けの国際交流プログラムを積極的に推進する。これにより、青少年は他国の文化や社会システムに触れる機会を得ると同時に、異なる視点からの学びを得ることができる。また、万博期間中に開催される国際教育イベントやワークショップは、国際感覚の涵養や将来のリーダーの育成に貢献する。
4. **持続可能な開発への貢献：**大阪・関西万博を契機とした国際交流プログラムでは、持続可能な開発目標（SDGs）の推進にも貢献する。万博開催に向けて行われる国際的なディスカッ

ションやイベントは、万博のテーマや SDGs、環境保護などの重要な課題に焦点を当て、解決策の模索や共同プロジェクトの促進を通じて、地球規模の課題に取り組む。

5. **文化交流の促進：**内閣官房の万博国際交流プログラムは、文化交流を通じて異なる文化の豊かさを称賛し、日本の自治体や、地域の魅力の再発見、住民間の結びつきの強化にも取り組む。万博期間中に実施される文化イベントや展示は、世界各地の文化を紹介し、国際的な理解と尊重を促進する。

6. **国際的な協力と連携の強化：**大阪・関西万博を契機とした万博国際交流プログラムは、世界各国との協力関係を強化し、草の根交流で作られる国際的なネットワークやパートナーシップは、将来の国際政治や経済の舞台での協力関係を築く基盤となる。

7. **地域の認知度向上と観光や地域産業の振興：**大阪・関西万博を契機とした国際交流プログラムは、地域の認知度を向上させ、観光や地域産業の振興に貢献します。万博期間中に地域の魅力や観光資源が国際的にアピールすることで、地域の観光産業が成長し、地域経済の発展に寄与する。

以上のように、内閣官房の万博国際交流プログラムは、大阪・関西万博を契機としたレガシーの創造において多大な寄与を果たしている。国際的な交流の促進、地域経済へのプラスの影響、若者の教育機会の拡大、持続可能な開発への貢献、文化交流の促進と文化の保護、国際的な協力と連携の強化、そして地域の認知度向上と地域産業の振興といった点で、多角的な側面から大阪・関西万博を契機としたレガシー創造へ貢献していると考えられる。

（５）他の自治体への普及・展開方策について

交流事業実施にあたっての過程の評価

今回のモデル事業を自治体の規模、交流手段、交流参加者の属性、交流テーマ等に分類し、交流事業の目標達成度、参加者満足度、地域活性化効果などを具体的かつ客観的に評価する指標を設定する。また、地域住民や団体との協力関係の構築や、地域の文化や歴史との調和等、地域社会のニーズや期待に応えるための適合性を鑑みて類似事例を展開し、他自治体への普及を図る。

（参考１）交流テーマ別_調査対象自治体事例

事業の達成に向けた実施体制

万博国際交流を実施した他自治体との協力関係を構築し、共通の課題について相談や意見交換ができる場、成功事例やノウハウを共有する機会を創出する。また、日本及び相手国の万博関係者や地元政府、民間企業、NGO、地域団体等のパートナーシップを構築する等、展開先自治体での体制構築が肝要である。

万博閉会後の事業継続性

以下の３つの観点から万博閉会後の事業継続性が考えられる。また、2027年の横浜国際園博覧会や2030年のSDGsゴールに向けて継続的な国際交流の機会があり、国際交流を継続することで地域活性化、関係人口の創出に寄与することができる。

１．地域資源の活用：

地域の資源を活かし、地元の文化や伝統、産業、観光資源などを活用した交流プログラムを実施、地域の魅力を発信することで、参加者や参画団体との事業継続性を確保できる。

2. パートナーシップの構築と資金調達の多様化：

他自治体や国際機関、民間企業、NGO などとのパートナーシップを構築することで、資金調達の多様化を図ることが可能となり、事業の持続性を高めることができる。

3. 教育・啓発活動の強化：

グローバル社会での人材育成の観点から、地域住民や関係者、若者への教育・啓発活動を強化することは重要であり、国際交流の重要性や価値を理解し、地域コミュニティに国際視野を持たせるための取り組みが必要である。学校や地域団体を巻き込んだ教育・啓発活動を通じて、国際交流の継続が次世代の人材育成に繋がることの理解を促す。

(参考1) 交流テーマ別_調査対象自治体事例

① 子どもの教育機会の提供		
自治体名	交流テーマ詳細	自治体の規模
京都府	高校生、大学生による文化交流	府県
徳島県	双方の伝統芸能を通じた学生間の文化交流	府県
大分県	双方の海洋問題をフックに小学生に対するワークショップを実施	府県
大阪府泉南市	小学生同士のオンライン交流	市級
北海道浦幌町	浦幌町独自の教育スタイル「うらほろスタイル」をマリ共和国に紹介	町村級
長野県宮田村	双方の中学生が現地を訪問し、交流を実施	町村級
島根県海士町	相手国の学生と一緒に地域課題解決型学習や、探求型学習の実施	町村級

② 地域資源の活用		
自治体名	交流テーマ詳細	自治体の規模
富山県	富山米「富富富」の魅力発信	府県
山形県村山市	地域特産品「バラ」の魅力発信	町村級

③ 既存の交流の継続と発展		
自治体名	交流テーマ詳細	都市の規模
大阪府松原市	セーフコミュニティ事業の発展	市級
埼玉県狭山市	姉妹都市交流の再開	市級
長野県駒ヶ根市	JICA 草の根技術協力事業の発展	町村級

④ 相手国の文化を核とした文化交流（異文化理解）		
自治体名	交流テーマ詳細	都市の規模
石川県	全羅北道の伝統芸能の発信と体験	府県
鹿児島県	ベトナムの伝統文化の発信と体験	府県
大阪府堺市	チェコの伝統文化の発信	中核市級
北海道浦幌町	マリ共和国の文化・スポーツの発信と 体験	町村級

⑤ ビジネス交流		
自治体名	交流テーマ詳細	都市の規模
大阪府東大阪市	アフリカビジネスフォーラムの開催	中核市級
大阪府吹田市	健康医療シンポジウムの実施	中核市級

